監視ニ關スル規則ニ違背スルモ全ク之ヲ處罰スル能ハサルナリ故ニ寧ロ本條ノ監視ヲ廣義ノ監視ナリト解釋スルコト適當ナルニアラスヤト余輩モ亦刑法ノ題目カ解釋ノ根據トナスニ足ラサルコトヲ信スレトモ同時ニ全ク解釋ノ根據トナシ得ヘカラサルモノニアラスト信ス況ヤ特別監視ノ違背ニ關スル法條ノ有無ノ如キハ法律ノ解釋上重要ナル事項ニアラサルニ於テオヤ學者トシテノ余輩ハ特別監視ノ違背ニ關スル法條ナキコトハ刑法上重大ナル不權衡ナルヲ知了スルニ拘ハラス之ヲ法律ノ不備ニ歸シ尚ホ自說ヲ固守セントス是レ實際ノ結果ニ拘泥セスシテ公平ニ立論スルコトハ學者ノ本分ナルヲ以テナリ

本罪ハ監視規則ニ違背シタル行爲ナリ所謂監視規則ト云フハ被監視人カ遵守スヘキ規則ノ意義ニシテ刑法附則第二章中第二十七條其他ニ規定シタル事項ナリトス而シテ其一事項ニ違背シタル行爲ハ本罪ヲ成立セシムルニ足ルト雖モ同時ニ其數個ノ事項ニ違背シタルトキハ多クハ連續犯トシテ本罪ノ一個ヲ成立セシムルモノトス

本罪ニ對スル刑ハ十五日乃至六月ノ重禁錮ナリ本罪ニ付テモ亦同一ノ監視期間

私ニ軍用ノ銃礮、彈藥ヲ製造又ハ所有スル罪及ヒ其科刑 總論

內之ヲ累犯シタルトキニアラサレハ累犯ニ依ル加重ヲ爲サヽルコト恰モ既決囚逃走罪又ハ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者カ公權ヲ行使スル罪ト同シ

第六節　私ニ軍用ノ銃礮、彈藥ヲ製造又ハ所有スル罪及ヒ其科刑

第一款　總論

本節ノ罪ハ軍用ノ銃礮及ヒ破裂物ヲ製造、輸入、販賣又ハ所有スル行爲ニ關ス然ルニ刑法カ本節ノ題目ニ於テハ單ニ製造、所有ノミヲ規定シ輸入、販賣ヲ明記セサルハ不當ナリト謂フヘシ況ヤ劈頭ニ私ニト云フ副詞ヲ冠スルニ於テオヤ刑法ハ私ニト云フ副詞ニ依リ官命ヲ受ケス又ハ免許ヲ受ケスシテ爲シタル行爲ニ關スルコトヲ表ハサントシタルモノナルヘシト雖モ法令ニ依リ又ハ正當ノ業務ニ依リ爲シタル行爲ハ罪ト爲ラサルコトハ刑法上不文ノ大原則ニシテ本節ノ罪ニモ自ラ其適用ヲ見ルヘキモノナリ然ラハ刑法カ其節目ニ於テ私ニト云ヒ又各本條ニ於テ官命ヲ受ケス又ハ免許ヲ受ケスシテト規定シタルハ畢竟徒勞ニアラサルナキカ

本節ノ罪ニ牽聯シテ明治三十二年八月法律第百號銃砲火藥類取締法及ヒ明治十七年十二月第三十二號布告爆發物取締罰則アリ

銃砲火藥取締法第一條ニ曰ク本法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及ヒ非軍用銃砲ヲ謂ヒ火藥類ト稱スルハ火藥、雷管、導火線其他ノ爆發質ノ物品ヲ謂フト規定シ同第二條ニ於テハ軍用銃砲及ヒ火藥類ハ官廳ノ委任ヲ受ケタル者ニアラサレハ之ヲ製造又ハ輸入スルコトヲ得ス但火藥商及ヒ特ニ官廳ノ許可ヲ受ケタル者ノ火藥類ノ輸入ハ此限ニ在ラスト規定シ同第十四條ニハ第二條ニ違背シタル者ハ刑法第百五十七條及ヒ第百六十一條ニ依リ處斷シ其未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷スト規定シ同第十九條第二項ニハ明治十七年第三十二號布告爆發物取締罰則ハ本法ノ爲メ其效力ヲ妨ケラルヽコトナシト規定ス

明治三十二年八月陸海軍兩省ノ告示ニ曰ク銃砲火藥類取締法第四條ニ依リ軍用銃砲ノ種類ヲ左ノ通リ定ム、軍用銃砲トハ口徑五〔ミリメートル〕以上ニシテ腔綫ヲ施シ且千〔メートル〕以上ノ距離ニ達スヘキ照尺ノ裝置アル銃砲ヲ謂フ但特ニ獵用又ハ射的用ノ爲メ製作シタルモノ及ヒ軍用銃砲ト雖モ陸海軍官衙ニ於テ廢止ノ處分ヲ爲シタルモノハ此限ニ在ラスト

又爆發物取締罰則第一條ニ曰ク治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體又ハ財產ヲ害セントスル目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シ又ハ使用セシメタル者ハ云々ト同第三條ニ曰ク第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造、輸入、所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處スト同第六條ニ曰ク爆發物ヲ製造、輸入、所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者カ第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スル能ハサルトキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加スト同第十二條ニ曰ク本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キモノハ重キニ從テ處斷スト

然ラハ軍用銃砲ノ何タルヤハ陸海軍兩省ノ告示ニ依リテ之ヲ定ムヘク爆發物ニ付テハ其本質ノ上ヨリ軍用及ヒ非軍用ノ區別ヲ爲スヘカラサルヲ以テ實際ニ鑑ミ軍用ノ爆發物即チ破裂物ノ何タルカヲ決定スヘク而シテ軍用ノ銃砲ノ製造其他ニ關シテハ本節ノ規定ヲ適用スヘク非軍用ノ銃砲ノ製造其他ニ關シテハ本節ノ規定ヲ準用スヘク軍用ノ爆發物ノ製造其他ノ行爲カ治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體、

本論　重罪、輕罪及ヒ其科刑　公益ニ關スル重罪、輕罪及ヒ其科刑
靜謐ヲ害スル罪及ヒ其科刑　私ニ軍用ノ銃礮、彈藥ヲ製造又ハ所有スル罪及ヒ其科刑

財産ヲ害セントスル目的ニ出テタルトキハ爆發物取締罰則第三條ノ規定ヲ適用シ前顯ノ目的ニ出テサルコトヲ證明シ能ハサルトキハ同罰則第六條ノ規定ヲ適用シ前顯ノ目的ニ出テサルコトヲ證明シタルトキニ於テ尚ホ本節ノ規定ヲ適用スヘク非軍用ノ爆發物ノ製造其他ニ關シテハ全然爆發物取締罰則ノ規定ヲ適用スヘキナリ

本節ノ罪ハ上述ノ如ク數多ノ特別刑法上ノ罪ト或ハ相重複シ或ハ相補充ス之ヲ刑法ニ存スルハ何等ノ實益ナクシテ却テ解釋ヲ冗煩ニスル弊害アルノミナラス罪ノ性質上寧ロ特別刑法ニ讓ルヲ可ナリトス刑法改正案ハ本節ノ罪ノ全部ヲ擧ケテ特別刑法ニ一任セリ余輩ハ爆發物及ヒ銃砲ノ製造其他ノ行爲ヲ全部刑法ニ一括シテ規定スルコトヲ最良ノ立法ナリト信スト雖モ刑法ノ法制ヨリハ寧ロ改正案ノ全部刪除説ニ左袒セントス少ナクトモ軍用ノ銃砲及ヒ爆發物ハ禁制物ナリ故ニ刑法第四十三條第一號及ヒ第四十四條ノ適用アルコトハ固ヨリ言ヲ俟タス

軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ製造シタル罪及ヒ其科刑

第二款　軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ製造シタル罪及ヒ其科刑

本罪ハ軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ製造スル行爲ノ既遂及ヒ未遂ナリトス軍用ノ爆發物トハ事實上軍用ニ供セラルヽ爆發物例ヘハ火藥、雷管、導火線等ヲ謂フ

本罪ハ或ハ數多ノ雇人ヲ使役シテ之ヲ犯スコトナキニアラス刑法ハ雇人トシテ他人ノ指揮ヲ受ケ本罪ヲ犯シタル者ノ情狀ハ稍〻輕キモノト思斷シ其刑ヲ區別シタリ即チ本罪ノ行爲者ニ對シテハ

(一) 原則　主刑トシテハ二月乃至二年ノ重禁錮ニ處シ附加刑トシテハ二十圓乃至二百圓ノ罰金ヲ科ス

(二) 雇人タル場合ニ於テハ原則トシテ科スヘキ刑ヨリ各二等ヲ減シタル刑ヲ科ス

軍用ノ銃砲又ハ爆發物ノ製造ニ使用シタル器械ハ犯罪ノ用ニ供シタル物ニ外ナラス故ニ刑法第四十三條第二號及ヒ第四十四條ニ依リ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有者ナキトキニ於テハ之ヲ沒收シ得ルコトハ明カナリ然レトモ刑法ハ此種類ノ供用物ノ中ニモ一般ノ處分法ニ委スル能ハサルモノアリトナシ第百六十一條ニ

於テ單ニ軍用ノ銃砲又ハ爆發物ノ製造ニノミ供スヘキ物ニ付テハ除外例ヲ認メ第四十三條ノ但書ニ該ル場合トナシ其所有者ノ何人タルヲ問ハス凡テ之ヲ沒收スルコトヲ得ト規定セリ

軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ輸入シタル罪及ヒ其科刑

第三款　軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ輸入シタル罪及ヒ其科刑

本罪ハ軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ輸入シタル行爲ノ既遂及ヒ未遂ナリトス而シテ本罪ノ刑ハ恰モ軍用ノ銃砲又ハ爆發物ノ製造罪ノ刑ニ同シ即チ行爲者カ雇人ナリシヤ否ヤニ因リ別段ノ刑ヲ科スヘキモノナリ

軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ販賣スル罪及ヒ其科刑

第四款　軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ販賣スル罪及ヒ其科刑

本罪ハ軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ販賣スル行爲ノ既遂及ヒ未遂ナリトス而シテ本罪ニ對シテハ通常ノ場合ニ於テハ主刑トシテ一月乃至一年ノ重禁錮ヲ科シ附加刑トシテ十圓乃至百圓ノ罰金ヲ科シ行爲者カ雇人ナルトキハ通常ノ刑ヨリ各二等ヲ輕減シタル刑ヲ科ス

軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ所持スル罪及ヒ其科刑

第五款　軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ所持スル罪及ヒ其科刑

本罪ハ軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ所持スル行爲ナリ刑法ハ所有シト規定スト雖モ此種ノ物ハ特別ノ認許ヲ受クルニアラサレハ所有權ノ目的物タルコトヲ得サルヲ以テ畢竟其物ヲ支配スル事實即チ所持ヲ謂フノ意味ナルヤ明白ナリ本罪ニ對スル刑ハ二圓乃至二十圓ノ罰金ナリトス

第七節　往來通信ヲ妨害スル罪及ヒ其科刑

第一款　往來妨害ノ罪及ヒ其科刑

第一項　總論

所謂往來トハ交通ノ意味ニシテ往來ヲ妨害スル罪ト云フハ交通ヲ妨害スル行爲ヲ謂フナリ例ヘハ普通ノ往來ヲ妨害スル行爲、瀘車ノ往來ヲ妨害スル行爲及ヒ船舶ノ往來ヲ妨害スル行爲ナリトス然レトモ往來ヲ妨害スル行爲ハ總テ刑法第六節中ニ規定セラレタリト誤解スヘカラス刑法第四百二十六條第五號、第四百二十七條第一號、第四百二十八條第二號及ヒ第四百二十九條第二號、第三號、第四號、第七

號、第八號ニ於テハ違警罪タルヘキ往來妨害罪ヲ規定シ又明治三十三年三月法律第六十五號鐵道營業法第二十五條、第二十八條及ヒ第三十六條ハ往來妨害ノ有無ニ拘ハラス鐵道ノ標識ヲ損壞スル行爲其他ヲ處罰シ明治二十一年十月勅令第六十七號航路標識條例第三條ハ往來妨害ノ有無ニ拘ハラス航路標識ヲ損壞スル行爲其他ヲ處罰シ明治二十三年五月法律第三十八號水路測量標條例第五條乃至第七條ハ往來妨害ノ有無ニ拘ハラス基點標又ハ測量標ノ移轉又ハ毀壞ヲ處罰シタリ

第二項　往來ヲ妨害シタル罪及ヒ其科刑

往來妨害シタル罪及ヒ其科刑

本罪ハ往來ヲ妨害シタル罪ナリト雖モ凡テノ往來妨害罪ヲ規定セスシテ却テ其妨害ノ手段ヲ法定シタリ換言スレハ本罪ハ法定ノ手段ニ依リ往來ヲ妨害シタル行爲ナリ

(一) 道路、橋梁、河溝、港埠ヲ損壞スル行爲　道路、橋梁トハ陸路ヲ謂ヒ河溝、港埠トハ水路ヲ謂ヒ損壞ト云フハ壅塞スル行爲モ亦之ヲ包含スヘシ

(二) 往來ヲ妨害シタル行爲ノ既遂及ヒ未遂

(三) 第一及ヒ第二ノ行爲間ニ因果ノ關係アルコト　故ニ陸路、水路ヲ損壞スルト雖モ因リテ往來ヲ妨害スルニアラサレハ本罪ハ成立セス又往來ヲ妨害シタリト雖モ陸路、水路ノ損壞ニ基因シタルニアラサレハ本罪ハ成立セス

本罪ノ行爲者ハ或ハ交通事務ニ從事スル官吏又ハ雇人タルコトアルヘク或ハ否ラサルコトアルヘシ而シテ交通事務ニ從事スル者カ本罪ヲ犯シタルトキハ其犯情ハ普通ノ行爲者ト同一ニ論スヘカラサルモノアリ刑法ハ本罪ノ行爲者カ交通事務ニ從事スル者ナル場合ニ於テハ之ヲ比較的重キ罪ト規定シタリ又本罪ハ法定ノ手段ニ依ル往來妨害罪ナリ故ニ其妨害ノ程度ニ種々ノ階級アルヘシ即チ或ハ因リテ人ヲ死去セシメ又ハ創傷セシムルコトナキニアラスト雖モ然レトモ此種ノ死傷ハ毆打ノ意思ナキ場合ニ於テハ直チニ之ヲ毆打創傷罪ヲ以テ論スルコト能ハサルナリ故ニ刑法ハ此種ノ行爲ヲ以テ特別ノ結果罪ト規定シタリ

本罪ノ刑ハ

第一、單純ノ往來妨害罪ニ付テハ

一、原則トシテハ主刑二月乃至二年ノ重禁錮及ヒ附加刑二圓乃至二十圓ノ罰

金ヲ科ス

二、行爲者カ交通事務ニ從事スル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加ヘタル刑ヲ科ス

第二、死傷ノ結果ヲ惹起シタル往來妨害罪ニ付テハ毆打創傷罪ニ關スル各本條ノ刑ト單純ノ往來妨害罪ニ對スル刑トヲ比較シテ比較的重キ刑ヲ科ス

第三項　瀛車ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ危險ナル障害ヲ爲シタル罪及ヒ其科刑

瀛車ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ危險ナル障害ヲ爲シタル罪及ヒ其科刑

本罪ハ法定ノ遠因ニ出テタル瀛車ノ往來ノ危害行爲ナリ

一、瀛車ノ往來ニ危險ナル障害ヲ爲ス行爲ノ既遂及ヒ未遂　例ヘハ軌道ヲ損壞スル行爲、瀛車ノ往來ニ必要ナル標識ヲ損壞シ又ハ之ヲ僞造スル行爲、軌道上ニ障害物ヲ置ク行爲等ナリ

二、瀛車ノ往來ヲ妨害スル目的

本罪ニ付テハ二樣ノ結果罪ヲ認ム

一、瀛車顚覆ノ結果ヲ惹起シタル場合

二、人ヲ死ニ致ス結果ヲ惹起シタル場合

本罪ノ刑ハ

第一、單純ノ瀛車往來ノ妨害罪ニ付テハ

一、原則トシテ重懲役トシ

二、行爲者カ鐵道事務ニ從事スル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑即チ有期徒刑トス

第二、瀛車顚覆ノ結果ヲ惹起シタル瀛車往來ノ妨害罪ニ付テハ無期徒刑トシ

第三、致死ノ結果ヲ惹起シタル瀛車往來ノ妨害罪ニ付テハ死刑トス

第四項　艦船ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ航路、標識ヲ損壞シ又ハ僞造スル罪及ヒ其科刑

艦船ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ航路、標識ヲ損壞シ又ハ僞造スル罪及ヒ其科刑

本罪ハ艦船ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ航路、標識ヲ損壞スル行爲ノ既遂及ヒ未遂又ハ艦船ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ僞造ノ航路標識ヲ設置スル行爲ノ既遂

及ヒ未遂ナリトス航路標識トハ航路標識條例ニ依レハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府又ハ公共團體ニ於テ設置スル物ヲ謂フ如シ故ニ燈臺、浮標、測量標等ヲ包含スルコト勿論ナリトス艦船ト云フハ軍艦及ヒ船舶ヲ謂フ刑法ハ單ニ船舶ト云フモ其軍艦ヲ包含スルコト疑ナキナリ

本罪ニ付キテモ前項ト同シク二樣ノ結果罪ヲ認ム

本罪ノ刑ハ

第一、單純ノ往來妨害罪ニ付テハ

一、原則トシテ重懲役トシ

二、行爲者カ航海事務ニ從事スル者ナルトキハ有期徒刑トシ

第二、艦船覆沒ノ結果ヲ惹起シタル艦船往來ノ妨害罪ニ付テハ無期徒刑トシ

第三、致死ノ結果ヲ惹起シタル艦船往來ノ妨害罪ニ付テハ死刑トス

第二款　通信妨害ノ罪及ヒ其科刑

通信妨害ノ罪及ヒ其科刑總論

第一項　總論

本款ノ罪ニ付テハ明治三十三年三月法律第五十四號郵便法第四十三條、第五十三條及ヒ第五十四條、明治三十三年三月鐵道船舶郵便法第十四條乃至第十九條、明治二十五年六月法律第二號小包郵便法第十四條、明治三十三年三月電信法第三十七條、第四十條、第四十二條等ヲ參照スヘシ

偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害スルコト及ヒ其科刑

第二項　偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害スル罪及ヒ其科刑

本罪ハ郵便ヲ偽計又ハ威力ヲ以テ妨害スル行爲ノ既遂及ヒ未遂トス偽計トハ詐欺ノ手段ヲ謂ヒ威力トハ暴行又ハ脅迫ヲ謂ヒ妨害トハ全部ノ妨害即チ阻止及ヒ一部ノ妨害ヲ謂フ

本罪ノ刑ハ

一、原則トシテ主刑二月乃至二年ノ重禁錮及ヒ附加刑二圓乃至二十圓ノ罰金トス

二、行爲者カ郵便事務ニ從事スル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科ス

器械、柱木、線條ヲ損壞シテ電信ヲ妨ケル罪及ヒ其科刑

第三項　器械、柱木、線條ヲ損壞シテ電信ヲ妨

本論重罪、輕罪及ヒ其科刑　公益ニ關スル重罪、輕罪及ヒ其科刑
靜謐ヲ害スル罪及ヒ其科刑　往來通信ヲ妨害スル罪及ヒ其科刑

害スル罪及ヒ其科刑

本罪ノ成立ニハ左ノ三條件アルコトヲ必要トス

一、器械、柱木、繩線ヲ損壞スル行爲

二、電信ヲ妨害スル行爲又ハ電信ヲ妨害シ之ヲ不通ニ致シタル行爲ノ既遂及ヒ未遂

電信ニハ電話ヲ包含セストヲ解釋スルヲ妥當トス然レトモ上述シタル電信法ハ電信及ヒ電話ニ共通スルモノナルコト勿論ナリトス

三、上述二個ノ行爲間ニ因果ノ關係アルコト

本罪ノ刑ハ

第一、電信ヲ不通ニ致シタル罪ノ刑ハ

一、原則トシテハ主刑ハ三月乃至三年ノ重禁錮及ヒ附加刑ハ五圓乃至五十圓ノ罰金トシ

二、行爲者カ電信事務ニ從事スル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス

第二、電信妨害罪ノ刑ハ

一、原則トシテハ三月乃至三年ノ重禁錮及ヒ五圓乃至五十圓ノ罰金ヨリ各一等ヲ減シタル主刑及ヒ附加刑トシ

二、行爲者カ電信事務ニ從事セル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス

第三款　餘論

刑法改正案ハ第二編第十一章ニ往來通信ヲ妨害スル罪ヲ規定シタリ

一、改正案ハ郵便ヲ妨害スル罪及ヒ電信ヲ妨害スル罪ヲ刪除シタリ是レ蓋シ郵便法、電信法等ノ特別法令ノ規定ニ一任シタルモノナルヘシ此種ノ事項ヲ特別法ニ讓ル法制ハ寧ロ余輩ノ歡迎スル所ナルモ通信妨害ノ罪ノ全部ヲ特別法ニ讓リタル改正案ハ何故ニ尙ホ第十一章ノ題目ニ往來通信ヲ妨害スル罪ト云ヒタルヤ余輩ハ題目ヲ改メテ往來妨害ノ罪トナスヲ可ナリト信ス

二、改正案ハ刑法第三編第二章第九節船舶ヲ覆沒スル罪ヲ往來妨害罪中ニ規定シタリ船舶覆沒ノ行爲ヲ以テ財產ニ對スル罪トナス刑法ノ法制ハ固ヨリ非ナリト雖モ船舶ノ覆沒自體ハ往來妨害ニハ何等ノ關係ナキナリ余輩ハ改正案ノ

法制モ未タ充分ナラスト信ス

三、改正案ハ瀛車電車ノ顚覆又ハ破壞罪ヲ認ム蓋シ刑法ハ船舶ノ覆沒罪ノミヲ認メ瀛車、電車ノ顚覆ニ及ハス其權衡ヲ失スルコト明瞭ナリ

四、改正案ハ瀛車、電車又ハ艦船ノ往來ノ妨害又ハ顚覆若クハ覆沒ニ付キ過失犯ヲ認ム蓋シ前顯ノ罪ノ如キハ所謂公共危害罪ノ一種トモ云フヘクシテ其犯狀ハ彼ノ火災、洪水等ニ同シ然ラハ失火、過失ニ因ル溢水等ヲ認ムル刑法ニ於テ過失ニ因ル妨害、顚覆又ハ覆沒ヲ認メサルヘキ理由ナキヲ以テナリ

第八節　人ノ住所ヲ侵ス罪及ヒ其科刑

第一款　總論

本罪ニ依リ保護セントスルモノハ人ノ家宅權ナリマイエルハ所謂家宅權ノ妨害トハ其支配區域内ニ於テ全然其意思ヲ實行スルコトニ關スル權利ノ侵害ニシテ公ノ秩序ニ關スル罪ニアラス自由ニ對スル罪ナリト云ヒリストハ家宅權トハ自己ノ住所及ヒ圍障地域内ニ於テ自由ニ自己ノ意思ヲ實行スルコト即チ自由ニ家宅及ヒ庭地ヲ管理スルコトニ關スル法律上保護セラルヽ利益ナリ故ニ人的自由

ニ類似スルモ尚ホ特種ノ法物ナリト云ヘリ然ラハ所謂家宅權ト云フハ少ナクトモ個人ノ自由ニ關スル權利ノ一種ナルヲ以テ宜シク之ヲ自由ニ對スル罪トナスヘクシテ刑法ノ如ク公益ニ關スル罪又ハ靜謐ヲ害スル罪ノ一種トナスヘカラサルニアラサルカ

憲法第二十五條ニ曰ク日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其承諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ヒ捜索セラルヽコトナシト即チ日本臣民ハ家宅權ヲ有スルコトヲ保障シタル一例ナリトス我國法ハ各國ノ成例ノ如ク一方ニハ憲法ニ於テ主權ニ對シテ個人ノ家宅權ナルモノヲ保障スルト同時ニ又一方ニハ刑法ニ於テ廣ク主權及ヒ他ノ私人ノ家宅權ノ侵害ヲ罪トナシ而シテ刑法ハ常ニ故ナク進入シタルコトヲ以テ人ノ住所ヲ侵ス罪ノ成立ニ必要ナル條件ト規定シタリ然ラハ其故ナクトハ果シテ如何ナル意味ヲ有スル語ナルカ學者間ニ異論アリト雖モ或ハ正當ノ事由ナクシテト解スヘシト云ヒ或ハ權利ナクシテト解スヘシト云ヒ或ハ承諾ヲ得スシテト解スヘシト云フ然レトモ今假ニ故ナクヲ正當ノ事由ナクシテ若クハ權利ナクシテト解スル學說ニ從フトセンカ正當ノ事由ヲ有シ若クハ權

利アリテ或行爲ヲ爲シタリトセハ其行爲カ縱令刑法ニ禁制シタルモノナリトスルモ違法ニアラサルヲ以テ罪ヲ構成スル能ハサルコトハ罪自體ノ本質ニシテ特ニ人ノ住所ヲ侵ス罪ノミニ付キ之ヲ明示スル必要ナキヲ以テ到底無用ノ文字ト云ハサルヘカラス余輩ハ故ナクナル語ヲ承諾ナクシテト解スル學說ヲ可ナリトス蓋シ上述セル如ク憲法ニ於テ其許諾ナクシテ云々ト規定セルヲ以テ或ハ許諾アリタル場合ニ於テハ家宅權ノ保障ナシト推斷シテ以テ許諾ナクシテト云フ副詞モ亦不必要ナリト論難スル者ナキニアラサルヘシ然レトモ既ニ汎論ニ於テ說明シタルカ如ク被害者ノ承諾ハ違法除却ノ原因ニアラサルヲ以テ刑法各論ニ於テ被害者カ拋棄スルコトヲ得ル法物ト否ラサル法物トヲ明定スル必要アルヘク家宅權ノ如キハ之ヲ被害者ノ拋棄スルコトヲ得ル法物ナリト云フニ至リテハ何人モ異論ナキ所ナルヲ以テ刑法ノ立法者ハ其立法ノ際ニ於テ何等カノ語ヲ以テ此意味ヲ明確ニセントシタルコト疑ナシ故ニ余輩ハ故ナクト云フ語ハ立法者カ此意味ヲ明示セントシタルニ外ナラスト信ス

人ノ住所ヲ侵ス罪ハ個人ノ拋棄シ得ヘキ法物ニ關ス然ラハ何故ニ一歩ヲ進メテ

更ニ之ヲ親告罪トナサヽリシヤ獨逸刑法第百二十三條ハ所謂家宅安妨害罪ヲ規定シ而シテ其第二項ニ曰ク訴追ハ申請ニ因リテノミ之ヲ爲スト我實際ニ於テモ本罪ハ被害者ノ告訴アルニアラスンハ概ネ之ヲ訴追セス余輩ハ此實際ノ取扱ニ對シ明文ヲ以テ其根據ヲ與ヘンコトヲ望ム者ナリ

第二款　罪

本罪ハ承諾ナクシテ時ノ晝夜ヲ問ハス門戶牆壁ヲ踰越損壞シ、鎖鑰ヲ開キ、犯行ノ用ニ供スヘキ物ヲ携帶シ、暴行ヲ爲シ、二人以上通謀シ又ハ上述ノ事由ナクシテ他人ノ住居シタル邸宅、他人ノ看守シタル建造物、皇居、禁苑、離宮、行在所又ハ皇陵ニ入リタル行爲ニ關ス承諾ナクシテ入ル行爲ト云フハ前述ノ如ク家宅權者ノ同意ヲ得サルコトヲ謂フ家宅權者ト云フハ家宅權ヲ有スル者例ヘハ住居人又ハ看守人若クハ此等ノ者ノ委任ヲ受ケタル者ヲ謂ヒ同意ト云フハ明示又ハ默示ノ許可ヲ謂フ而シテ刑法ハ單ニ入ルト規定スルヲ以テ一定ノ場所ニ侵入スル行爲ノミニ關シ一定ノ場所ヨリ退去セサル行爲ヲ包含セサルナリ

余輩今本罪ヲ說明スルニ當リ犯時、犯行ノ手段及ヒ犯行ノ場所ノ三段ニ區別セン

第一、犯時

犯時ノ晝間ナルヤ將タ又夜間ナルヤハ本罪ノ成立ニハ何等ノ關係ナシト雖モ其刑ニ輕重ノ區別ヲナセリ然ラハ晝ト夜トハ如何ナル標準ニ依リ之ヲ區別スヘキヤ刑法ハ之ヲ區別スルニ足ルヘキ何等ノ明文ヲ置カス刑事訴訟法第七十八條第三項ニ依レハ家宅搜索ハ日出前、日沒後ニ之ヲ爲スコトヲ得ス但夜間ト雖モ公衆ノ出入スル場所ニ付テハ云々ト規定セリ然ラハ刑事訴訟法ニ於テハ晝夜ハ日ノ出沒ニ依リ之ヲ區別スル主義ナルコトヲ知ルニ足ルヘク此刑事訴訟法ノ主義ハ又更ニ之ヲ刑法ノ主義ト云フコトヲ得ヘキカ

第二、犯行ノ手段

刑法ハ犯行ノ手段如何ヲ論セス苟モ承諾ヲ得ルシテ入リタル行爲ナルトキハ之ヲ罪トナスト雖モ其手段ノ如何ニ依リ或ハ刑ノ輕重ヲ區別スルコトナキニアラス

一、門戸、牆壁ノ踰越又ハ損壞　門戸、牆壁ト云フハ門、戸、壁及ヒ圍障物ヲ謂フ故ニ屋根、特ニ天窓ヲ包含セス又床ヲ包含セス踰越又ハ損壞ト云フハ物ノ上部ヲ乘越ユルコト又ハ物ノ全部若クハ一部ヲ破壞スルコトヲ謂フ故ニ物ノ下部特ニ門又ハ牆壁ノ下部ヲ掘ルコトヲ包含セス然レトモ實際ニ於テハ天窓ヨリ侵入スルコト、屋根ヲ破リ侵入スルコト、門又ハ牆壁ノ下部ヨリ這入ルコト等ハ總テ此種ノ手段ナリトナス如シ

二、鎖鑰ノ開披　鎖鑰トハ開披ノ自由ヲ妨クル器械ヲ謂フト解スヘシ故ニ單純ナル所謂栓ノ如キハ鎖鑰ニアラスト信ス鎖鑰ノ開披トハ其性質ニ遵由スル開披例ヘハ眞鍵又ハ僞鍵ヲ以テ開クコトノミナラス又其性質ニ遵由セサル開披例ヘハ全部又ハ一部ヲ破壞シ又ハ釘其他ノ器具ヲ以テ開披スルコト等ヲ謂フ

三、犯行ノ用ニ供スヘキ物ノ携帶　刑法ハ兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ト規定ス兇器ノ何タルヤハ不明ナリト雖モ畢竟人ノ生命、身體又ハ自由ヲ傷害シ得ヘキ器具例ヘハ刀、棒、捕繩其他ナリト云ハサルヘカラス然レトモ本罪ニ所謂犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ト云フハ兇器及ヒ兇器ニアラサル物ヲモ包

含スト解釋セサルヘカラス然ラハ兇器以外ノ犯罪ノ用ニ供スヘキ物トハ果シテ如何ナル物ヲ謂フヤ犯罪ニハ數多ノ種類アリ故ニ犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ト云ヘハ如何ナル物ト雖モ犯罪ノ用ニ供スヘカラサル物ナシ故ニ余輩ハ犯行ノ用ニ供スヘキ物ト云フハ廣義ノ兇器ニ外ナラスト解スルヲ妥當トス携帶トハ身體ニ附着セシムルコトヲ謂フ故ニ手ニ持チタルコトハ勿論或ハ之ヲ身體中ニ隱匿スルコト、背負ヒタルコト其他ヲ包含スルモノトス然レトモ其何レノ場合タルヲ問ハス余輩ハ携帶ノ意思アル場合ニアラサレハ携帶ノ行爲ハ存在セスト信ス故ニ兵士又ハ巡査カ侵入シタル場合ト雖モ携帶ノ意思アルニアラサレハ其帶劍スルヲ以テ直チニ之ヲ兇器携帶トハ云フヘカラス又護身用トシテ常ニ兇器ヲ携帶セル者カ別ニ携帶ノ意思ナクシテ侵入シタル場合ニ於テハ兇器携帶ト云フヘカラサル如シ

四、暴行　暴行ノ何タルヤハ既ニ前ニ述ヘタリ然レトモ本罪ニ付キ所謂暴行ト云フハ本罪ノ犯行手段タル暴行ナルヲ以テ自ラ其意義ヲ限定セラルヘシ換言スレハ主トシテ進入ヲ拒絶スル者ニ對スル不法ノ腕力タルヘキナリ暴行ハ本罪ニ付テハ上述シタル如ク一種ノ犯行ノ手段ナリ故ニ侵入後其場ヲ去ル場合ニ於テ家人ニ暴行ヲ加フル如キハ或ハ別種ノ罪ヲ構成スヘシト雖モ茲ニ所謂暴行ニハアラス

五、二人以上ノ通謀　刑法ハ單ニ二人以上ニテ入リタルトキト規定セリ然レトモ刑法ハ竊盜罪ニ付テハ第三百六十九條ニ於テ二人以上共ニ云々ト規定セリ余輩ハ刑法ハ本罪ト竊盜罪トニ付キ同一ノ意義ヲ表ハサントナシタルモノト思斷シ本條ニ付キテモ竊盜罪ニ於ケルト同シク二人以上共ニ即チ通謀シテ入リタルトキノ意義ヲ有スト解釋ス故ニ乳兒ヲ伴ヒテ侵入シタルトキハ所謂二人以上トハ云フヘカラス又二人以上通謀セスシテ同時ニ家宅ノ表及ヒ裏ヨリ入リタルトキモ亦所謂二人以上トハ云フヘカラス學者概ネ二人以上ナルコトノミヲ以テ足レリトシ通謀ヲ要スルコトヲ明示セサルニ拘ハラス夫ノ乳兒ヲ隨伴セル場合ノ如キハ二人以上ニアラスト斷定シ其理由トシテ乳兒ニハ加害能力ナシ故ニ二人ニアラスト云ヘリ然ラハ加害能力ナキ者ノ侵入ハ常ニ之ヲ罪ナシトナサヽルヘカラサルカ余輩ハ此場合ニハ通

謀ナシト云フ理由ニ依リ之ヲ二人以上ニアラストナスヲ妥當ナリト信ス

六、爾餘ノ手段　上述五個ノ手段ニ依ラスト雖モ苟モ侵入ノ行爲アルトキハ本罪ノ成立ニハ何等ノ妨ナシ故ニ私ニ侵入シタルトキモ亦其罪ハ成立ス

第三、犯行ノ場所

一、他人ノ住居シタル邸宅　本罪ハ個人ノ抛棄シ得ヘキ法物ノ侵害ナリ故ニ自己ノ住居スル邸宅ニ關セサルヤ當然ナリトス住居トハ多少ノ日時内定住スル行爲ナリ故ニ止宿等ヲ包含セスト雖モ苟モ定住スル行爲アリトセハ犯行ノ當時ニハ現在セサルモ可ナリ邸宅トハ俗ニ所謂屋敷ヲ謂フ即チ一家ノ構内ヲ謂フ然レトモ多少ノ園障物アリテ構内ト構外トヲ別ツニアラサレハ或ハ邸宅内トハ云ヒ難カルヘシ

皇居、禁苑、離宮ハ勿論或場合ニ於ケル行在所ハ他人ノ住居シタル邸宅ナリト解釋ス故ニ皇室ニ屬スル住宅ニシテ皇居、禁苑、離宮等ト云ヒ得ヘカラサルモノハ凡テ之ヲ他人ノ住居シタル邸宅トナスヘキナリ

二、他人ノ看守シタル建造物　建造物トハ學校、官廳、神社、佛閣又ハ人ノ住居セサル邸宅其他ヲ謂フ看守トハ有形的又ハ無形的看守ヲ謂フ故ニ看守者ヲ置クコトハ勿論單ニ鎖鑰ヲ施シタルコトヲモ包含スヘシ

三、皇陵　常人ノ墓所ニ侵入スルコトハ概ネ罪トナラス唯皇陵ノミニ付テノミ侵入罪成立ス而シテ皇陵ノ何タルヤハ既ニ皇室ニ對スル罪ニ付キテ述ヘタリ

◎注意◎

第一、他人ノ住所ヲ侵シテ竊盜ヲ爲シタル行爲ノ罪責如何　此問題ニ付キテハ從來學者間ニ異論アリト雖モ余輩ハ此場合ニ於ケル行爲ヲ以テ一個ノ行爲トナシ從テ單ニ一罪ノミ成立スト解釋シ特ニ竊盜罪ノミカ成立シテ他人ノ住所ヲ侵ス罪ハ成立セスト解ス何故ニ他人ノ住所ヲ侵ス罪ハ成立セサルヤト云フニ既ニ汎論ニ於テ説明シタルカ如ク屋内竊盜ニ付キテ云ヘハ他人ノ住所ヲ侵スコトハ竊盜行爲ノ要素ナルヲ以テナリ論者或ハ曰ク本問ノ場合ニ於テハ竊盜罪及ヒ他人ノ住所ヲ侵ス罪ノ二罪俱發ス故ニ刑法第百條ヲ適用シテ重キ竊盜罪ヲ以テ論スヘシト然レトモ是レ自ラ別種ノ論理ニ屬スルヲ以テ今之ヲ詳

論セス

第二、盗罪ヲ犯ス目的ヲ以テ他人ノ住所ヲ侵シタル行爲ノ罪責如何　竊盗ヲ爲ス目的ヲ以テ他人ノ住所ヲ侵シタルノミニシテ未タ財物ヲ竊取スル行爲ニ着手セサル際ニ逮捕セラレタルトキハ竊盗罪ノ未遂ヲ以テ論スルコトヲ得ルヤ否ヤ余輩ハ此場合ニ於テハ單ニ他人ノ住所ヲ侵ス罪ヲ以テ論スヘシト信ス然レトモ現今ノ實際ニ於テハ竊盗ノ目的ヲ有セルコト分明ナルトキハ直チニ之ヲ竊盗罪ノ未遂ヲ以テ論ス誤マレリト云フヘシ然レトモ此種類ノ行爲ハ其情狀單純ニ他人ノ住所ヲ侵シタル行爲ニ比照シ甚大ニ憎惡スヘキモノナルヲ以テ此種ノ行爲ヲ特別ノ一罪トナスハ余輩ノ贊同スル所ナリ刑法改正案第二百八十三條ニハ賊盗ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ住居ヲ侵シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處スト規定ス改正案カ之ヲ賊盗ノ罪ノ一種類ト規定シタルハ多少ノ批難アルヘシト雖モ其趣旨ニ至リテハ最モ時急ニ應シタルモノト云ハサルヘカラス」

第三款　刑

晝間他人ノ住所ヲ侵シタル罪ニ對シテハ十一日乃至六月ノ重禁錮ヲ科シ夜間他人ノ住所ヲ侵シタル罪ニ對シテハ一月乃至一年ノ重禁錮ヲ科ス而シテ若シ門戸墻壁ヲ踰越、損壞シ、鎖鑰ヲ開キ、犯行ノ用ニ供スヘキ物ヲ携帶シ、暴行ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ犯シタル場合ニハ其犯時ノ晝間ナルト夜間ナルトヲ區別シ各其刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科ス

然レトモ侵入シタル場所カ皇居、禁苑、離宮、行在所又ハ皇陵ナリシトキハ常ニ普通ノ場合ニ於ケル刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科スヘシ

第四款　餘論

刑法改正案ハ本罪ニ付キテハ其第十二章ニ於テ種々ノ修正ヲ試ミタリ

一、章ノ題目ヲ住居ヲ侵ス罪ト改正シタリ　刑法ハ住所ヲ侵ス罪ト云フ住所ト住居トハ敢テ其意義ヲ異ニセルニアラス然レトモ憲法第二十五條ニハ住所ニ侵入セラレ云々ト規定シ住所ナル語ヲ以テ住所及ヒ居所ヲ表示シ民法第二十一條ニハ各人ノ生活ノ本據ヲ以テ其住所トスト規定ス斯ノ如ク住所ナル語ハ必スシモ居所ヲ包含セサルモノナルヲ以テ刑法カ住所ヲ侵ス罪ト題スルハ憲法ノ觀念トハ一致スト雖モ民法ノ觀念ト背馳スルコトヲ免カレス是レ改正案

カ住居ト云フ新熟語ヲ認メテ住所及ヒ居所ヲ指稱スルコトヲ明カニセシ所以ナルヘシ

二、住居者又ハ看守者ノ要求ヲ受ケテ其場所ヲ退去セサル行爲ヲ住居ヲ侵ス罪ノ一種トナシタリ　刑法ハ單ニ承諾ナシテ進入セル者ノミヲ處罰スル規定ヲ設ケタルノミナルヲ以テ一度承諾ヲ受ケテ進入シタル者ハ更ニ退去ノ要求ヲ受ケタルニ拘ハラス之ニ應セサル場合ト雖モ之ヲ住所ヲ侵シタル者トハ云フコトヲ得ス是レ刑法ノ有數ノ缺點ニシテ獨逸刑法、和蘭刑法、フインランド刑法、瑞西刑法草案、諸威刑法等ハ皆權利者ノ要求ヲ受ケテ其場所ヲ退去セサル行爲ヲ罪トナシタリ

三、艦船ニ侵入シ又ハ權利ナクシテ艦船ニ在留スル行爲ヲ住居ヲ侵ス罪ノ一種トシテ規定シタリ　外國ノ刑法ニ於テモ家宅安妨害罪トシテ艦船ニ對スル進入又ハ無權限ノ在留ヲ保護スルハ獨リ諸威刑法案及ヒフインランド刑法アルノミ然レトモ我國ノ實際ニ依レハ艦船ヲ其住居トセル者少ナカラサルノミナラス其住居トセサル場合ト雖モ艦ニ他人ノ侵入其他ヲ許スヘカラサルコトハ

敢テ住居其他ノ建造物ト異ナルコトナシ改正案ハ此點ニ付キテモ住居ヲ侵ス罪ノ適用ヲ開張シタルモノト云フヘシ

四、犯行方法ヲ加重ノ情狀トナサス　改正案ハ住居ヲ侵ス罪ノ刑ノ範圍ヲ開張シ判事ニ對シ各犯人ノ罪情ニ應シ適宜ノ刑ヲ裁量スル餘地ヲ與ヘタルヲ以テ其結果刑法ノ如ク犯行方法ノ如何ニ依リ法律上特別ニ其刑ヲ加重スル必要ヲ減シタリ

五、本罪ノ未遂ヲ罪トナシタリ　刑法ハ他人ノ住所ヲ侵ス罪ノ未遂ヲ罰セスト雖モ其不當ナルコトハ更ニ辯ヲ俟タス蓋シ他人ノ住居ヲ侵ス罪ハ屢〻生命、身體自由又ハ財産ニ對スル罪ヲ犯ス準備タルモノニシテ若シ他人ノ住居ヲ侵ス行爲ヲ防止セサランカ他ノ無數ノ犯罪モ亦之ヲ防止スルコト困難ナルヘシ改正案カ本罪ノ未遂ヲ罪トナシタルハ直接ニ此種ノ罪ヲ滅絶セシメ又間接ニ他ノ罪ヲモ防止セントスル趣旨ナルヘシ

此等ノ改正ハ共ニ刑法ノ缺點ヲ補ヒタルモノニシテ之ニ贊同スルニ躊躇セスト雖モ尚ホ他ノ部分ニ付キテ左ノ批難ヲ免カルヘカラスト信ス

本論　重罪、輕罪及ヒ其科刑　公益ニ關スル重罪、輕罪及ヒ其科刑
靜謐ヲ害スル罪及ヒ其科刑　人ノ住所ヲ侵ス罪及ヒ其科刑

一、故ナクナル副詞ヲ使用シタルハ不當ナリ　改正案カ如何ナル趣旨ニ依リ故ナクナル副詞ヲ使用シタルヤハ一ニ學者ノ判斷ニ任セサルヘカラス而シテ或ハ之ヲ正當ノ事由ナクト解スル者アルヘク或ハ之ヲ承諾ヲ得スシテト解スル者アルヘシ若シ正當ノ事由ナクシテト解セサルヘカラストセハ改正案カ第二百五十八條ニ於テ單ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ云々ト規定シ不法ニナル副詞ヲ削除シタル趣旨ニ反スヘク若シ又承諾ナクシテト解スヘクンハ何故ニ明カニ承諾ヲ得スシテト規定セサルヤノ批難ヲ免カレサルヘシ

二、權利者ノ要求ヲ受クルニ拘ハラス皇居、禁苑、離宮又ハ行在所若クハ皇陵ヲ退去セサル行爲ヲ特別罪トナサヽルハ不權衡ナリ　改正案ハ要求ヲ受ケテ住居邸宅、建造物又ハ艦船ヨリ退去セサル行爲ヲ罪トシテ規定シ以テ刑法ノ缺點ヲ補ヒタルニ拘ハラス要求ヲ受ケテ皇居其他ヲ退去セサル行爲ヲ特別罪トナササルハ其何ノ意タルヤヲ解スルニ苦ム

第九節　官ノ封印ヲ破棄スル罪及ヒ其科刑

第一款　總論

官ノ封印ヲ破棄スル罪及ヒ其科刑

所謂官ノ封印トハ官署ノ處分ニ依リ施シタル封印ヲ謂ヒ私人ノ施シタル封印ニ及ハス官署ノ處分ト云フハ强制執行、證據資料ノ保存等ノ目的ヲ以テ民事訴訟法及ヒ刑事訴訟法其他特別ノ徵稅法等ニ依據シテ爲ス差押ニ外ナラス民事訴訟法第五百六十六條第二項後段ニハ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ云々ト規定セルニ由リ之ヲ觀レハ差押ハ必スシモ封印ノミニ依ルヘキモノト云フヲ得スト雖モ刑法ニハ單ニ封印ノミヲ規定シタルヲ以テ其他ノ差押ノ表示ヲ含ムモノトハ解釋スルコト能ハス又破棄ト云フハ所謂全部又ハ一部ノ破棄即チ損壞ヲ謂フ然レトモ損壞以外ノ方法ニ依リ事實上封印ノ效果ヲ皆無ナラシムル行爲ヲ包含セサルモノト解セサルヘカラス

官署ノ處分ニ依リ施シタル封印ヲ破棄シタル罪及ヒ其科刑

第二款　官署ノ處分ニ依リ施シタル封印ヲ破棄シタル罪及ヒ其科刑

刑法ハ特別ニ施シタル封印ト云フ然レトモ余輩ハ苟モ官署ノ處分トシテ施シタル封印ナル以上ハ特別ニ施シタルモノナルト又ハ特別ニ施シタルニアラサルモノトノ區別ヲ爲スコトヲ得スト信ス刑法ハ家屋、倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印

ト云フ然レトモ既ニ其他ノ物件ト云フ以上ハ家屋、倉庫ハ勿論其他事實上封印ヲ施スコトヲ得ヘキ物ニ及フヲ以テ寧ロ封印ヲ施シタル物ヲ限定セサルコトヲ可ナリト信ス

本罪ハ官署ノ處分ニ依リ施シタル封印ヲ破棄スル行爲ナリ强制執行又ハ證據資料保存ノ爲メ差押ヲ爲ス場合ニアリテハ其看守者ヲ置クコトヲ通常トス故ニ本罪ノ主體ハ或ハ其看守者タルコトアルヘク或ハ否ラサル者タルコトアルヘシ看守者本罪ヲ犯シタルトキハ其犯狀ハ固ヨリ否ラサル者ノ犯シタル場合ヨリ重キヲ以テ刑法ハ第百七十四條第二項ニ之ヲ規定シタリ

本罪ハ盜罪又ハ毀壞罪ト俱發スルコト多シ即チ官署ノ封印ヲ施シタル物ヲ盜取又ハ毀壞シタル行爲ハ多クノ場合ニ於テハ同時ニ其封印ヲ破棄スル行爲ヲ隨伴ス此場合ニ於テハ理論上二罪ノ俱發ナルヲ以テ刑法第百條ヲ適用セサルヘカラスト雖モ刑法ハ之ヲ一罪トナス見解ヲ採リ第百七十五條ニ於テ之ヲ規定シタリ然レトモ之ヲ一罪トナスノ實益ハ全然皆無ナルヲ以テ余輩ハ特ニ本條ヲ規定スル必要ナシト信ス

看守者カ封印ノ破棄セサル罪ヲ覺知セサル罪及ヒ其科刑

本罪ノ刑ハ左ノ如シ

一、本罪ノ主體カ看守者ナラサル場合ニ於テハ二月乃至二年ノ重禁錮ヲ科シ若シ本罪ヲ犯シテ其封印ヲ施シタル物ヲ盜取又ハ毀壞シタルトキハ前顯ノ刑ト盜罪若クハ毀壞罪ニ對スル刑トヲ比較シ比較的ニ重キ刑ヲ科ス

二、本罪ノ主體カ看守者ナル場合ニ於テハ二月十五日乃至二年六月ノ重禁錮ヲ科シ若シ本罪ヲ犯シ其封印ヲ施シタル物ヲ盜取又ハ毀壞シタルトキハ前顯ノ刑ト盜罪又ハ毀壞罪ニ對スル刑トヲ比較シ比較的ニ重キ刑ヲ科ス

第三款　看守者カ封印ノ破棄ヲ覺知セサル罪及ヒ其科刑

刑法ハ其物件ヲ盜取、毀壞スル犯人云々ト規定ス故ニ其意ハ封印ヲ施シタル物ヲ盜取、毀壞シタル犯人ハ封印ヲ破棄セサル者ト雖モ之ヲ含マシムルニアル如シト雖モ本罪ノ趣意ヨリ言ヘハ封印ヲ破棄シテ封印ヲ施シタル物ヲ盜取、毀壞シタル犯人ノミヲ謂フト解セサルヘカラス若シ然ラハ單ニ封印ヲ破棄シタル犯人ニ付テノミ規定ストスルモ其趣意ニ於テハ何等ノ差異ナシト信ス

本罪ノ主體ハ官署ノ處分ニ因リ封印ヲ施シタル物ノ看守者タルコトヲ要シ懈怠ニ依リ封印ノ破棄ヲ覺知セサル行爲ニ關スル而シテ本罪ノ刑ハ二圓乃至二十圓ノ罰金トス

第四款　餘論

改正案ハ本罪ヲ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ノ一種トナシタリ其改正ノ當ヲ得サルハ既ニ前述シタル所ナリ本罪ノ內容ニ付テハ改正案ハ實際ニ鑑ミテ三個ノ修正ヲ爲シタリ其修正ハ共ニ事宜ニ適シタルモノト信ス

一、官署ヲ公務員ト修正シテ廣ク官吏、公吏ヲ包含セシメタリ　改正案ハ廣ク公務員ト規定スト雖モ封印又ハ差押ノ標示等ヲ施ス權限ナキ公務員ニハ實際上適用ナキコトハ勿論ナリト知ルヘシ

二、封印以外ニ尙ホ其差押ノ標示ヲ豫想シタリ　封印以外ノ差押ノ標示ニ付キ本罪ヲ適用スル能ハサルハ刑法ノ缺點ニシテ既ニ學者ノ批難セルモノニ屬ス

三、破棄以外ニ封印又ハ差押ノ標示ヲ無效ナラシムル行爲ヲ豫想シタリ　例ヘハ蹴込ニ封印シタル人力車ヲ使用スル如キ又ハ倉庫ノ入口ニ封印シタルニ拘ハラス其窓ヨリ出入スル如キハ共ニ差押ノ效力ヲ皆無ナラシムル行爲ナルモ封印ヲ破棄セサル行爲ナルヲ以テ刑法上之ヲ處分スルコトヲ得ス豈ニ立法上妥當ナル法制ト云フコトヲ得ンヤ改正案ハ此缺點ヲ修正シタリ

第十節　公務ヲ行フヲ拒ム罪及ヒ其科刑

第一款　總論

本節中ニハ陸海軍ノ將校カ權限アル官署ヨリ出兵ノ要求ヲ受ケタルニ拘ハラス之ヲ肯セサル罪、兵役ヲ免カルヽ目的ヲ以テ詐僞ノ行爲ヲ爲シタル罪、公務上官署ヨリ解剖、分析又ハ鑑定ヲ命セラレタルニ拘ハラス之ヲ肯セサル罪、裁判所ニ於テ證人トシテ事實ノ陳述ヲ命シタルニ拘ハラス之ヲ肯セサル罪及ヒ醫師カ傳染病ニ關シ病患ノ檢査又ハ消滅方法ノ陳述ヲ肯セサル罪ヲ規定ス然レトモ此等ノ行爲ハ皆軍人ノ執務、徵兵手續、訴訟手續又ハ傳染病豫防法等ノ特別ナル事項ニ關スルヲ以テ寧ロ其規定ヲ特別法ニ讓ルヲ可トス故ニ改正案ノ如キハ全然此種ノ罪ヲ削除シタリ

第二款　陸海軍ノ將校カ權限アル官署ヨリ出

本論　重罪、輕罪及ヒ其科刑　公益ニ關スル重罪、輕罪及ヒ其科刑
靜謐ヲ害スル罪及ヒ其科刑　公務ヲ行フヲ拒ム罪及ヒ其科刑

兵ノ要求ヲ受ケ故ナク之ヲ肯セサル罪及ヒ其科刑

兵ノ要求ヲ受ケ故ナク之ヲ肯セサル罪及ヒ其科刑

本罪ノ主體ハ陸海軍ノ將校ナリ陸海軍ノ將校ト規定スルヲ以テ下士以下ヲ包含セサルハ勿論ナルモ又凡テノ陸海軍ノ將校ヲ包含スルモノト解スルコトヲ得ス要スルニ陸海軍ノ將校中出兵ノ要求ヲ受ケテ出兵スル權限ヲ有スル者例ヘハ通常ノ場合ニ付キ論スレハ師團長、旅團長ヲ謂フト解スヘシ

本罪ハ左ノ要件ニ因リテ成立ス

一、權限アル官署ヨリ出兵ノ要求ヲ受ケタル事實　出兵ヲ要求スル權限ヲ有スル官署トハ裁判官、檢察官、司法警察官（明治十四年太政官達第八十二號司法官ヨリ巡査兵員要求使用手續）知事（明治二十六年十月勅令第百六十二號地方官々制）等ヲ謂フ出兵要求ノ權限アル官署ト規定スル故ニ動員命令ヲ發スルコトヲ得ル官署例ヘハ陸軍省、海軍省等ヲ包含セサルコトハ明瞭ナリトス

二、出兵ヲ肯セサル行爲　出兵ヲ肯セサル行爲トハ畢竟出兵セサル不作爲ヲ謂フナルヘシ故ニ本罪ノ如キハ所謂不作爲罪ノ一ナリ

兵役ヲ免カルヽ目的ヲ以テ詐僞ノ行爲ヲ爲ス罪及ヒ其科刑

本罪ノ刑ハ二月乃至二年ノ輕禁錮及ヒ五圓乃至五十圓ノ罰金トス

第三款　兵役ヲ免カルヽ目的ヲ以テ詐僞ノ行爲ヲ爲ス罪及ヒ其科刑

刑法第百七十八條第一項ノ罪ハ兵役ニ編入セラルヘキ者カ詐僞ノ行爲ヲ以テ兵役ヲ免カルヽ爲メ逃走シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ、疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヰタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スト規定ス徵兵令第三十一條ノ罪ハ兵役ヲ免カルヽ目的ヲ以テ詐僞ノ行爲ヲ爲シタル罪ナリ然ラハ刑法第百七十八條第一項ノ罪ハ徵兵令第三十一條ノ罪ヨリ其範圍狹隘ニシテ少ナクトモ同一ノ範圍ニ關スルニ拘ハラス比較的舊法ナリ故ニ刑法第百七十八條第一項ハ事實上徵兵令第三十一條ニ依リ廢止セラレタルモノトスルモ何等ノ不可ナシ是レ余輩カ本罪ヲ兵役ヲ免カルヽ目的ヲ以テ詐僞ノ行爲ヲ爲ス罪トナシ直チニ徵兵令第三十一條ノ罪ヲ說明セントスル所以ナリ

本罪ノ主體ハ服役義務アル者タルコトヲ要ス徵兵令第三十一條ニハ別ニ其主體ニ一定ノ身分アルコトヲ要スル旨ヲ明定セサルモ既ニ兵役ヲ免カルヽ爲メト云フ以上ハ服役義務アル者ニアラサレハ兵役ヲ免カルヽコトヲ得サルヲ以テ其主體ニ一定ノ身分ヲ要スヘキコトモ亦自ラ明瞭ナリ然ラハ兵役義務アル者トハ如何徵兵令第一條、第八條、第十九條及ヒ明治二十二年三月陸軍省令第三號徵兵檢査規則等ニ依レハ服役義務アル者ハ日本帝國臣民ニシテ滿二十歲以下ノ男子タルコト、公權ヲ剝奪セラレサル者ナルコト、身體檢査規則上不合格者タラサルヘキ者ナルコト等ノ資格ヲ具有スル者ヲ謂フ滿十七歲以下ノ者ハ唯將來ニ於テ服役義務ヲ有スルニ至ルヘキ者ナルヲ以テ異論アリト雖モ余ハ尙ホ本罪ノ主體タルコトヲ得ト信スルヲ以テ若シ兵役ヲ免カルヽ目的ニ出テタルコト明確ナル以上ハ其詐僞ノ行爲ヲ處罰スヘキモノト信ス

本罪ハ一定ノ遠因ニ出テタル行爲ナリ

一、兵役ヲ免カルヽ目的

二、詐僞ノ行爲ヲ爲ス行爲　詐僞ノ行爲トハ例ヘハ逃走、潛匿、身體ノ毀傷、疾病ノ作爲、他人ニ囑託シテ其氏名ヲ詐稱セシメ代リテ兵役ニ服セシムル行爲其他ヲ謂フ然ラハ凡テ罪タル事實ヲ知リ且過失ニ因ルニアラスシテ兵役ニ就カサル行爲ハ概ネ本罪ノ行爲ナリト云フヲ得ヘキカ

刑法第百七十八條第二項前段ノ罪ハ同條第一項ノ罪ノ適用ニ過キスシテ刑法上別ニ之ヲ規定スル必要ナシト信ス又同項後段ノ罪ハ純然タル氏名詐稱ノ行爲ニシテ本條ノ規定ヲ待テ始メテ氏名詐稱ノ罪責ヲ歸スヘキモノニアラス余輩ハ此後段ノ罪モ亦氏名詐稱罪ノ一適用ニシテ刑法上特ニ之ヲ明定スル必要ナシト信ス

本罪ノ刑ハ一月乃至一年ノ重禁錮及ヒ三圓乃至三十圓ノ罰金ナリトス

第四款　業務上官署ヨリ解剖、分析又ハ鑑定ヲ命セラレタルニ拘ハラス之ヲ肯セサル罪及ヒ其科刑

業務上官署ヨリ解剖、分析又ハ鑑定ヲ命セラレタルニ拘ハラス之ヲ肯セサル罪及ヒ其科刑

本罪ノ主體ハ或ハ醫師、藥劑師タルコトアリ或ハ理學者タルコトアリ或ハ書家又ハ畫家又ハ骨董商ナルコトアリ要スルニ苟モ一定ノ業務ニ從事スル者ハ皆本罪

ノ主體タルコトヲ得ヘシ

本罪ハ一定ノ事實ト一定ノ不作爲トニ因リテ成立スル所謂不作爲罪ナリ

一、官署ヨリ解剖、分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル事實　官署トハ例ヘハ司法裁判所、行政裁判所、軍法會議又ハ行政官廳等ヲ謂フ然レトモ明治十年二月第二十二號布告檢視上變死者解剖ノ件ニ依リ警察官吏カ解剖又ハ檢査ヲ命シ得ル外行政廳ハ一般ノ臣民ニ對シテ解剖其他ヲ命シ得ヘキ場合ナシト信ス

二、解剖、分析又ハ鑑定ヲ肯セサル不作爲　鑑定トハ作用ノ目的ヨリ付シタル名稱ニシテ解剖、分析ハ作用自體ナリ故ニ解剖ハ人體ニ付テノ鑑定ヲ爲ス手段タルコトアルヘク分析ハ藥物其他ニ付テノ鑑定ヲ爲ス手段タルコトアルヘシ鑑定ヲ肯セサル不作爲ハ鑑定ノ爲メノ呼出ニ應セサルコト又ハ呼出ニ應シタリト雖モ鑑定ヲ拒ムコト其他ヲ包含スヘシ刑事訴訟法第百三十八條ニ依レハ鑑定人カ宣誓ヲ拒ミ又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサル場合ニハ刑法第百七十九條ヲ適用スヘキ旨ヲ規定ス鑑定人カ宣誓ヲ拒ミタル行爲ハ必スシモ鑑定ヲ肯セサル不作爲ナリト云フコトヲ得ストト雖モ兎ニ角刑事訴訟法ニ依レハ此等ノ行爲

ヲ本罪ノ一適用トナスコトハ蓋シ疑ナキ所ナリ刑事訴訟法第百三十六條ニ依レハ證人ニ關スル第百十八條ハ鑑定人ニモ其適用ヲ有スヘク第百十八條ニハ證人ノ不參シタル場合ニ付キ特別ノ處分法ヲ定メアルヲ以テ鑑定人カ鑑定ヲ肯セサル意思ヲ以テ不參シタルトキト雖モ本罪ノ適用ナシ民事訴訟法ニ付テハ同法第三百二十八條及ヒ第二百九十四條ニ依リ行政裁判ニ付テハ行政裁判法第三十八條、民事訴訟法第三百二十八條、第二百九十四條ニ依リ鑑定人カ不參シタル場合及ヒ鑑定ヲ爲サヽル場合ニ於テハ特別ノ處分ヲ爲スヘクシテ本罪ノ適用ナシト云ハサルヘカラス又陸海軍ノ治罪手續ニ付テハ鑑定人カ宣誓ヲ肯セス又ハ鑑定ヲ肯セサルトキハ陸軍治罪法第六十五條及ヒ海軍治罪法第七十條ニ依リ本罪ノ罪責ヲ負擔セシムヘク又不參シタルトキハ陸軍治罪法第六十四條及ヒ海軍治罪法第六十九條ニ依リ特別ノ處分ヲ爲スヘシ

本條ニハ故ナクト規定ス故ナクトハ正當ノ事由ナクト云フ意味ニシテ總則ノ適用上不必要ノ語句ナリトス但刑事訴訟法、民事訴訟法、行政裁判法、陸海軍治罪法等ニ依リ鑑定ヲ拒ムコトヲ得ル事由ハ勿論正當ノ事由ナルコトニ注意スヘ

シ

本罪ノ刑ハ四圓乃至四十圓ノ罰金ナリトス

第五款　裁判所ニ於テ證人トシテ事實ノ陳述ヲ命セラレタルニ拘ハラス之ヲ肯セサル罪及ヒ其科刑

裁判所ニ於テ證人トシテ事實ノ陳述ヲ命セラレタルニ拘ハラス之ヲ肯セサル罪及ヒ其科刑

本罪ハ一定ノ事實及ヒ一定ノ不作爲ニ因リ成立スル所謂不作爲罪ナリ

一、裁判所ヨリ證人トシテノ陳述ヲ命セラレタル事實　證人トシテ陳述スルコトヲ必要トスル故ニ口頭鑑定又ハ參考人トシテノ陳述ヲ命セラレタル場合ヲ包含セス裁判所ノ何ナリヤニ付テハ國法上種々ノ異論アレトモ要スルニ司法權ヲ行フ官府ナルヘシ然ラハ(一)民事裁判所(二)刑事裁判所ノ裁判所ナルコトハ勿論(三)陸軍軍法會議(四)海軍軍法會議モ亦裁判所タルヘシ(五)懲戒委員會(文官懲戒法)(六)懲戒裁判所(判事懲戒法、辯護士法)其他ハ裁判所ト稱スレトモ特別ノ監督權ニ依リテ惡報ヲ科スル設備ナルヲ以テ之ヲ裁判所ト見サルヲ可トス(七)違警罪即決處分ヲ爲ス警察官署又ハ憲兵部(八)間接國稅又ハ關稅犯則者處分ヲ爲ス稅務官廳ハ之ヲ裁判所トナスヘキヤ否ヤニ付テハ異論アリト雖モ余輩ハ之ヲ裁判所トナサヽルヲ可トス(九)行政裁判所ハ行政監督ノ一方法ナルヲ以テ國法上ハ之ヲ裁判所ト見サルヘカラサルニ拘ハラス理論上ハ裁判所ニアラスト云フヲ可トス

二、證人トシテノ陳述ヲ肯セサル不作爲　刑事訴訟法第百二十六條ハ證人カ宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ刑法第百八十條ヲ適用スヘシト規定スト雖モ證人カ呼出ニ應セサリシトキハ同法第百十八條ニ依リ特別ノ刑ヲ科スルヲ以テ本條ノ適用ナシ民事訴訟法ハ證人カ呼出ニ應セサリシ場合ハ之ヲ同法第二百九十四條ニ規定シ證人カ證言ヲ拒ミタル場合ハ之ヲ同法第三百二條ニ規定シ其ニ特別ノ刑ヲ科スルヲ以テ民事訴訟法上ノ證人ニハ全然本條ノ適用ナシ行政裁判法ハ證人ニ關シテモ凡テ民事訴訟法ヲ準用スルヲ以テ行政裁判法上ノ證人ニモ亦全然本條ノ適用ナシ陸海軍治罪法上ノ證人ニ付テハ其鑑定人ニ付キ說明シタルト同一ノ斷案ヲ得ヘシ

本罪ノ刑ハ四圓乃至四十圓ノ罰金トス

第六款　醫師傳染病ニ關シ病患ノ檢査又ハ消

滅方法ノ陳述ヲ肯セサル罪及ヒ其科刑

本罪ノ主體ハ醫師又ハ獸醫トス

本罪ノ成立ニハ一定ノ時期、一定ノ事實及ヒ一定ノ不作爲ヲ必要トス

一、傳染病流行ノ時期又ハ傳染病者又ハ傳染病ヲ疾ム獸畜ノ乘船スル疑アル艦船入港ノ際　傳染病ニハ人類ニ關スル傳染病及ヒ獸類ニ關スル傳染病ノ區別アリ人類ニ關スル傳染病ノ何タルヤハ傳染病豫防法第一條ニ依リ又所謂獸類及ヒ獸類ノ傳染病ノ何タルヤハ獸疫豫防法第八條ニ之ヲ定ム

二、病患ノ檢査又ハ消滅ノ方法ノ陳述ヲ命セラレタル事實

三、病患ノ檢査又ハ消滅方法ノ陳述ヲ肯セサル不作爲

本罪ノ刑ハ醫師ニ付テハ五圓乃至五十圓ノ罰金、獸醫ニ付テハ三圓八十五錢乃至三十八圓五十錢ノ罰金トス

第四章　信用ヲ害スル罪及ヒ其科刑

第一節　總論

信用ヲ害スル罪ト云フハ畢竟公ノ信用ヲ害スル罪ヲ謂フ然ラハ公ノ信用ヲ害スル罪トハ如何信用ニ公私ノ區別ヲ爲シ難キハ恰モ利益ニ公私ノ區別ヲ認メ難ク法律ニ公私ノ區別ヲ認メ難キニ同シ立法論トシテハ公ノ信用ヲ害スル罪ナルモノヲ認メ難シト雖モ刑法カ既ニ此區別ヲ認メタル以上ハ少シク其趣意ヲ說明セサルヘカラス

廣ク信用ヲ害スル罪ト云ハヽ其大要ハ千差萬別ナルヘシト雖モ其共通ノ要點ハ人ヲ欺罔スルニアリト信ス欺罔トハ人ヲ錯誤ニ陷ラシムルコトヲ謂ヒ欺罔手段ハ之ヲ大別シテ虛言及ヒ僞物ノ作製ノ二トナスコトヲ得ヘシ

一、虛言　虛言トハ主トシテ聽官ヲ利用シテ人ヲ錯誤ニ陷ラシメントスル作用ヲ謂フ凡ソ法律ハ常識アル者ヲ保護スルコトヲ目的トシ特別ニ愚鈍ナル者ヲ保護スルコトヲ目的トセス而シテ虛言ニ因リ欺罔セラルヽハ欺罔セラルヽ者ノ愚鈍ナルニ原因スルコト多シ故ニ刑法ノ如キモ虛言ハ僅少ノ場合ノミヲ罪トナシタリ例ヘハ詐欺取財罪ニ於ケル虛言、幼者誘拐罪ニ於ケル欺罔的勸誘、身分詐稱罪ニ於ケル虛僞ノ身分ノ供述、僞證罪ニ於ケル虛僞ノ事實ノ供述其他ナ

リトス

二、偽物ノ作製　偽物ノ作製トハ主トシテ視官ヲ通シテ人ヲ錯誤ニ陥ラシメントスル作用ヲ謂フ或種ノ物ハ物自體ニ於テ一定ノ意義ヲ有スルコトアリ此種ノ物ヲ偽造シタルトキハ之ニ接觸スル者ハ其偽物ニ對シテモ亦通常其物自體ノ有スル一定ノ意義ヲ了知シ其了知スルニ因リテ錯誤ニ陥ルヘシ刑法ハ此種類ノ物ノミノ偽造ヲ罪トナシタリ例ヘハ貨幣、文書、印章、投票、免狀、鑑札、度量衡ノ偽造、身分詐稱ニ於ケル虛偽ノ身分ノ記載、詐欺取財ニ於ケル偽物ノ作製等ナリトス證據資料ノ偽造モ亦罪トナスヘキモノナリト雖モ刑法ハ之ヲ罪トナサス」而シテ公ノ欺罔罪即チ公ノ信用ヲ害スル罪ト云フハ前ニ述ヘタル欺罔中廣キ範圍ニ於テ害ヲ及ホス罪ヲ謂フ是レ刑法カ詐欺取財、幼者誘拐等ノミヲ私ノ欺罔罪トナシ他ハ之ヲ公ノ信用ヲ害スル罪トナシタル所以ナリ然レトモ貨幣偽造罪ノ如キモ其被害ハ單ニ一人ニ止マルコトアリ又詐欺取財罪ト雖モ其被害カ數千人ニ及フコトアルノミナラス又數千人ニ及フヘキ性質ヲ有ス是レ余輩カ理論上正確ニ公ノ信用ヲ害スル罪ナル詞ヲ解スル能ハスト言フ所以ナリ

第二節　貨幣偽造罪及ヒ其科刑

第一款　總論

リストハ貨幣偽造罪ハ特定ノ有價章ニ對スル違法行爲ナルコトヲ其特徵トス故ニ貨幣罪ニ因リ攻擊セラルヽ目的物ハ公ノ信用(法律的交通ニ於ケル誠實及ヒ信用)ト稱スル有名無實ノ法物ニアラス此學說ハ精緻ナル見解ニ背馳ス又法律上重要ナル事實ヲ證明スル特定ノ形式ノ信用(證據力)ニアラス是レ立法者カ刑ヲ規定スルハ貨幣自體ノ純正ヲ害スル故ニアラス此純正ヲ傷害スル結果其他ノ法物即チ個人ノ財產上ノ利益、法律上ノ交通ノ秩序ニ關スル公衆ノ利益竝ニ國家ノ造幣ノ特權ヲ危殆ニスル故ナリ故ニ貨幣罪ハ貨幣ノ妄用トシテ直チニ攻擊方法ニ依リ特表スル罪ニ屬スト言ヘリリストハ上ニ述ヘタル如ク攻擊方法ニ依リ特表スル罪ナル罪種ヲ認メタルヲ以テ貨幣ニ關スル罪ヲ放火、失火其他ノ罪ト共ニ其罪種中ニ屬セシムルコトハ固ヨリ當然ナリリストノ所論ハ直チニ之ヲ我刑法ニ應用スルコト能ハスト雖モ亦多少研學ノ資料トナスニ足ルヘシ

刑法ハ貨幣ヲ偽造スル罪ト題ス然レトモ本節中ニ規定セル罪ハ單ニ偽造罪ノミ

ニアラス(一)僞造又ハ變造行使罪(二)行使ノ目的ニ出テタル僞造又ハ變造罪(三)行使ノ目的ニ出テタル僞造器械ノ準備罪(四)行使ノ目的ニ出テタル僞造又ハ變造ノ幇助罪(五)僞造又ハ變造ノ貨幣輸入罪(六)僞造又ハ變造ノ貨幣ヲ取受シ之ヲ行使スル罪(七)取受後僞造又ハ變造ノ貨幣ナルコトヲ知リテ之ヲ行使スル罪ヲ規定ス故ニ正確ニ論スレハ本節ハ貨幣ニ關スル罪又ハ貨幣ノ僞造又ハ變造及ヒ僞造又ハ變造貨幣ノ行使ニ關スル罪ト題スヘシ變造ヲ僞造ノ一種トナストスルモ貨幣僞造又ハ僞造貨幣ノ行使ニ關スル罪ト題セサルヘカラス

第一、貨幣

貨幣トハ有權者カ其物自體ニ於テ價格ノ標準タルコトヲ證明シタル物ヲ謂フ然レトモ刑法上貨幣ノ何タルヤヲ論スルニハ嚴格ナル意味ニ於ケル貨幣及ヒ現行ノ貨幣ニ付キ研究セサルヘカラス貨幣ニハ內國貨幣及ヒ外國貨幣ノ區別アレトモ外國貨幣ハ其外國ニ於テハ尙ホ內國ノ貨幣ナルヲ以テ今專ラ我國ノ貨幣ニ付キ說明スルトスルモ自ラ外國貨幣ノ何タルヤヲ了解スルヲ得ヘシ我國法ニ依レハ上ニ述ヘタル有權者ハ主トシテ國家自體ニシテ唯例外トシテ銀行タルコトアリ明治三十年三月法律第十六號貨幣法第一條ニハ貨幣ノ製造及ヒ發行ノ權ハ政府ニ屬スト規定シ明治十五年六月第三十二號布告日本銀行條例第十四條ニハ日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スル權ヲ有ス云々ト規定セルニ依リテ之ヲ知ルヘシ然ラハ現今ニ於テハ政府又ハ日本銀行カ其物自體ニ於テ價格ノ標準タルコトヲ明示シタル物カ貨幣ナリト解セサルヘカラス貨幣ノ種類ハ大別シテ紙幣及ヒ鑄貨ノ二トナスヘク紙幣トハ兌換銀行券ノミヲ謂ヒ鑄貨トハ貨幣法第二條ニ依レハ金貨、銀貨、白銅貨及ヒ靑銅貨ノ種類アリ未發行ノ貨幣ハ未來ノ貨幣ニシテ廢止セラレタル貨幣ハ過去ノ貨幣ナリ共ニ嚴格ナル意味ニ於ケル貨幣ト云フコトヲ得サルハ勿論ナリ然レトモ何レノ國ニ於テモ貨幣ハ直チニ之ヲ廢止セス先ツ其通用ヲ廢止シ一定ノ引換期間ヲ定メ其期間ノ經過シタル時ニ於テ貨幣ヲ廢止ス故ニ通用廢止後引換期間ノ滿了前ニ於ケル貨幣ハ嚴格ナル意味ニ於ケル貨幣ナリヤ否ヤニ付テハ學者間ニ異論アル所ナリ

一、國立銀行紙幣　明治九年第百六號布告國立銀行條例ニハ國立銀行ハ政府

ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取リ引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シテ以テ其業ヲ營ムモノナリ云々ト規定シ爾來國立銀行紙幣ヲ見ルニ至リシカ明治二十九年法律第八號國立銀行紙幣ノ通用及ヒ引換期限第一條ニ依レハ國立銀行紙幣ノ通用期限ハ明治三十二年十二月九日ニシテ同第二條ニ依レハ其引換期限ハ通用期限經過後五年間ナリ故ニ現時ニ於テハ國立銀行紙幣ハ通用ヲ廢止セラレ唯其引換ヲ請求シ得ル貨幣タルナリ

二、政府發行ノ紙幣　明治四年十二月ノ布告ニ依リ政府ハ四種ノ紙幣ヲ發行シタリシカ明治三十一年六月法律第六號政府發行紙幣通用廢止ニ依リ明治三十二年十二月三十一日限リ其通用ヲ廢止シ明治二十三年法律第十三號通用禁止ノ貨幣引換期限ニ關スル件ハ此法律ニモ其適用ヲ有スヘキヲ以テ政府發行ノ紙幣モ通用廢止後滿五个年間ハ引換ヲ請求シ得ヘキモノトス

此種ノ貨幣ハ過古ノ貨幣ニシテ固ヨリ廣義ノ貨幣タルコトヲ失ハスト雖モ(1)上述シタル如ク新法ハ常ニ其通用ヲ廢止スト言ヘリ此種ノ貨幣ハ引換期間內ハ尙ホ事實上通用スト雖モ法律上ハ明文ヲ以テ其通用ヲ廢止セラレタルモノニシテ嚴格ナル意義ニ於ケル貨幣ト言フコトノ不當ナルハ辯ヲ俟タサルノミナラス(2)立法論ニ於テモ事實上通用スル舊貨幣ト雖モ之ヲ貨幣ト認メス從テ其偽造ヲ貨幣偽造ヲ以テ論セサルヲ見レハ通用廢止後ノ貨幣ヲ故ラニ保護シテ之ヲ貨幣トナシ其偽造ヲ貨幣偽造トナスヘキ特別ノ必要ナキカ如シ余ハ此種ノ貨幣ヲ嚴格ナル意義ニ於ケル貨幣ト云ハサルヲ可トスル者ナリ然レトモ此等ノ點ニ付キテハ固ヨリ別種ノ論理ヲ創始スル餘地ナシト獨斷スルニアラス

第二、貨幣ノ偽造及ヒ變造

貨幣ノ偽造トハ眞貨ヲ基礎トナサスシテ他ノ眞貨ヲ模造スルヲ謂ヒ其模倣ハ一般世人ヲシテ眞貨ナリト錯誤セシムル程度ニ達スルコトヲ必要トス

一、貨幣ノ模造　貨幣ノ偽造トハ眞貨ノ模造ヲ謂フ故ニ必スヤ眞貨ヲ模範トナシ眞貨ニ模倣シテ製作シタルコトヲ必要トス故ニ三十錢銀貨ノ模造ハ刑法上之ヲ偽造ト云フヘカラサル如シ

(1) リストハ僞造ヲ定義シテ違法ニ眞正ナラサル貨幣ヲ製造スルコトヲ謂フト言フ故ニリストノ見解ニ從ヘハ僞造ハ必スシモ眞貨ニ模倣シタルコトヲ必要トセス

(2) フランクハ僞造ヲ定義シテ貨幣ヲ模倣スルコトナリト言フ故ニ僞造タルニハ眞貨ヲ模範トスルコトヲ要スト雖モ現實ニ其眞貨ニ模倣シタルト又ハ記憶ニ依リ其眞貨ニ模倣シタルトヲ區別セスト言ヘリ

(3) オルスハウゼンハ僞造ニ付テ曰ク僞造ニハ貨幣ノ模倣即チ模造、模擬物ノ作製ヲ必要トス故ニ特定ノ貨幣ヲ模範トセス玩弄紙幣ヲ模範トナシタルトキハ之ヲ僞造ト云フコトヲ得スト

二、模造　模造トハ模倣シテ製作スルコトヲ謂フ故ニ(1)僞造シタル貨幣カ眞正ノ貨幣ニ比較シ同等又ハ優等ナル貨幣ナルト劣等ナル貨幣タルトハ模造タルニ於テ何等ノ影響ナシ(2)模造トハ形式ニ付テ言ヘハ造幣權ヲ害シタル行爲ニシテ實質ニ付テ言ヘハ眞正ナラサル貨幣ヲ製作スル行爲ナルコトハ勿論ナリ

(イ) 模倣　模造トハ上述セル如ク眞貨ニ模倣シテ製作スルコトヲ要ス然ラハ苟モ眞貨ニ模倣シテ製作セル物ナラハ總テ之ヲ僞造貨幣ト云フコトヲ得ヘキヤ是レ所謂類似ノ要不要ノ問題ヲ生スル所以ナリ余輩ハ僞造トハ眞貨ニ模倣シテ製作スルノミナラス又其眞貨ニ類似スルコトヲ必要トシ其類似ハ一般世人ヲシテ眞貨ト錯誤セシムル程度ニ達スルコトヲ必要ナリト信ス大審院ノ判決例ノ要旨ニハ貨幣ノ僞造ハ同質ナラス又ハ粗造ナリト雖モ他人ヲ欺罔スルニ足レハ其罪成立ストナセリ

(1) フランクハ僞造貨幣トハ通常金錢上ノ取引ニ付キ爲スヘキ注意ヨリ比較的高度ノ注意ニ因リ始メテ眞貨ト區別シ得ヘキ程度ニ於テ眞貨ニ類似スルコトヲ要スト言ヒ

(2) リストハ眞貨ト一定ノ程度ニ於ケル類似ヲ必要トスルコトハ自明ノ理ナリ若シ類似セサル場合ニ於テハ貨幣僞造ノ不能ノ未遂又ハ欺罔射利ノ既遂ノミヲ構成スヘシ然レトモ短時期間流通スヘキ虞アルヲ以テ足レリトシ類似ハ普通ノ取引上錯誤ヲ惹起スヘキ程度ニアルヲ以テ足レリト

スト言ヘリ

(3) オルスハウゼンハ此場合ニ於テ虛僞ノ貨幣カ他人ヲ欺罔スヘキ程度ニ於テ類似スルヤ否ヤハ事實問題ナリ虛僞ノ貨幣即チ僞造貨幣ノ性質カ普通ノ取引ニ於テ誠實ナル人ヲ欺罔スルニ足ルヲ以テ充分ナリトスト言ヒ尙ホ僞造ハ模造ナリト論斷スルニ拘ハラス彼ノ三拾錢銀貨ノ僞造ノ如キハ事實問題トシテ眞貨ヲ模造シタリト云ヒ得ヘキノミナラス僞造ニ必要ナル類似アリト云フコトヲ得ヘシト論定セリ

(ロ) 製作 理論上ヨリスレハ眞貨ニ模倣シテ製作スルニ二種ノ場合アリ得ヘシ

(1) 眞貨ヲ製作上ノ基礎トスル場合

(2) 否ラサル場合

是ナリ然レトモ刑法ハ後ニ述フルカ如ク眞貨ヲ製作ノ基礎トナシ他ノ眞貨ヲ模造シタルトキハ之ヲ變造トナシ僞造ト云ハス故ニ僞造タルニ必要ナル製作ハ單ニ眞貨ヲ基礎トナサヽルモノヲ謂フト解セサルヘカラス是レ余輩カ僞造ノ定義ニ眞貨ヲ基礎トナサスシテナル副詞ヲ加ヘタル所以ナリ

貨幣ノ變造トハ眞貨ヲ基礎トナシ他ノ眞貨ヲ模造スルコト又ハ眞正ノ鑄造貨幣ノ原質ヲ削減スルコトヲ謂フ眞正ノ鑄造貨幣ノ原質ヲ削減スルコトハ刑法上變造ノ一體樣ナルコトハ疑ナシト雖モ立法論トシテハ其法制ヲ否認スル餘地アルヲ見ル蓋シ二錢銅貨ニ工作ヲ加ヘ其名價ヲ變更シテ二拾錢銀貨ヲ變造スルハ眞貨ヲ變更スルト同時ニ二拾錢ナル眞貨ヲ模造スルヲ以テ此種類ノ變造ハ理ニ於テハ毫モ僞造ニ異ナルコトナク共ニ造幣權ヲ害シ且眞正ナラサル貨幣ヲ製作スル行爲ニ屬スルニ拘ハラス眞正ノ鑄造貨幣ノ原質ヲ削減スルコトハ固ヨリ不正違法ノ行爲ナルヘシト雖モ造幣權ヲ害スル行爲ニアラス又貨幣ヲ製作スル行爲ニモアラス然ルニ此性質上大ナル區別アル二行爲ヲ變造ト云フ一ノ語句中ニ包含セシムルハ單ニ理論上ヨリ云フモ失當ナルノミナラス又實際上ニ於テモ亦大ナル不便アリ獨逸刑法其他歐洲各國ノ刑法ノ多數ハ貨幣ノ僞造變造ト貨幣ノ原質ヲ削減スルコトヽハ全然之ヲ區別セリ余輩ハ此法制ヲ可トスルヲ以テ變造ノ

何タルヤヲ説明スルニ付テモ之ヲ二大別シテ其眞意義ヲ解説スル所アラントス」

一、眞貨ヲ基礎トナス他ノ眞貨ノ模造　此種ノ變造ニ付テモ其模倣ハ一般世人ヲシテ眞貨ト錯誤セシムル程度ニ達スルコトヲ必要トスルハ勿論ナリ學者多ク僞造ノミニ付テハ類似ノ要不要ノ問題ヲ攻究スト雖モ未タ變造ニ付テ此問題ヲ攻究セシヲ聞カス而シテ二錢銅貨ニ銀鍍金(メッキ)ヲ爲スト雖モ未タ其名價ヲ變セサル行爲ノ如キハ余輩ノ信スル所ニ依レハ此種ノ變造ニ必要ナル類似ナキモノナルヲ以テ概言スレハ名價ヲ變更セサレハ縱令他ノ工作ヲ加フト雖モ此種ノ變造ニアラサルカ如シ而シテ此種ノ變造ハ

(1) 鑄造貨幣ニ付テ云ヘハ拾錢銀貨ニ工作ヲ加ヘ名價ヲ變シ一圓金貨ヲ模造スル行爲等ヲ謂フ然レトモ眞貨ヲ製作ノ基礎トスルコトハ此種ノ變造ノ要件ナリ故ニ事實上眞貨ヲ利用シテ製作シタル場合ト雖モ眞貨ト云フコトヲ得サル程度ニマテ破壞セラレタル物ヲ利用シタルトキハ之ヲ變造行爲ナリト云ハス例ヘハ二錢銅貨及ヒ五拾錢銀貨ヲ縱斷シテ各其一片ヲ合シテ五拾錢銀貨ヲ變造スル行爲ノ如シ此等ノ場合ニ於テハ固ヨリ事實問題ナリト雖モ余輩ハ此種類ノ行爲ハ眞貨ヲ眞貨トシテ製造ノ基礎トナシタル行爲ニアラスト認定スルヲ以テ從テ之ヲ僞造行爲ト云ヒ變造行爲トハ云ハス

(2) 紙幣ニ付テ言ヘハ論理上眞正ノ紙幣ヲ基礎トシテ他ノ眞正ノ紙幣ヲ模造スル行爲ヲ謂フト雖モ事實上豫想スルコトヲ得ルハ單ニ其名價ヲ變更スル行爲ノミナリ例ヘハ一圓紙幣ノ名價ヲ變シテ五圓紙幣ヲ模造スル行爲ノ如キ是ナリ

二、眞正ノ鑄造貨幣ノ原質ヲ削減スルコト　此種類ノ變造ハ器械的又ハ化學的作用ニ依リ其原質ヲ削減シ因リテ其價額ヲ減損セシムル行爲例ヘハ其緣邊ヲ削ルコト穴ヲ穿チ原質ヲ取リ出スコト等ニシテ鑄造貨幣ノミニ付テ考フルコトヲ得ヘク紙幣ニ付テハ豫想スルコトヲ得サルモノニ屬ス是レ其適用ヲ鑄造貨幣ノミニ限定シタル所以ナリ

貨幣ノ僞造及ヒ變造ニ付キ余輩ノ信スル所ハ既ニ上ニ述ヘタリ今一二ノ適用例ヲ掲ケテ其趣意ヲ明カニスヘシ

一、銅貨ニ銀鍍金ヲ爲シ其名價ヲ變セサル行爲　銅貨ニ銀鍍金ヲ爲シタル如キ

ハ銀貨ヲ模造シタルモノニ外ナラサルヲ以テ眞正ノ銅貨ヲ基礎トシテ銀貨ヲ變造シタルモノヽ如シト雖モ此場合ニ於テハ僞造又ハ變造ニ必要ナル類似ノ程度ニ達セス換言スレハ一般世人ヲシテ眞正ノ銀貨ト錯誤セシムルニ足ラス故ニ斯ル行爲ハ之ヲ僞造又ハ變造ナリト云フ能ハス大審院ノ判決例ハ同質ノ貨幣ヲ變更スル行爲ヲ變造トシ他質ノ貨幣ヲ改メテ水銀ヲ鍍金スル等ノ所爲ヲ僞造トナス故ニ本問ノ場合ノ如キハ僞造ヲ以テ問擬スルヲ要スヘシト雖モ良好ノ判決例ニアラスト信ス

二、銅貨ニ銀鍍金ヲ爲シ其名價ヲ變更シタル行爲　此種ノ行爲ハ純然タル變造ナリ然ルニ判決例ハ前ニ述ヘタル理由ニ因リ之ヲ僞造トセリト雖モ是レ亦良好ノ判決例ト云フコト能ハス大審院ノ判決例ノ要旨ニ曰フ銅貨ノ名價等ヲ削除シ水銀ヲ以テ之ニ塗飾シ銀貨ニ代ヘ之ヲ使用シタルトキハ銀貨僞造ヲ以テ論スヘシト

三、日本銀行ヲ錄行トシ一圓ヲ一團トナシテ兌換券ヲ模造スル行爲　此種ノ行爲ハ純然タル僞造ナリ是レ此等ノ誤アリトスルモ尙ホ其模造紙幣ハ一般世人ヲ欺罔スルニ足ル程度ニ達スレハナリ而シテ大審院モ貨幣取受罪ニ付テノ判決ニ依リ上述シタル所ト同一ノ趣意ヲ明示シタリ然レトモ學者或ハ之ヲ僞造紙幣ト見サル者アリ斷案ノ異ナルハ一ニ事實認定ノ如何ニアリトス

學者或ハ曰ク

一、貨幣僞造トハ眞正ナラサル貨幣ヲ製作スル行爲ヲ謂フト　余輩ト雖モ僞造トハ眞正ナラサル貨幣ノ製作ナリト思料ス然レトモ余輩ハ眞正ノ貨幣ヲ製作ノ基礎トナサヽルコト及ヒ眞正ノ貨幣ニ模倣スルコトノ二條件ヲ揭クルニアラサレハ完全ニ僞造ヲ定義シタルモノト云フヘカラスト信ス是レ上ニ述ヘタル第一種ノ變造モ眞正ナラサル貨幣ヲ製作シタル行爲ニ外ナラスシテ論者ノ說ク所ニ依レハ眞正ノ貨幣ヲ基礎トナサヽルコトヲ必要トセサルヲ以テ此種類ノ僞造ト變造トハ其定義ノ上ヨリ之ヲ區別スルニ由ナク論者ト雖モ僞造貨幣ハ一定ノ程度ニ於テ眞正ノ貨幣ニ類似スルコトヲ要セスト斷言スルコト能ハサルヘシ既ニ眞正ノ貨幣ト類似スルコトヲ要ストナサハ一定ノ程度ニ於テ類似スルヤ否ヤハ固ヨリ事實問題ニ屬スト雖モ眞正ノ貨幣ヲ模型トシテ製作

シタルニアラスンハ多クノ場合ニハ僞造ナリト云フコトヲ得ス故ニ寧ロ眞正ノ貨幣ヲ模型トシテ製作スルコトヲ僞造ノ要件トナスコト論理ヲ明白ニスル便宜アルニアラスヤ

二、貨幣僞造トハ造幣權ヲ害スル行爲ヲ謂フト　余輩モ貨幣僞造ハ造幣權ヲ害スル行爲ナリト信スル者ナルモ造幣權ヲ害スル行爲ハ悉ク之ヲ貨幣僞造ト謂ヒ難キニアラスヤ論者ハ上ニ述ヘタル第一種ノ變造ハ造幣權ヲ害スル行爲ニアラスシテ正當ニ製作シタル貨幣ニ變更ヲ加フル行爲ナリト言フト雖モ此見解ハ單ニ縱ノ一面ノミヲ見タル嫌アルヲ免カレス今半錢銅貨ニ銀鍍金ヲ爲シ其名價ヲ二拾錢ト變シ之ヲ二拾錢銀貨トシテ行使シタリトセン此場合ニ於テ論者ハ半錢銅貨ニ加工シタル點ノミニ着眼ス是レ前ニ掲ケタル見解ヲ生スル所以ニシテ尙ホ二拾錢銀貨ニ類似セル物ヲ製作シタル點ニ着眼スルコトヲ忘却シタルモノナリ二拾錢銀貨ニ類似シタル物ヲ製作シタル點ヨリ見レハ前ニ述ヘタル第一種ノ變造モ亦造幣權ヲ害スル行爲ナリト云ハサルヘカラスシテ此點ニ於テ論者ノ見解ハ完全ナリト云フヘカラス

要スルニ僞造ト余輩ノ所謂第一種ノ變造トノ區別ハ理論ノ上ヨリ見レハ何等ノ區別ヲ認ムヘカラサルカ如シ故ニ立法論トシテ論スレハ僞造、變造ノ區別ヲ廢止シ僞造又ハ贋造ノ名稱ヲ以テ之ヲ一括シ廣ク眞貨ヲ模造スル行爲ヲ謂フモノトシ余輩ノ所謂第二種ノ變造ハ之ヲ原質ノ削減又ハ變造ト命名シテ明瞭ニ之ヲ僞造又ハ贋造ト區別スヘキモノト信ス

行使的ノ目ヲ以テ貨幣ヲ僞造シテ之ヲ行使スル罪及ヒ其科刑

第二款　行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ僞造シテ之ヲ行使スル罪及ヒ其科刑

第一項　總論

本款ノ說明ハ刑法第百八十二條乃至第百八十五條、第百八十七條及ヒ第百九十一條ニ關シ竝ニ明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例第十二條ニ關ス

本罪ハ所謂詐欺シテ利得ヲ得ル行爲ノ一種ニシテ眞正ナラサル貨幣ヲ呈示シテ取財セントシタル場合ニ於テ其貨幣カ上ニ述ヘタル所論ニ依リテ其類似ノ程度上ヨリ見テ僞造又ハ變造ノ貨幣ト云ヒ得ヘキトキノミニ關ス故ニ眞正ナラサル貨幣ヲ呈示シテ取財セントシタル行爲ト雖モ類似ノ程度ノ上ヨリ見テ其貨幣ヲ

偽造又ハ變造ノ貨幣ト云フコト能ハサル限リハ之ヲ第三百九十條ノ詐欺取財トシテ處斷スルノ外ナシ（明治二十八年四月法律第二十八號通貨及ヒ證劵模造取締法第一條、第二條參照）

第二項　罪

本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造シテ之ヲ行使スル行爲ニ關スル

第一、行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造スル行爲

一、行使ノ目的　行使ノ何タルヤハ後ニ述フヘシト雖モ偽造又ハ變造ハ行使ノ目的ニ出ツルニアラサレハ換言スレハ學術上ノ參考品ニ供スル目的又ハ造幣術ヲ修習スル目的ニ出テタルトキハ罪成立セス偽造又ハ變造ニ行使ノ目的ヲ必要トスルコトハ總則ヲ適用シテ判明スヘキ事項ニアラサルニ拘ハラス刑法ハ之ヲ明カニ記載セサルカ故ニ多少ノ疑ヲ招ク恐レナキニアラスト雖モ偽造又ハ變造ニ關スル規定ヲ通觀シテ刑法ノ眞意ヲ探究スレハ刑法カ殊更ニ行使ノ目的ヲ不必要ナリトナシタリト認ムヘキ根據ナシ故ニ余輩ハ行使ノ目的ニ出テタル偽造又ハ變造ニアラサレハ刑法上ノ偽造又ハ變造ニアラスト斷言シ從テ刑法カ之ヲ明カニ記載セサリシハ重大ナル缺點ナリト言ハント欲ス

二、一定ノ貨幣ノ偽造又ハ變造

本罪ニ關スル貨幣ハ內國及ヒ外國貨幣ナリトス

（イ）內國貨幣　偽造又ハ變造ノ目的タル內國貨幣ハ金貨幣、銀貨幣、政府發行ノ紙幣、官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣、銅貨幣トス然レトモ現今ニ於テハ政府發行ノ紙幣、國立銀行ノ紙幣ハ貨幣ニアラサルヲ以テ當然其適用ヲ失フヘク兌換銀行劵ハ兌換銀行劵條例第十二條ニ依リ官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ト同一視セラレ白銅貨幣ハ青銅貨幣ト共ニ所謂銅貨幣ト稱スヘキモノナルヲ以テ當然其適用ヲ受クヘシ之ヲ要スルニ現今ニ於ケル內國貨幣トハ金貨幣、銀貨幣、白銅貨幣、青銅貨幣及ヒ兌換銀行劵ナリトス刑法ハ此等ノ貨幣ニ對シ常ニ內國通用ノナル形容詞ヲ付シタリ內國通用ノトハ我日本國ニ於テ强制通用力ヲ有スト云フ意味ナリト解釋スル者アリ然レトモ余輩ハ苟クモ我國ノ貨幣ト云フナラハ凡テ或意味ニ於ケル强制通

用力ヲ有スルモノト云フヘク我國ハ貨幣ト云ヒ得ヘクシテ而モ或意味ニ於ケル强制通用力ナキモノハ之ヲ豫想スルコトヲ得スト信スルノミナラス嚴格ニ强制通用力アル貨幣ト云フナラハ唯金貨幣ヲ包含スルノミニシテ補助貨幣ナル銀貨幣、銅貨幣等ハ之ヲ包含セサルモノト云ハサルヘカラス是レ貨幣法第七條ニ依レハ金貨幣ハ其額ニ制限ナク通用シ銀貨幣ハ拾圓マテ、白銅貨幣及ヒ青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用スト規定スルヲ以テ或數額以上ニ於テハ銀貨幣及ヒ銅貨幣ハ强制的ノ通用力ヲ有セサルヲ以テナリ然ラハ余輩ハ刑法カ各內國貨幣ニ付キ內國通用ノト云フ形容詞ヲ付シタル理由ノ何クニ在ルヤヲ解スルニ苦ム思フニ刑法ハ貨幣ナル詞ヲ余輩ノ如ク嚴格ナル意味ニ解釋セサリシヲ以テ從テ內國通用ノト云フ形容詞ヲ付シテ我國法上通用スル貨幣ト云フ意味ヲ表ハサントシタルニ過キサルヘシ

(ロ) 外國貨幣　偽造又ハ變造ノ目的物トナル外國ノ貨幣ハ外國ノ國法上通用力ヲ有スル金貨幣、銀貨幣及ヒ外國政府ノ許可ヲ得テ發行スル所ノ銀行紙幣ニシテ內國ノ國法上通用力ヲ有スルモノヲ謂フ外國貨幣ニシテ內國ノ國法上通用力ヲ有スルモノハ歐洲ニ於ケル銀貨同盟國ニ見ルコトヲ得ルモ現今我國ニ於テハ絕無ナリトス刑法ハ單ニ外國ノ金銀貨ト規定シアルモ嚴格ナル意味ニ於ケル外國ノ金銀貨即チ外國ノ國法上通用力ヲ有スル金銀貨ナルコトハ勿論ナリ刑法ハ內國ニ於テ通用スルト云フ形容詞ヲ付セリ故ニ論者或ハ曰ク是レ內國ニ於ケル任意通用ノ意味ナリト然レトモ若シ此學說ヲ採ルトスレハ內國ニ任意通用スル外國ノ貨幣ノ偽造又ハ變造行使ハ之ヲ罪トスルニ拘ハラス何故ニ內國ニ任意通用スル內國貨幣ノ偽造又ハ變造行使ヲ罪トセサルカト云フ批難ヲ免カルヽ能ハス余輩ハ此說ヲ採ラス

第二、偽造又ハ變造ノ貨幣ヲ行使スル行爲

行使トハ所謂流通ニ置クノ義ニシテ流通ニ置クト云フハ眞貨トシテ通用スヘキ手段ヲ施スコトヲ謂フ故ニ苟クモ眞貨トシテ通用スヘキ手段ナレハ自己カ直接ニ眞貨トシテ使用スルト又ハ間接ニ他人ヲシテ眞貨トシテ使用セシムル

トヲ區別セス今行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ僞造シタル者カ僞造貨幣ナルコトヲ知リテ之ヲ購買セントスル者ニ賣リタリトス此場合ニ於テハ僞造者ハ間接ノ方法ニ依リテ眞貨トシテ通用セシメントスルモノニシテ勿論行使シタリト云フコトヲ得ルナリ大審院ノ判決例ハ僞造貨幣ナルト云フ情ヲ知ル者ニ賣與スルハ行使ニアラストセルモ其誤ナルコトハ現ニ一般學者ノ認ムル所ナリ

第三項　刑

第一、內國貨幣ノ僞造又ハ變造行使

一、金貨幣、銀貨幣又ハ紙幣ノ僞造行使ニ對シテハ無期徒刑ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ輕懲役ヲ科ス

二、兌換銀行券ニ付キテハ兌換銀行券條例ヲ適用シテ第百八十四條ニ依リ其他ノ許可ヲ得テ發行スル銀行紙幣ニ付テハ直チニ第百八十四條ニ依リ共ニ第百八十二條ニ從テ其僞造行使ニ對シテハ無期徒刑ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ輕懲役ヲ科ス

三、銅貨幣ノ僞造行使ニ對シテハ輕懲役ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ主刑トシテ一年乃至三年ノ重禁錮、附加刑トシテ六月乃至二年ノ監視ヲ科ス

第二、外國貨幣ノ僞造又ハ變造行使

一、金貨幣又ハ銀貨幣ノ僞造行使ニ對シテハ有期徒刑ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ主刑トシテ二年乃至五年ノ重禁錮ヲ科シ附加刑トシテ六月乃至二年ノ監視ヲ科ス

二、許可ヲ得テ發行スル銀行紙幣ニ付テハ第百八十四條、第百八十三條ニ依リ其僞造行使ニ對シテハ有期徒刑ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ二年乃至五年ノ重禁錮六月乃至二年ノ監視ヲ科ス

而シテ其內國貨幣タルト外國貨幣タルトヲ區別セス凡テ其僞造又ハ變造行使ニ對シ特別ノ減輕事由ニ因リ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキハ常ニ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘキモノトス

行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ僞造スル罪及ヒ其科刑

第三款　行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ僞造スル罪及ヒ其科刑

刑法ハ貨幣ノ僞造、變造既ニ成リテ未タ行使セサル者ト云ヒ即チ暗默ノ中ニ自ラ

行使ノ目的ニ出テタル僞造又ハ變造ノミヲ豫想シタルコトヲ知ルニ足ルヘク而シテ本罪ニ行使ノ目的ヲ必要トナスヘキコトハ既ニ上ニ述ヘタリ

一、行使ノ目的

二、一定ノ貨幣ヲ僞造又ハ變造スル行爲ノ既遂又ハ未遂

所謂一定ノ貨幣ト云フハ僞造行使罪ニ付テ述ヘタルモノヲ謂フ僞造又ハ變造ノ行爲ノ成立スル時期即チ此罪ノ成立時期ニ關シテハ固ヨリ事實問題ナレトモ通說ニ依レハ僞造又ハ第一種ノ變造ハ共ニ名價ヲ付スル時期ニ於テ完成スルモノトナスカ如シ

本罪ニ付テハ其或種類ノ豫備モ亦之ヲ罪トス即チ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ僞造スル爲メ僞造器械ヲ豫備スル行爲ナリ僞造器械トハ客觀的ニ僞造ノ用ニ供スヘキ器械ト認ムヘキモノヲ謂フ故ニ事實上單ニ僞造ノ用ニ供スヘキ器械ト云フコトハ同一趣旨ニ歸ス

本罪ノ刑ハ

一、僞造又ハ變造ノ既遂ニ對シテハ其貨幣ノ僞造又ハ變造行使ニ對シ科スヘキ刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑トシ

二、僞造又ハ變造ノ未遂ニ對シテハ其貨幣ノ僞造又ハ變造行使ニ對シ科スヘキ刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑トシ

三、僞造器械ノ豫備ニ對シテハ其貨幣ノ僞造又ハ變造行使ニ對シ科スヘキ刑ヨリ三等ヲ減輕シタル刑トス

而シテ何レノ場合ニ於テモ本罪ニ對シ當然又ハ特別ノ減輕事由ニ依リ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘキコトハ勿論ナリ

本罪ニ付テハ自首免除ノ特例ヲ認ムル故ニ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ僞造又ハ變造シタル者カ一般ノ自首ニ必要ナル條件ヲ具備シタル自首ヲ爲シタルトキハ其刑ヲ全免シ單ニ六月乃至三年ノ監視ノミヲ科スヘキナリ

第四款　行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ僞造セントスル者ノ囑託ヲ受ケテ之ヲ僞造シタル罪及ヒ其科刑

本罪ハ一定ノ事實及ヒ一定ノ行爲ニ因リテ成立ス

行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ僞造セントスル者ノ囑託ヲ受ケテ之ヲ僞造シタル罪及ヒ其科刑

刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑トシ

二、僞造又ハ變造ノ未遂ニ對シテハ其貨幣ノ僞造又ハ變造行使ニ對シ科スヘキ刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑トシ

三、僞造器械ノ豫備ニ對シテハ其貨幣ノ僞造又ハ變造行使ニ對シ科スヘキ刑ヨリ三等ヲ減輕シタル刑トス

而シテ何レノ場合ニ於テモ本罪ニ對シ當然又ハ特別ノ減輕事由ニ依リ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘキコトハ勿論ナリ

本罪ニ付テハ自首免除ノ特例ヲ認ムル故ニ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ僞造又ハ變造シタル者カ一般ノ自首ニ必要ナル條件ヲ具備シタル自首ヲ爲シタルトキハ其刑ヲ全免シ單ニ六月乃至三年ノ監視ノミヲ科スヘキナリ

第四款　行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ僞造セントスル者ノ囑託ヲ受ケテ之ヲ僞造シタル罪及ヒ其科刑

本罪ハ一定ノ事實及ヒ一定ノ行爲ニ因リテ成立ス

第一、行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造セントスル者ノ囑託ヲ受ケタル事實

第二、一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造スル行爲若クハ之ヲ幇助スル行爲

刑法ハ雇ヲ受ケタル職工ト規定スト雖モ必スシモ雇傭契約ヲ爲スコトヲ要セス又必スシモ職工ナル身分ヲ有スルコトヲ必要トセスシテ單ニ囑託ヲ受ケテ偽造又ハ變造ヲ爲ス者ト云フニ同シ

本罪ハ一種ノ結果罪ナリト解釋スルヲ妥當トス是レ刑法カ前數條ト規定シ前條ト規定セサルヲ以テナリ故ニ本罪ノ刑ハ囑託者カ行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造シテ行使シタル場合ト單ニ行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造シタル場合トニ依リ區別アルヘシト雖モ何レノ場合ニ於テモ囑託ヲ受ケ偽造又ハ變造シタル行爲ニ付テハ各囑託者ニ科スヘキ刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑トシ囑託ヲ受ケ偽造又ハ變造スル行爲ヲ幇助シタル行爲ニ付テハ囑託ヲ受ケ偽造又ハ變造ヲ爲ス者ニ科スヘキ刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減輕シタル刑トス而シテ本罪ニ付テモ當然又ハ特別ノ減輕事由ニ依リ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘキモノトス

本罪ニ付テハ總則ノ自首ノ條件以外ニ尙ホ囑託者ノ偽造又ハ變造貨幣ノ行使前ナル條件ヲ具備シタルトキハ刑ノ免除ノ特例ノ適用ヲ有ス

第五款　行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ偽造スル者ニ房屋ヲ給與スル罪及ヒ其科刑

本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造スル者ヲ幇助スル行爲ナリ

行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造スル者ヲ幇助スル行爲ハ必スシモ房屋給與ノミニ限ラサルモ刑法ハ幇助行爲中房屋給與ニ付キ特別ノ處斷例ヲ設ケ他ハ之ヲ總則ノ從犯トシテ處斷セントセリ

本罪ノ刑ハ偽造、變造ノ各本刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑トス所謂偽造、變造ノ各本刑ノ何タルヤニ付テハ異說アレトモ余輩ハ偽造罪又ハ變造罪ニ科スヘキ刑ヲ謂フト解釋ス論者或ハ第百八十二條乃至第百八十六條ニ記載シタル犯人ノ執行スヘキ刑ト解釋ス立法論トシテ或ハ適當ナランモ解釋論トシテハ採用スヘカラサル見解ナリト信ス

行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造スル者ニ房屋ヲ給與スル者ノ罪及ヒ其科刑

本罪ニ付テハ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加シ總則ノ自首ノ條件以外ニ被給與者ノ僞造又ハ變造貨幣ノ行使前ナリト云フ條件ヲ具備シタル自首ヲ爲シタルトキハ其本刑ヲ免除セラルヘシ

行使ノ目的ヲ以テ僞造ノ貨幣ヲ輸入スル罪及ヒ其科刑

僞造貨幣ノ行使罪及ヒ其科刑

第六款　行使ノ目的ヲ以テ僞造ノ貨幣ヲ輸入スル罪及ヒ其科刑

本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ僞造又ハ變造貨幣ヲ輸入スル行爲ナリ而シテ本罪ノ刑ハ僞造又ハ變造ニ科スヘキ刑ニシテ輕罪ノ刑ナルトキハ六月乃至二年ノ監視ヲ附科シ行使前自首シタルトキハ本刑ヲ免除シ六月乃至三年ノ監視ノミヲ科ス

第七款　僞造貨幣ノ行使罪及ヒ其科刑

僞造又ハ變造ノ貨幣ヲ行使スル行爲ハ種々ニ之ヲ區別スルコトヲ得

第一、自身僞造又ハ變造シタル貨幣ヲ行使スル行爲

第二、他人カ僞造又ハ變造シタル貨幣ヲ行使スル行爲

一、僞造又ハ變造ノ貨幣ナルコトヲ知リテ行使シタル場合

(イ)僞造又ハ變造ノ貨幣ナルコトヲ知リ之ヲ取受シタル場合

所謂取受トハ廣ク所持ヲ移スコトヲ謂ヒ其所持スルニ至リタル原因ハ法律行爲タルト不法行爲タルト又ハ罪タルトヲ區別セサルナリ

(ロ)僞造又ハ變造ノ貨幣ナルコトヲ知ラスシテ之ヲ取受シタル場合

二、僞造又ハ變造ノ貨幣タルコトヲ知ラスシテ行使シタル場合

上ニ述ヘタル行爲ノ中ニ於テ第二種ノ二ノ場合ノ罪ト爲ラサルハ當然ニシテ刑法カ罪トセルハ第一種ノ行爲及ヒ第二種ノ一ノ行爲ナリ而シテ第一種ノ行爲ハ僞造又ハ變造行使ニシテ既ニ之ヲ上述セリ即チ本款ニ於テ說明スルハ第二種ノ一ニ屬スル行爲ナリ

第二種ノ一ニ屬スル行爲ハ(イ)ノ場合ニ該當スルトキハ現ニ行使シタル場合ニ於テハ僞造又ハ變造行使ニ科スヘキ刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑ヲ科シ其未タ行使セサル場合ニ於テハ僞造又ハ變造行使ニ科スヘキ刑ヨリ三等ヲ減輕シタル刑ヲ科シ其刑カ輕罪ナルトキハ六月乃至二年ノ監視ヲ附科シ又行使前ニ自首シタルトキハ其本刑ヲ免除シテ六月乃至三年ノ監視ノミヲ科ス

第二種ノ一ニ屬スル行爲カ(ロ)ノ場合ニ該當スルトキハ其行使シタル貨幣ノ名價

ノ二倍ニ該ル罰金ヲ科シ何レノ場合ト雖モ其罰金ハ二圓以上ナルヘキモノト規定セリ

本罪ハ純然タル詐欺取財ニシテ刑法第三百九十條ノ詐欺取財ノ除外例ヲ爲スモノナリ故ニ類似ノ程度ヨリ見テ僞造又ハ變造ナリト云フコトヲ得ル模造貨幣ニ關スルトキハ本罪トシテ之ヲ處斷シ類似ノ程度ヨリ見テ僞造又ハ變造ナリト云フコトヲ得サル模造貨幣ニ關スルトキハ詐欺取財トシテ處斷スヘキモノトス而シテ刑法ハ詐欺取財ニハ自由刑ヲ科シ本罪ニハ罰金ヲ科ス到底二者ハ刑ノ輕重ニ付キ其權衡ヲ失スルモノト云ハサルヘカラスシテ刑法有數ノ缺點ナリトス

第八款　餘論

刑法改正案ハ第二編第十六章通貨僞造ノ罪ト題シテ刑法ノ規定ニ多少ノ修正ヲ加ヘタリ今其重ナルモノヲ擧クレハ四アリ

一、僞造、變造又ハ輸入ハ行使ノ目的ニ出ツヘキコトヲ明カニ定メタリ　僞造、變造又ハ輸入ハ行使ノ目的ニ出テタル場合ニアラスンハ刑法ニ於テモ之ヲ罪トナサヽルコトハ既ニ述ヘタリ然レトモ刑法ノ明文ハ直接ニ此目的ヲ必要トスル旨ヲ規定セサルヲ以テ或ハ異論ヲ生スル恐ナキニアラス故ニ改正案ハ各國ノ立法例ニ從テ此目的ニ出ツヘキコトヲ明定セリ

二、僞造、變造ヲ特別罪ト規定シタリ　刑法ハ僞造又ハ變造行使ヲ罪トナシ僞造又ハ變造既ニ成テ未タ行使セサル場合ヲモ亦罪トセリ余輩ハ上ニ述ヘタル如ク刑法ノ解釋トシテモ特別罪トシテ僞造又ハ變造ヲ罰シタルモノト解釋スレトモ刑法ノ明文ニ拘泥スレハ或ハ僞造又ハ變造ハ僞造又ハ變造行使ノ未遂トシテ特別ニ罰シタルモノト云フ解釋ヲ爲ス餘地アリト信ス僞造、變造ヲ純然タル特別僞造罪トナスト又ハ所謂僞造未遂罪トナストハ何等ノ重大ナル效果ヲ生スルコトナケレトモ寧ロ純然タル特別罪トナスヲ可ナリト信ス

三、內國貨幣ニ付テハ國法上ノ通用力ヲ必要トシ外國貨幣ニ付テハ任意通用ヲ以テ足レリトス　改正案ハ內國貨幣ニ付テハ通用ノト云ヒ外國貨幣ニ付テハ內國ニ流通スルト云フ其意、內國貨幣ニ付テハ國法上通用スルコトヲ必要トシ外國貨幣ニ付テハ內國ニ任意通用スルコトヲ以テ足レリトスルニアルコトヲ知ルヘシ內外國ノ貨幣ニ付テ此大ナル區別ヲ認ムルハ少ナクトモ理論上允當

ニアラサルコトハ既ニ述ヘタル所ナレトモ刑法ノ疑アル文字ヲ修正シテ明カニ一定ノ意味ヲ表ハサシメタルコトハ學者ノ多トスル所ナルヘシ

四、偽造又ハ變造、偽造又ハ變造行使及ヒ輸入ニ對シテ同一ノ刑ヲ科シタリ　刑法ハ先ツ內國貨幣、外國貨幣ヲ區別シ更ニ金銀貨、紙幣及ヒ銀行紙幣及ヒ銅貨ノ三ニ區別シ各特別ノ刑ヲ科スト雖モ改正案ハ刑ノ範圍ヲ廣汎ナラシムル法制ヲ採用シタルヲ以テ唯內國貨幣ト外國貨幣ヲ區別シテ特別ノ刑ヲ科セルノミニシテ偽造、變造ナルト偽造又ハ變造行使ナルト輸入ナルト金銀貨幣、紙幣ナルト銀行紙幣ナルト又ハ銅貨ナルトヲ區別セス凡テ同一ノ刑ヲ科シ其情狀ニ應シテ判事ノ判斷スル所ニ一任セリ

第三節　官印偽造罪及ヒ其科刑

第一款　總論

刑法ハ本節ヲ官印偽造罪ト題シ官印ニ關スル罪、印紙、界紙又ハ郵便切手ニ關スル罪ヲ規定シ私印ニ關スル罪ハ之ヲ別節ニ規定セリ印紙、界紙、郵便切手カ官印ト何等ノ關係ナキハ勿論ニシテ印紙其他ニ關スル罪ヲ本節中ニ規定シタルハ固ヨリ

不當ナルノミナラス官印ニ關スル罪ト私印ニ關スル罪トハ之ヲ別節ニ規定セサルヘカラサル理由ナク且之ヲ一節ニ概括シテ規定スルヲ便宜ナリトス故ニ改正案ノ如キハ印章偽造罪ナル節ノ中ニ官印又ハ私印ニ關スル罪ヲ網羅シテ規定セリ然レトモ印章ニ關スル罪ハ文書ニ關スル罪ト牽聯スル場合多キコトハ何人モ認ムル所ナルヲ以テ改正案ハ更ニ新ナル法制ヲ創始シテ文書偽造ニ牽聯スル印章偽造ハ之ヲ文書偽造ト共ニ一罪トナシ文書偽造罪中ニ之ヲ規定シタルハ最モ實際ニ便宜ナル修正ナリト云ハサルヘカラス

刑法ノ排列其宜シキヲ得サルハ斯ノ如クナリト雖モ余輩ハ刑法ノ排列ニ從テ本節ニ於テハ官印ニ關スル罪及ヒ印紙、界紙、郵便切手ニ關スル罪ヲ說明セントス

第二款　官印ニ關スル罪及ヒ其科刑

第一項　總論

官印ハ印章ノ一種ニシテ官印ノ何タルヤヲ論センニハ先ツ印章ノ何タルヤヲ研究セサルヘカラス今本罪ノ總論トシテ印章ノ何タルヤヲ說明スレトモ是レ單ニ刑法ノ排列ニ從テ說明ヲ爲サントスル結果ニ過キサルヲ以テ本項ノ說明ハ私印

ニモ亦關係スルモノト知ルヘシ

所謂印章トハ或ハ印顆ヲ謂ヒ或ハ印影ヲ謂フ印顆ト印影トハ全ク其本質ヲ異ニスルヲ以テ印章ノ何タルヤヲ説明スルニ付テモ此二者ヲ區別シテ論セサルヘカラス

印顆トハ物上ニ印影ヲ現出シ得ヘキ器具即チ携帶シ得ヘキ印刷器ニシテ概ネ單純ナル文字、圖畫又ハ記號等ヲ刻シタル物ヲ謂フ而シテ印顆ト印刷器トハ唯形體ノ大小及ヒ其裝置ノ單複ノ區別アルノミニシテ嚴格ニ此二者ヲ區別スルコト難シ

印影トハ印顆ヲ使用シテ物上ニ現ハシタル文字、圖畫又ハ記號等ヲ謂フ印影トハ要スルニ文字、圖畫、記號其他ヲ謂フモノナルヲ以テ印影ヲ單ニ文書、文字又ハ記號トシテ觀察スルトキハ多クハ其印影ヲ現出セル物ト共ニ所謂文書タルヘシ故ニ印影ト文書トノ區別ハ唯文字其他ノ現出スル物ヲ含ムト含マサルトニアリト雖モ印影ハ常ニ物上ニ現出スルヲ以テ實際上二者ハ時ニ一定ノ意思ヲ表示セサルコトアルト常ニ一定ノ意思ヲ表示スルトノ區別アルノミ故ニ一定ノ場合ニ於テハ印影ト文書トハ嚴格ニ之ヲ區別スルコト能ハス

而シテ印章トハ斯ノ如ク或ハ印顆ヲ謂ヒ或ハ印影ヲ謂フト雖モ印影ノミカ眞正ノ印章ト云ヒ得ヘキモノニシテ印顆ノ如キハ單ニ印影ヲ製作スル專用ノ器具タルニ過キス故ニ刑法ノ精神ハ畢竟印影ヲ保護スルニアリト雖モ印顆ハ印影ヲ製作スル專用ノ器具ニシテ印顆ヲ保護スルニアラスンハ印影ノ保護モ完全ナリト云フコトヲ得サルヲ以テ一歩ヲ進メテ印影製作ノ爲メノ專用具ヲモ保護シタルニ外ナラス

印章ニハ其印顆ナルト又印影ナルトヲ區別セス官印、私印ノ區別アリ私印ト云フハ私ノ事務ニ付キ使用スル印ヲ謂ヒ官印トハ公務上使用スル印ヲ謂フ而シテ刑法ハ官印ニ付キ尚ホ左ノ區別ヲ認メタリ

一、御璽、國璽　御璽トハ天皇ノ御印ニシテ御名ノ下ニ押捺セラルヽモノナリ國璽トハ日本帝國ノ印ヲ謂フ

二、官印　刑法ハ時ニ官署ノ印ト云ヒ又ハ單ニ官印ト云フ官署ノ印ト云フモ公務ノ執行上官吏カ使用スル印ヲ包含スヘキヤ勿論ナリ而シテ刑法ノ官印ニ關

スル規定ハ明治二十三年法律第百號ニ依リテ公署ノ印ニモ適用アルモノトス」

官印ニ關スル罪トハ官ノ印顆僞造ノ罪及ヒ官ノ印影使用ノ罪ヲ謂フ而シテ本罪ハ其輕罪タル場合ト雖モ其未遂ヲ罪トシ又本罪ニ付キ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキト雖モ六月乃至二年ノ監視ヲ附科ス

官ノ印顆僞造ノ罪及ヒ其科刑

第一項　官ノ印顆僞造ノ罪及ヒ其科刑

刑法第百九十四條乃至第百九十六條ニ規定スル僞造カ單ニ官ノ印顆ニ關スルカ又ハ官ノ印影ニモ關スルカニ付テハ異論ナキニアラス例ヘハ印影ヲ筆寫シテ官ノ印顆ヲ使用シテ現出セシメタルカ如キ外觀ヲ呈セシムル行爲ハ其犯情ニ於テモ又ハ其實害ニ於テモ毫モ官ノ印顆ノ僞造ト區別スル所ナキノミナラス印章ノ重ンスヘキ點ハ上述シタル如ク印影ニアリテ印顆ニアラサルヲ以テ見レハ理論トシテハ官ノ印影ノ僞造モ之ヲ罪トスルヲ可トスルカ如シ然レトモ刑法ハ第百九十七條ニ於テ明カニ影蹟ニ付キ規定スルヲ以テ特ニ影蹟ト明言セサル第百九十四條乃至百九十六條ニ於テハ單ニ印顆ノミニ關スト解釋セサルヲ得ス通說モ亦然リ是レ余輩カ本項ノ題目ヲ官ノ印顆僞造罪ト題シタル所以ナリ

本罪ハ官ノ印影ヲ使用スル目的ヲ以テ官ノ印顆ヲ僞造スル行爲ノ既遂及ヒ未遂ナリ

第一、官ノ印影ヲ使用スル目的　刑法ニ明文ナキモ官ノ印影ヲ使用スル目的ニ出テタルニアラスンハ官ノ印顆ノ僞造ヲ罪トナサヽルコト貨幣僞造罪ニ同シ官ノ印影ヲ使用スル目的トハ貨幣僞造罪ニ於ケル行使ノ目的ト同シク其印影ヲ印影トシテ使用セントスル目的ニ外ナラス

第二、官ノ印顆ヲ僞造スル行爲

一、僞造　僞造ノ何タルカハ貨幣僞造罪ニ付テ說明シタルモノニ同シ要スルニ眞正ノ官ノ印顆ノ模造ニシテ其模倣ハ一般ノ世人ヲシテ眞正ノ官ノ印顆ナリト錯誤セシムル程度ニ達スルコトヲ必要トス而シテ貨幣ト印章トハ其物自體ニ於テ差別アル結果トシテ印顆ノ原質ノ削減ハ自カラ單純ナル物品毀棄罪トナルヘク又眞正ノ印顆ヲ基礎トシタル模造ハ事實上現出セサルヘキヲ以テ所謂變造ハ印章ニ付テハ豫想スルコトヲ得サルヘシ

二、官ノ印顆

（イ）御璽又ハ國璽

（ロ）官印　刑法ハ第百九十五條ニ於テハ官署ノ印ト云フト雖モ第百九十七條ニハ單ニ官印ト稱スルノミナラス官署ノ印ト云フモ公務ノ執行上使用スル官吏ノ印ヲモ包含スルコトハ勿論ナリ故ニ寧ロ官印ト云フヲ可トス然レトモ官印ト稱スレハ第百九十六條ノ官ノ記號印章モ亦官印タルヘキヲ以テ所謂官印トハ第百九十六條ノ規定スル官ノ記號印章ヲ除外シタル官印即チ多クハ官文書ニ押捺スヘキ官ノ印顆ト解スルヲ可トス

三、産物等又ハ什物等ニ押捺スル用ニ供スヘキ官ノ記號印章　此種ノ記號印章ハ其範圍不明ナルモ産物、商品等ニ押捺スル用ニ供スル記號印章トハ産物ノ檢査濟ヲ表示スル檢印其他ヲ謂ヒ什物、書籍等ニ押捺スル用ニ供スル官ノ記號印章トハ官廳ノ所有ナリト云フコトヲ表示スル記號印章等ヲ謂フ

本罪ノ刑　説明ヲ要セス法文ヲ參照セラルヘシ

官ノ印影使用罪及ヒ其科刑

第三項　官ノ印影使用罪及ヒ其科刑

本項ニ於テハ所謂官印盜用罪及ヒ僞造官印ノ使用罪ヲ攻究セントス

刑法第百九十七條ニハ影蹟ヲ盜用シタル者ハ云々ト規定ス盜用ナル文字自體ニ拘泥セハ或ハ印顆又ハ印影ヲ竊取又ハ强取シテ使用スルコトヲ要スルカ如キモ盜ナル語句ハ斯ノ如ク嚴格ナル意味ニ解スヘキモノニアラサルコトハ論ナシ學者ノ盜用ノ何ナリヤヲ解セントスル者ハ皆刑法ノ成語ヲ省ミスシテ其眞意ヲ刑法佛文草案ニ求メントス佛文草案三百三十二條ニハ「不法ニ押捺シテ惡意ヲ以テ使用シタル者ハ云々」ト規定ス故ニ學者ハ皆刑法ニ所謂盜用トハ佛文草案ノ意味ヲ表示シタル語句ナルコトヲ是認スルニ拘ハラス其佛文草案ノ解釋如何ニ因リ自カラ二ノ異ナリタル斷案ニ達スルニ至レリ

第一見解　盜用トハ盜捺使用ナリ此見解ニ依レハ盜用トハ少ナクトモ眞正ナル印顆ヲ押捺シテ現出セシメタル印影ニ關スルヲ要ス

第二見解　盜用トハ盜奪使用ナリ此見解ニ依レハ盜用トハ凡テ不正ニ現出セシメタル印影ニ關スルヲ以テ足レリトシ眞正ノ印顆ヲ押捺シテ現出セシメタルト否トヲ區別セス

上述二ノ見解ハ文字上唯捺ナルト奪ナルトノ區別アルノミナルモ其趣意ニ至リ

テハ重大ナル差異ヲ生スルモノナリ彼ノ印影ヲ切リ拔キテ之ヲ他ニ使用スル行爲又ハ印影ヲ筆寫シテ僞造スル如キ行爲ハ第二ノ見解ニ依レハ盜用ト云ヒ得ヘク第一ノ見解ニ依レハ盜用ト云フ能ハス大審院ハ從來第二ノ見解ヲ採ル如キモ佛文草案ノ規定ヲ翫味スレハ第一ノ見解ヲ採ルヲ妥當ナリト信ス是レ佛文草案ニ於テモ上述ノ如ク不法ニ押捺スト明記シ押捺トハ常ニ印顆ニ牽聯スルモノニシテ單純ニ印影ヲ使用スル意味ニアラサレハナリ

刑法百九十四條乃至百九十六條ニ於テハ單ニ僞印ヲ使用シト云ヘトモ僞造ノ印顆ヲ使用スルモ或ハ之ヲ燃料ニ供シ又ハ之ヲ私ノ印顆ノ材料トナス如キ行爲ヲ包含セサルコトハ當然ニシテ專ラ僞造印顆ノ影蹟ヲ使用スル行爲ヲ云フモノナルコトハ疑ナキ所ニシテ結局之ヲ押捺使用ト解スヘキナリ

官ノ印影トハ官ノ印顆僞造ニ付キ述ヘタル官ノ印顆ニ依リ現出スヘキ影蹟ヲ謂フ官ノ印影ヲ使用ストハ印影ヲ官ノ印影トシテ使用スルコトヲ謂フ故ニ印影ハ必スシモ紙上ニノミ現出スルモノニアラス稀ニ木皮上ニ又ハ木板上其他ニ現出スルコトアリト雖モ其紙上ニ現出シタル場合ニ於テハ多クハ其文書ノ行使ヲ以テ官印使用ト解スヘシ而シテ其使用セル印影ノ現出スルニ付テハ理論上種々ノ場合アリ得ヘシ

第一、眞正ノ官ノ印顆ノ影蹟ナルトキ　此場合ニモ亦種々ノ區別アリ

一、押捺者カ權利ヲ有スルトキ　權利者カ眞正ノ官ノ印顆ヲ押捺シテ現出セシメタル印影ニ關スルトキハ之ヲ使用シタリトスルモ其目的ハ廣義ノ官ノ印影使用ニ屬スルニ拘ハラス之ヲ罪トナシ難キハ總則ノ適用上明カナリ

二、押捺者カ權利ヲ有セサルトキ　押捺者カ權利ヲ有セサルニ拘ハラス眞正ノ官ノ印顆ヲ押捺シテ現出セシメタル印影ニ關スル場合ト雖モ所謂權利ナキ押捺者カ印影ノ使用者ト同一人ナルコトアリ又別人ナルコトアリ

(1)　印影ノ使用者ナルトキ　刑法百九十七條ニハ御璽、國璽、官印、僞造印章ノ影蹟ヲ盜用セル者ハ云々ト規定ス盜用ナル文字ハ既ニ上述セル如ク盜捺使用ナリ然レトモ盜捺使用トハ余カ茲ニ說カントスル場合ニ相當スル行爲ニシテ即チ權利ヲ有セスシテ自身眞正ノ官ノ印顆ヲ押捺シ其印影ヲ使用スル行爲ヲ謂フニ外ナラス而シテ此場合ニ付テモ押捺者ハ

(イ) 官ノ印顆ノ監守者ナルコトアリ　官ノ印顆ノ監守者ハ自身之ヲ押捺シテ使用スルニ付キ最モ便宜ノ地位ニ立ツ者ナリ故ニ若シ此種ノ罪ヲ犯セリトセンカ其情狀モ亦常人ニ比シテ重シトセサルヘカラス刑法ハ監守者ニ付テハ比較的重キ罪ヲ規定シタリ

(ロ) 否ラサル者アリ

(2) 使用者以外ノ者ナルトキ　押捺者カ使用者以外ノ者ナルトキトハ例ヘハ甲ナル者カ權利ヲ有セスシテ眞正ノ官ノ印顆ヲ押捺シタルニ乙ナル者カ其印影ヲ使用シタル場合ヲ謂フ余輩ハ刑法上此種ノ印影使用ハ罪ト爲ラスト信ス是レ刑法第百九十七條ノ盗用即チ盗捺使用ト云フハ盗捺シ且使用スルコトヲ謂フト解セサルヘカラサレハナリ論者或ハ曰ク盗捺使用トハ盗捺シ又ハ使用スト解スルニアラスンハ第百九十四條乃至第百九十六條ニ於テ印ノ僞造又ハ僞造印ノ使用ヲ罪トナス法制ト權衡ヲ失スト巧妙ナル解釋ナルモ余輩ハ之ヲ妥當ナル解釋ト云フコトヲ得サルモノト信ス

第二、僞造ノ官印顆ノ影蹟ナル場合　此場合ハ單ニ僞造ノ官印顆ト云フ故ニ官ノ印顆ノ使用者自身ノ僞造ニ係ルモノト又ハ否ラサル者ノ僞造ニ係ルモノトルトヲ問ハサルハ論ナシ然レトモ其押捺者カ何人ナルカニ付キ更ニ之ヲ二分セサルヘカラス

一、押捺者カ印影ノ使用者ナル場合　僞造ノ官印顆ノ影蹟ヲ使用シタル場合ニ於テ其押捺者カ同時ニ使用者ナルトキハ恰モ第百九十四條乃至第百九十六條ノ後段ニ該當スルヲ以テ其官印顆ノ種類ニ從テ各其僞造ト同一ニ處罰セラルヘキモノトス

二、押捺者カ印影ノ使用者以外ノ者ナル場合　刑法ハ御璽ヲ使用シト云ヒ又ハ僞印ヲ使用シト云フト雖モ上述ノ如ク押捺使用ノ意味ニ歸スルナリ而シテ押捺使用ハ盗捺使用ニ於ケルト同シク押捺且使用ト解スヘキヲ以テ單ニ自身僞造印ヲ押捺シテ其印影ヲ使用スル場合ノミヲ謂ヒ他人カ僞造印ヲ押捺シテ現出セシメタル印影ヲ使用スル場合ヲ罰セサルハ當然ナリ故ニ余輩ハ眞正ノ官印顆ノ影蹟ノ場合ニ於ケルト同シク押捺者ト印影ノ使用者ト同

一人ナラサルトキハ罪トナラスト斷言セントス

本罪ノ刑　法文ニ依リ明カナルヲ以テ説明ヲ省ク

第三款　印紙、界紙、郵便切手ニ關スル罪及ヒ其科刑

第一項　總論

印紙トハ現時ノ國法ニ依レハ收入印紙ノミトス從前ニアリテハ印紙ニハ證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ノ數種類アリシカ明治三十一年七月勅令第百四十號收入印紙ニ關スル件ニ依リ凡テ上述ノ印紙ヲ貼用スヘキトキニハ自今一樣ノ收入印紙ヲ用サルヘキ旨ヲ規定セラレタリ

界紙トハ證券界紙、訴訟用罫紙、裁判所用罫紙ヲ意味セルモノナルカ現時ノ國法ニハ界紙ト云フヘキモノ皆無ナリトス

郵便切手ハ郵便料金ヲ表彰スヘキ證標ニシテ明治三十三年三月法律第五十四號郵便法第九條ニハ郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ノ外郵便切手其他郵便料金ヲ表彰スヘキ證標ヲ以テ納付スヘシト云ヒ同第三十條ニハ郵便切手其他郵便料金ヲ表彰スヘキ證標ハ政府之ヲ發行スト云ヘリ

本款ノ説明ハ第百九十八條乃至第二百一條ニ及フモノニシテ便宜上之ヲ印紙、界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造スル罪、偽造ノ印紙、界紙、郵便切手ヲ使用スル罪及ヒ印紙、郵便切手ノ再貼用罪ニ分チテ説明セントス然レトモ其何レノ罪タルヲ問ハス其未遂ハ常ニ之ヲ罪トナシ輕罪ノ刑ヲ科スルトキニハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘキナリ

印紙、郵便切手ノ再貼用罪ハ罰金ヲ科スヘキ輕罪ナリ而シテ刑法ハ本罪ニモ亦監視ヲ附加セントス故ニ罰金刑ニ對シテ自由刑ヲ附加スル奇觀ヲ呈ス立法上妥當ナラサルコト論ヲ俟タス

第二項　印紙、界紙、郵便切手ヲ偽造スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

本罪ハ印紙、界紙、郵便切手ヲ偽造又ハ變造スル行爲ナリ而シテ現時ノ實際ニ於テハ自ラ其適用ヲ收入印紙及ヒ郵便切手ノミノ偽造又ハ變造ニ限ラサルヘカラサルナリ此種ノ物ノ偽造又ハ變造ハ恰モ紙幣ノ偽造又ハ變造ト其意味ヲ同ウス故

ニ此種ノ物ニ付テハ所謂第二種ノ變造ヲ豫想シ得サルハ勿論ナリ然ラハ印紙又ハ切手ニ施シタル消印ヲ抹消シ之ヲ使用シタル行爲ハ何ナリヤト云フニ此種ノ行爲ハ之ヲ二方面ヨリ觀察シ得ヘシ若シ廢紙ヨリ一定ノ印紙ヲ製作シタル點ヨリ云ヘハ僞造タルハ勿論ニシテ印紙又ハ切手ニ人工ヲ加ヘテ他ノ印紙又ハ切手ヲ製作シタル點ヨリ觀レハ變造トナルヘシ故ニ此問ニ對スル斷案ニ付テハ學者間ニ議論アル所ニシテ大審院ハ變造說ヲ採ルモ之ヲ批難スル者少ナカラス余輩ハ此問題ハ消印ヲ押捺シタル印紙又ハ切手カ果シテ印紙又ハ切手ナリヤ否ヤノ先決問題ヲ決スルニ依テ直チニ解決シ得ル問題ナリト信ス而シテ余輩ハ消印ヲ押捺セル印紙又ハ切手ハ恰モ過去ノ貨幣カ貨幣タラサルト同シク印紙又ハ切手ニアラスト信ス然ラハ本問ニ付テハ僞造ナリトノ斷案ヲ採ルヘキモノト信ス

僞造ノ印紙、界紙、郵便切手ヲ使用スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

第三項　僞造ノ印紙、界紙、郵便切手ヲ使用スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

本罪ハ僞造又ハ變造ニ係ル印紙、界紙、郵便切手ヲ使用スル行爲ナリ使用トハ僞造物ヲ眞正ノ物トシテ使用スル意ナルヲ以テ必ス眞正ノ印紙、界紙、郵便切手トシテ使用スルコトヲ必要トスヘシ刑法ハ其情ヲ知リテト云ヒ單ニ僞造又ハ變造ノ印紙、界紙、郵便切手ト云ハサルヲ以テ其僞造又ハ變造ノ印紙、界紙其他ハ必ス他人ノ僞造又ハ變造ニ係ルコトヲ要スヘク自己カ僞造又ハ變造シテ使用シタルトキハ單ニ僞造又ハ變造罪ニ問フヘキカ如シ

印紙、郵便切手ノ再貼用罪及ヒ其科刑（刑省略）

第四項　印紙、郵便切手ノ再貼用罪及ヒ其科刑（刑省略）

本罪ハ使用濟ノ印紙、郵便切手ヲ使用スル行爲ナリ凡テ印紙、郵便切手ハ一度之ヲ使用シタルトキハ官廳ニ於テ又ハ使用者ニ於テ文書面ト印紙ノ彩紋トニ懸ケテ消印ヲ押捺スヘキモノトス（例ヘハ明治三十三年四月遞信省令第四號收入印紙ヲ以テ手數料ヲ納ムル者ノ納付手續ニ關スル件、明治三十年十二月外務省令第七號手數料トシテ納付スル登記印紙消印ノ件、明治三十年八月大藏省訓令第四十八號登記印紙貼付書類檢閲及ヒ消印押捺ノ件、明治三十三年三月法律第五十四號印紙稅法第九條、明治十五年十月第五十一號布告賣藥印紙稅規則第二條等）故ニ既ニ使用シタル印紙、郵便切手ハ必ス消印アルヘク消印アル印紙、郵便切手ナレハ其既ニ

使用濟ナルコトヲ知リ得ヘシ然ラハ本罪ハ消印アル印紙、郵便切手ヲ使用スル行爲ナリト云フコトヲ得ヘシ刑法ハ既ニ貼用シタル印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シト云フ然レトモ貼ト云フ語ハ用ナル語ニ對スル形容詞ニシテ畢竟印紙及ヒ郵便切手トシテ使用スルコトヲ謂ヒ必スシモ貼付スルコトヲ要セサルヤ明瞭ナリ」貼用ヲ貼付使用ト解スルモ亦單純ナル使用ト解スルモ其適用ニハ大ナル區別ナシ唯日附ヲ變シタル古キ借用證文ニ依リテ借金ヲ爲シタル場合ノ如キハ單純ノ使用ト解スレハ本罪成立スルニ拘ハラス貼付使用ト解スルトキハ本罪成立セサル差異アルノミ

本罪ニ關シテ屢〻現出スル問題ハ消印アル印紙又ハ郵便切手ヲ使用シタル行爲ノ責任如何ニアリ印紙稅法第十一條ニハ證書帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅額ノ二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處スト規定ス今消印アル印紙、郵便切手ハ既ニ印紙又ハ郵便切手ニアラス然ラハ本問ノ行爲ハ一方ニ於テハ本罪タルヘク又一方ニ於テハ印紙不貼用罪タルヘシ余輩ハ汎論ニ於テ說明シタルカ如ク此場合ニ於ケル行爲ハ一個ナリト信シ所謂別種ノ罪ノ觀想的俱發ノ場合ナリト信スル故ニ

當然重キ刑ヲ科シタル法條ニ觸ルヽ一罪ナリト言ハントス然レトモ罪ノ個數問題ニ付キ余輩ト同一ノ見解ヲ採ラサル者ハ本問ニ付テモ亦其論決ヲ異ニシ之ヲ現實ノ數罪俱發トナスナリ數罪俱發トナストキハ本罪ニ付テハ刑法總則ニ從ヒ數罪俱發處分ヲ爲スヘク不貼用罪ニ付テハ印紙稅法第十四條ニ從ヒ數罪ノ刑ヲ併科セサルヘカラサルヨリ尙ホ其刑ハ併科スヘキヤ否ヤノ疑問ヲ生ス大審院ノ判例ハ數罪トナスノ見解ヲ採リ特ニ各刑ヲ併科スヘキモノトナセリ

第四款　餘論

改正案ハ印章僞造罪中ニ官印トシテハ御璽、國璽、御名、公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名、各公務所ノ記號ヲ認メ其僞造及ヒ眞正又ハ僞造ノ印章ノ使用ヲ罪ト規定シタリ其僞造罪ト使用罪トヲ別項トシ僞造罪ニ付キ行使ノ目的ニ出ツヘキコトヲ明言シ御名及ヒ署名ノ僞造及ヒ使用ヲ罪トシ郵便切手及ヒ印紙ニ關スル罪ヲ特別法ニ讓リシハ余輩ノ贊スル所ナレトモ必要ナキニ拘ハラス同一ノコトヲ言表ハスニ行使又ハ使用ト云フ二種ノ語ヲ用ヰ又印章ノ使用ト云ヒ其影蹟ノ使用ナル意味ヲ明言セサルカ如キハ尙ホ學者ノ批難ヲ免カレスト信ス

第四節　官文書ヲ偽造スル罪及ヒ其科刑

第一款　總論

刑法ハ官文書ヲ偽造スル罪ニ付テモ又私文書ヲ偽造スル罪ニ付テモ單ニ文書ヲ偽造又ハ增減變換シテ行使シタル者云々ト規定シ其成立ニ他ノ條件ヲ必要トスルコトヲ明言セス然ラハ權利義務ニ關係ナキ私文書ニテモ單ニ一時ノ戲作ニ係ルモノヽ偽造ニテモ亦文書偽造トシテ處罰スヘキ如シ學者或ハ曰ク文書偽造ヲ斯ク廣義ニ解スルハ何等ノ必要ナクシテ却テ數多ノ害ヲ生スル原因ナリ刑法ノ眞意ハ豈ニ斯ノ如ク廣義ニ解スヘキモノナランヤト故ニ文書偽造ノ適用ヲ狹クスル爲メ學者ハ左ノ二主義ノ一ヲ採用セサルヘカラサルニ至レリ

第一、偽造行使ハ特別ノ條件例ヘハ害ヲ加フル目的及ヒ害ヲ生シ得ヘキ事實ヲ具有スルモノニ限定スル主義　此主義ハ佛蘭西刑法ノ採用セルモノニシテ刑法上文書ノ偽造行使ハ害ヲ加フル目的ニ出テ且其文書カ害ヲ生シ得ヘキモノニアラサル限リハ成立セストスルモノナリ明治十三年四月三十日司法省內訓ニハ文書ヲ偽造シ又ハ增減變換シテ行使スル罪ヲ構成スルニハ必ス眞實ヲ變換スルコト、他人ニ害ヲ加フル意思、害ヲ生シ得ヘキコトヲ要ス云々ト云ヘリ然ラハ刑法ノ立法當時ノ解釋者ハ此主義ニ依リテ文書偽造行使罪ノ適用ヲ正當ナノ範圍內ニ止メントスルモノヽ如シ然レトモ其見解ノ當否ハ自カラ別種ノ問題ニ屬スルコトハ勿論ナリ

第二、文書ヲ特定ノ文書例ヘハ害ヲ生シ得ヘキ文書ニ限定スル主義　是レ獨逸刑法ノ採ル所ニシテ偽造行使ニハ何等特別ノ目的アルヲ要セサルモ文書カ特定ノ性質即チ其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ具有スルコトヲ必要トス上述ノ二主義ハ其限定スル手段ヲ異ニスルモ行使カ害ヲ生シ得ヘキトキニ於テハ概ネ其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スル文書ニ關セリト云フヲ得ヘク又其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スル文書ニ關スル場合ニ於テハ概ネ其行使ハ害ヲ生シ得ヘキモノナリト云フヲ得ヘクシテ畢竟スルニ第一主義ト第二主義トハ別異ノ手段ニ依リ同一ノ目的ヲ達セントスルモノト云ヒ得ヘシ然レトモ二主義ハ同目的ニ達シ得ヘキニ拘ハラス余輩ハ何等ノ明文ナキトキニ於テハ單純ノ理論ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ行使ナルコト等ノ特別ノ條件ヲ附加スルハ擅

私ノ解釋ナリト信スルヲ以テ寧ロ文書ノ意義ヲ刑法上必要ノ程度ニ限ル法制ヲ歡迎ス然レトモ文書ニ付テモ特ニ獨逸刑法ノ如ク特別ニ其意義ヲ限定スル明文ヲ設クルモノニ付テハ則チ可ナリ我刑法ノ如ク廣ク官文書又ハ私文書ト規定スル刑法ニ於テハ之ヲ其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スル文書ニ限定スルハ果シテ穩當ナリヤ否ヤ余輩ハ所謂文書トハ嚴格ナル意味ニ於テハ事實上概ネ其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキモノタルヘシト思料スルニ拘ハラス理論上此主義ヲ採用スルコトヲ躊躇シ余自身ハ此點ニ關シテ別種ノ見解ヲ有ス

刑法改正案ハ文書僞造行使罪ニ付テモ行使ノ目的ニ出テタル僞造タルコトヲ要スト明言セリ余輩ハ此法制ニ從ヒ行使ノ目的ニ出テタル文書僞造行使ハ凡テ之ヲ罪トシテ何等ノ差支ナシト信ス然リト雖モ此見解ヲ以テ改正案ノ規定ニ依リテ刑法ノ解釋ヲ試ミシモノト思料スヘカラス余輩ハ改正案ヲ離レ刑法ノ解釋トシテ此見解ヲ採ルノ妥當ナルヲ感スル者ナリ

一、行使ノ目的ハ文書僞造ニ必要ナリ　貨幣僞造罪、官印僞造罪ハ行使ノ目的ニ出テタル僞造ノ場合ニ於テノミ成立スルコトハ上述セル所ニシテ刑法上ニハ

何等ノ明文ナキニ拘ハラス少ナクトモ今日ニ於テハ全然疑似ナキ問題ニ屬ス刑法ノ解釋トシテ貨幣僞造又ハ官印僞造ニ行使ノ目的ニ出テタルコトヲ必要トシ文書僞造ニ付テハ何故ニ行使ノ目的ニ出ツルコトヲ必要トセサルカ文書僞造ニ行使ノ目的ヲ要スルコトハ貨幣僞造又ハ官印僞造等ニ行使ノ目的ヲ要スルト同一論理ノ結果ナリトス

二、行使ノ目的以外ノ條件ハ文書僞造ニ必要ナラス　文書僞造ノ何ナリヤハ後ニ述フヘシト雖モ其嚴格ナル意味ニ於テハ其僞造ニ行使ノ目的ヲ必要トスルノミニシテ理論上ヨリ言ヘハ其行使ニ依リテ害ヲ生シ得ヘキ文書ナルコトヲ必要トセサルノミナラス害ヲ加フル目的又ハ其行使カ害ヲ生シ得ヘキコト等ヲ必要トセス從來ノ學者ハ害ヲ生シ得ヘキ行使ニアラサレハ文書僞造ヲ處罰スルハ不當ナリトナシ或ハ文書僞造ハ害ヲ生シ得ヘキコトヲ要ストナシ或ハ文書ハ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スルコトヲ要ストナシ以テ何等ノ明文ヲ置カサル我刑法ノ解釋トナサントシタリ然レトモ害ヲ生シ得ヘキ行使ニアラサレハ文書僞造ハ何故ニ之ヲ處罰シ得サルカ例ヘハ刑法ハ私印僞造ヲ罰ス而シテ

印章ノ中ニハ文書ト同シク之ヲ使用スルモ何等ノ害ヲ生シ得サルモノアルニ拘ハラス學者ハ私印僞造ニ付テハ害ヲ生シ得ヘキ行使ナルコトヲ必要トナササルニ獨リ文書僞造ニ付テノミ之ヲ必要トセリ若シ嚴格ニ論者ノ言ニ從ヘハ信用ヲ害スル罪ハ殆ト害ヲ生シ得ヘキ行使ニ付テノミ罪トナルヘキモノナルコトヲ斷言セサルヘカラス然ルニ論者ハ單ニ文書僞造罪ニ付テノミ之ヲ言フ其論理ノ貫徹セサルコト言ヲ俟タス然レトモ若シ其理論ヲ貫キテ凡ソ信用ヲ害スル罪ニハ其行使カ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スルコト又ハ其行使カ害ヲ生シ得ヘキコト又ハ害ヲ加フル目的アルコト等ヲ必要トスト解センカ專斷ノ譏ヲ免カルヽ能ハス余輩ハ此等ノ要件ヲ要セストスル見解ヲ採ラントス然レトモ上述ノ如ク嚴格ナル意味ニ於ケル文書ハ或程度マテハ其行使ニ依リテ害ヲ生シ得ヘキモノナルコトニ注意スヘシ

第一、文書

文書ナル語ノ意義ハ明確ナル如クニシテ實ハ最モ不明ナリ特ニ我刑法ニ於テハ印章ヲ認ムルヲ以テ文書ノ意義ハ一層困難ナル問題トナレリヤイエルハ「ウルクンド」トハ現行法上ノ意義特ニ文書僞造ニ關スル規定ニ付キテノ意義トシテハ作製者ノ意思ニ因リ事實ノ證明ニ供スヘキ性質ヲ與ヘタル物件ナリト解スヘシト言ヒリストハ刑法上ノ意義ニ於ケル「ウルクンド」トハ凡テ其實質ニ依リ(單ニ其存在ニ依リテニアラス)法律上重要ナル事實ヲ證明スル爲メニ作製セラレタル物件ナリト言ヒフランクハ「ウルクンド」トハ形體ヲ付與シタル意思表示ニシテ法律的交通ニ用サラルヘキモノナリト言ヒオルスハウゼンハ要スルニ「ウルクンド」トハ法律上重要ナル事實ノ證明ニ供スヘキ有體物ニシテ生命ヲ有セサルモノヲ謂フト言ヘリ獨逸ニ於ケル「ウルクンド」ナル語ハ寧ロ我證書ナル語ニ當リ文書ナル語トハ少シク其意義ニ於テ廣狹ノ別アルヲ免カレス故ニ獨逸學者ノ說明ヲ以テ直チニ我文書ヲ說明シ得サルモ今此等ノ學者ノ研究ノ結果ヲ參酌シテ文書ノ何タルヤヲ研究スヘシ

文書トハ

一、意思表示ナリ　既ニ文書ト云フ以上ハ必スヤ一定ノ意思ヲ明示シ又ハ默示シタルモノナラサルヘカラス故ニ例ヘハ彼ノ名刺ノ如キハ文書ニア

ラスト信ス然レトモ既ニ意思ヲ表示スト云フ以上ハ必ス表示スル意思ヲ以テ表示シタルコトヲ要スルハ勿論ナリ故ニ例ヘハ草案、原稿其他ハ多クノ塲合ニ於テハ文書ニアラスト信ス

二、形體ヲ付與シタルモノナリ　意思表示ハ言語、形容又ハ行爲ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ文書トハ其無形ノ意思表示ナラサルコトハ明確ナリ文書ニハ必ス其意思表示ニ何等カノ形體ヲ付與シタルモノナラサルヘカラス形體ヲ付與スルトハ或ハ紙上或ハ石上或ハ板上其他ニ其意思表示ヲ現出セシムルコトヲ謂ヒ其現出セシムル物ノ何タルヤヲ區別セス

三、文字ニ依ルモノナリ　意思表示ニ形體ヲ付與スルニ付キテハ其方法種々アリ或ハ繪畫ニ依リ或ハ記號ニ依リ又ハ文字ニ依ルコトヲ得ヘシ文字特ニ我國ノ形象文字ノ如キハ或塲合ニ於テハ繪畫又ハ記號ト之ヲ區別スルコト困難ナルヘシト雖モ而モ文書ト云フ以上ハ必ス主トシテ文字ニ依リタルモノナラサルヘカラス繪畫又ハ記號カ文字ニ依ル意思表示中ニ散見スルハ文書タルコトヲ害セサルヘシト雖モ單ニ繪畫又ハ記號ノミニ依ル意思表示ハ文書ト云フヲ得サルヘシ故ニ例ヘハ地圖繪畫、下足札其他ハ之ヲ文書ト云ハス

然ラハ文書トハ文字ニ依リ形體ヲ付與シタル意思表示ナリト解スルヲ可トス論者或ハ文書トハ證據文書ナリト云ヒ又ハ權利義務若クハ事實ノ證明ニ關スル文書ナリト云フ獨逸法ノ「ウルクンド」ノ如キハ其語句上必ス證據又ハ證明ニ關スル文書ナラサルヘカラサルモ我刑法ハ私文書ニ付キ權利義務ニ關セサル文書ヲ認ムル以上ハ之ヲ證據又ハ證明ニ關スル文書ト云ハサルヲ可トセスヤ但余輩ノ如ク單ニ意思表示トナスモ既ニ意思表示ナレハ概ネ權利義務少ナクトモ事實ノ證明ニ供スルコトヲ得ルヲ以テ事實上ハ論者ノ所說ト其結果ヲ異ニスルコトナカルヘシ

文書ニ官公文書及ヒ私文書ノ別アリ官公文書ト私文書トノ區別モ刑法上疑ヲ生スル問題ナレトモ官公文書ノ何ナリヤヲ研究セハ私文書ノ何ナリヤハ自ラ明白ナルヘキヲ以テ今單ニ官公文書ノ何タルヤヲ說カントス

官公文書トハ

一、官吏、公吏ハ勿論總テ公務ニ從事スル者カ其職務ノ執行上作製シタル文書

二、官吏、公吏ハ勿論總テ公務ニ從事スル者カ其職務ノ執行上證明シタル私文書

ヲ謂フ而シテ職務執行ハ官吏抗拒罪ニ付キ既ニ述ヘタル如ク(1)管轄權ヲ有シ(2)所謂具體的管轄權ヲ有シ(3)一定ノ形式ヲ遵守スルコトヲ要スルヲ以テ公務ニ從事スル者ノ作製又ハ證明シタル文書ト雖モ管轄權及ヒ具體的管轄權ヲ有シ一定ノ形式ヲ遵守シテ作製又ハ證明シタルモノニアラサレハ之ヲ官公文書ト云ハスフランクノ如キハ獨逸法ニ所謂官公文書タルニハ尚ホ官廳外ニ行使スル爲メ公布セラルヽ文書ナルコトヲ要シ從テ官廳間ノ往復文書其他ノ如キハ官公文書ニアラスト論結スレトモ獨逸刑法論トシテノ是非ハ今之ヲ言ハス少ナクトモ我刑法論トシテハ採用シ得サル斷案ナリヒンヂングノ如キモ亦尚ホ文書ノ作製ハ其官廳ノ公ノ職務區域ニ屬スルコトヲ要スト言ヒ文書カ官廳ノ公法的作用ニ基キ作製セラレタルコトヲ必要トスル如シ立法論トシテハ此觀念ヲ採用スルヲ可ナリト信スト雖モ直チニ我刑法ノ解釋論トナスコトヲ得ス

我刑法ニ所謂官公文書トハ前述ノ如シ然レトモ余輩ハ立法上此法制ニ關シテ多少ノ批難ヲ試ミサルヲ得ス余輩ハ官公文書ト雖モ權力服從關係ニ關シテ意思ヲ表示シタル文書ナラスンハ刑法上之ヲ官公文書トセサルヲ可トス換言セハ余輩ハ立法論トシテハヒンヂングノ見解ヲ可トスル者ナリ蓋シ刑法カ僞造ニ關シ官公文書ニ對シテ特別ノ保護ヲ與フル所以ハ要スルニ其文書カ一般臣民ニ對シテ特別ノ證明力ヲ有スルコトニアリ然ラハ公務ヲ行フ者カ職務執行上作製シタル文書ト雖モ私ノ權利義務ニ關スルモノ例ヘハ官公署對一私人間ノ契約書ノ如キ、官設鐵道ノ乘車切符ノ如キ官ノ設備ニ對スル入場券ノ如キハ一般臣民ニ對シテ何等特別ノ證明力ヲ有セス單純ニ特定ノ私人ノ權利義務ヲ證明スルニ過キサルヲ以テ刑法上私文書ト同一ノ待遇ヲ與ヘテ可ナリト信ス一種ノ論者ハ此見解ニ依リテ我刑法ヲ解スト雖モ單

ニ官公文書ナル語ノ解釋トシテハ到底採用シ得サル立論ナリトス

第二、偽造及ヒ增減變換

偽造トハ眞正ノ文書ヲ基礎トセス變造トハ眞正ノ文書ヲ基礎トシ共ニ文書ヲ模造スルコトヲ謂ヒ其模倣ノ程度ハ一般世人ヲシテ眞正ノ文書ナリト錯誤セシムル程度ニアルコトヲ必要トス而シテ此場合ニ於テモ眞正ノ文書ヲ基礎トシタルヤ否ヤハ其基礎トナシタル文書ヲ眞正ノ文書ト認メ得ルヤ否ヤニ依リ決スヘキコト勿論ナリ

偽造及ヒ變造ハ其目的物カ貨幣ナルト印章ナルト又ハ文書其他ノモノタルトヲ問ハス凡テ其目的物ノ作製權ヲ有スル者ニ關スル場合ト否ラサル場合トニ依リ其外觀ヲ異ニス學者或ハ此區別ヲ以テ單ニ文書ノ偽造又ハ變造ノミニ特別ナルカノ如クニ立論スル者アレトモ誤レリ此種ノ區別ハ總テ物ノ偽造又ハ變造ニ付キテ豫想スルコトヲ得ヘキナリ然レトモ刑法ハ唯文書特ニ官文書ニ付テノミ其區別ノ實益ヲ認ムルノミ而シテ學者ハ官文書ノ偽造又ハ變造ニ付キ其行爲者カ製作權ヲ有スル者ナルトキハ之ヲ無形ノ偽造又

ハ變造ト云ヒ其他ノ者ナルトキハ之ヲ有形ノ偽造又ハ變造ト云ヘリ有形又ハ無形ト云フ語句ニ依リテ果シテ正當ニ此等ノ意味ヲ表示スルコトヲ得ルヤ否ヤハ別問題ナリト雖モ有形ノ偽造又ハ變造ニ付テハ其偽造又ハ變造ノ手段モ普通ニ所謂偽造又ハ變造ナレトモ無形ノ偽造又ハ變造ニアリテハ上ニ述ヘタル管轄權特ニ具體的ノ管轄權ナキ行爲ナルヲ以テ主トシテ其文書ノ實質カ眞實ナリヤ否ヤト云フ點ヨリ區別セサルヘカラス換言スレハ無形ノ偽造又ハ變造ニアリテハ文書ノ內容カ眞實ニ反スルコトニ着眼スヘク有形ノ偽造又ハ變造ニアリテハ文書ノ內容カ眞實ニ反スルト否トニ關セス其行爲者ニ作製又ハ變更ノ權限ナキコトニ着眼スヘキナリ

公務ニ從事スル者ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ官公文書ニ虛偽ノ記載ヲ爲サシメタル行爲ハ之ヲ偽造又ハ變造ト云フコトヲ得ルカ獨逸刑法第二百七十一條ニ依レハ「權利又ハ權利關係ニ付キ重要ナル陳述、商議又ハ事實ニシテ全然存立セサルモノ又ハ他ノ方法ニ依リ存立セルモノ又ハ資格ナキ者ノ爲シタルモノ又ハ他人ノ爲シタルモノナルニ拘ハラス犯意ヲ以テ之ヲ眞實ナリト

本論　重罪、輕罪及ヒ其科刑　公益ニ關スル重罪、輕罪及ヒ其科刑
信用ヲ害スル罪及ヒ其科刑　官文書ヲ偽造スル罪及ヒ其科刑

シ公ノ證書、帳簿又ハ登記簿ニ記入セシメタル者ハ云々」ト規定ス故ニ獨逸學者ハ概ネ之ヲ以テ無形ノ僞造又ハ變造ノ一種類トナス如シ然レトモ獨逸學者カ此解釋ヲ爲スハ其刑法ニ明文アルニ依ルモノニシテ當然僞造又ハ變造ノ行爲中ニ含マルヽ一體樣トナシタルニアラス我刑法ノ佛文草案ハ明文ヲ設ケ此種類ノ行爲ヲ僞造又ハ變造ト同視スヘキ旨ヲ定メタルニ拘ハラス刑法ニハ何等之ニ關スル規定ヲ置カサルナリ余輩ハ刑法カ此種類ノ規定ヲ設ケサリシハ之ヲ僞造又ハ變造ト認メサル趣意ナリト解釋スルノミナラス理論トシテモ此種類ノ行爲ヲ文書ノ僞造又ハ變造ト認ムルコトヲ欲セサルナリ或ハ曰ク此種類ノ行爲者ハ之ヲ所謂間接ノ行爲者ト見テ官公文書ノ僞造又ハ變造ノ罪責ヲ負擔セシムルコトヲ得ルニアラスヤト然レトモ主體カ特別ノ身分ヲ有スルコトヲ必要トスル罪ハ其身分ヲ有セサル者ニ於テ間接ニ之ヲ犯スコトヲ得サルコトハ一般ノ學說ニ於テ既ニ承認セル所ナリトス

第三、行使

僞造又ハ變造ノ文書ノ行使ト云フハ貨幣ニ付キテノ行使、印影ニ付キテノ使用ト同シク僞造又ハ變造ノ文書タルニ拘ハラス之ヲ眞正ノ文書トシテ使用スルコトヲ謂フ外國法ノ沿革ヲ見レハ羅馬法ニ於テハ文書ノ作製又ハ變更ヲ以テ文書僞造罪ノ成立スル時期ナリトスル見解ヲ採リ其後ニ至リ害ヲ生シタル時期ヲ以テ文書僞造罪ノ成立スル時期ナリトスル見解ヲ生シ漸ク近時ニ至リ前ニ述ヘタル二ノ見解ヲ調和シテ折衷ノ見解ヲ生シタル如シ折衷說ト云フハ即チ文書僞造罪ノ成立時期ヲ其行使ニアリトナスモノナルヲ以テ行使トハ僞造又ハ變造行爲ノ終ル前ナルヘカラスシテ又實害ノ發生後ナルヘカラサルコトハ明瞭ナリ

上述シタル所ハ文書僞造罪ニ關スル概論ナリ刑法ハ本節目ニ於テハ單ニ官文書僞造罪ト題スルニ拘ハラス亦官文書毀棄罪ヲ規定ス僞造罪ト毀棄罪トハ全ク別個ノ罪ナルヲ以テ本節ノ罪ヲ二ニ分チ官文書僞造罪及ヒ官文書毀棄罪ヲ說明スヘシ

本節ノ罪ハ其官文書僞造罪タルト又ハ毀棄罪タルトヲ問ハス其刑ハ總テ重罪ノ

刑ナリ然レトモ時ニ種々ノ減輕事由ニ因リ其科スヘキ刑カ輕罪ノ刑トナルヘキ場合モ敢テ尠ナシトセス刑法ハ此等ノ場合ヲ豫想シテ第二百七條ニ於テ此種ノ場合ニ付テハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘキ旨ヲ規定シタリ

第二款　官文書僞造罪及ヒ其科刑

第一項　總論

官公文書ノ何タルヤハ既ニ前ニ述ヘタル所ナリ然レトモ官公文書ニ付キテモ尙ホ數多ノ區別アリ

第一、官文書

一、詔書

二、公證文書　官吏カ一私人ノ身分、權利、其他ノ事項ヲ證明シタル文書ハ之ヲ公證文書ト云フ而シテ公證文書ニモ全部官吏ノ作製ニ係ルモノト一部官吏ノ作製ニ係ルモノトノ區別アリ

（イ）全部官吏ノ作製ニ係ル公證文書トハ例ヘハ公債證書、登記簿其他ノ謄本或種ノ身分證明書其他ヲ謂フ地券モ亦公證文書ナリト雖モ明治二十二年三月法律第十三號ハ地券ヲ廢シ地租ハ土地臺帳ニ登錄シタル地價ニ依リ其記名ヨリ之ヲ徵收スト規定シタルヲ以テ現今ニ於テハ其適用ナシ郵便爲換證書、官設ニ係ル營造物ノ使用券等ハ一私人ノ權利ニ關シテ官吏カ證明ヲ爲シタル文書ナルヲ以テ余輩ハ之ヲ官文書中ノ公證文書トナスヲ可トスト雖モ或ハ通說ニアラサルヘシ切手及ヒ印紙等モ亦公證文書ナリト信スレトモ其僞造ニ付テハ特別ノ明文アルヲ以テ之ヲ公證文書ト見ルト否トハ何等ノ實益ナシ

（ロ）一部官吏ノ作製ニ係ル公證文書トハ換言スレハ官吏ノ公證ヲ經タル私文書ニシテ例ヘハ所謂奧書、證明、登記濟ノ記載アル文書其他ナリトス

三、狹義ノ官文書

第二、公文書

一、公證文書

二、狹義ノ公文書

官公ノ文書ハ多クノ場合ニ於テ官公ノ印章ヲ押捺スヘキモノトス故ニ官公文書

ノ僞造又ハ變造ハ概ネ僞造シタル官公ノ印章ノ押捺又ハ少ナクトモ眞正ノ印章ノ押捺ヲ隨伴スルモノトス純タル理論ヨリ言ヘハ文書ノ僞造、變造又ハ僞造、變造ノ文書ノ行使ト印章ノ僞造又ハ眞正ノ印章ノ使用トハ別個ノ行爲ナルヲ以テ此種類ノ行爲ヲ二罪トナシ刑法第百條ヲ適用セサルヘカラサルニ拘ハラス刑法ハ此種ノ二罪ハ頻繁ニ俱發スルヲ以テ第二百六條ニ依リ比較的ニ重キ刑ニ當ル所ノ一罪ナリト規定シタリ

官文書ノ僞造又ハ變造罪及ヒ其科刑

第二項　官文書ノ僞造又ハ變造罪及ヒ其科刑

官文書中ニ於テ僞造又ハ變造ノ行爲ノミヲ罪トスルハ唯詔書ノミナリ詔書トハ天皇陛下カ主權者タル資格ニ於テ發布セラルヽ意思表示書ヲ概稱スル語ニシテ詔書ノ僞造又ハ變造ハ行使ヲ待タスシテ罪トナルナリ

本罪ハ一定ノ目的ニ出テタル行爲ヨリ成立ス

一、詔書ヲ行使スル目的

二、詔書ヲ僞造スル行爲又ハ變造スル行爲

官文書僞造又ハ變造行使罪及ヒ其科刑

而シテ本罪ノ刑ハ無期徒刑ナリ

第三項　官文書僞造又ハ變造行使罪及ヒ其科刑

本項ノ罪ハ行爲者カ官吏ニシテ文書カ其管掌ニ係ルト否トニ依リテ其刑罰ヲ異ニス官吏ノ管掌スル文書ト云フハ官吏タル身分ヲ有スル者カ其職務上作製又ハ保管スル文書ヲ謂フ論者或ハ事實上作製又ハ保管スル文書ナレハ其作製者又ハ保管者ニ官吏タル身分アルコトヲ要セスト言ヒ或ハ作製者又ハ保管者ハ官吏タル身分アルコトヲ必要トスレトモ職務ニ依リテ之ヲ作製又ハ保管スルコトヲ要セス事實上ノ保管ヲ以テ十分ナリト言フ者アリ然レトモ第二百七十三條ヲ比照スルトキハ論者ノ所說ノ採用シ難キコトハ明瞭ナリトス

第一、通常ノ場合即チ主體カ官吏タル身分ヲ有セサル場合及ヒ主體カ官吏ニシテ文書カ其管掌ニ係ラサルモノナル場合

一、行使ノ目的ヲ以テ狹義ノ官公文書ヲ僞造又ハ變造シテ之ヲ行使スル罪

本罪ニ對スル刑ハ輕懲役ナリ

二、行使ノ目的ヲ以テ無記名ノ公債證書ヲ僞造又ハ變造シテ之ヲ行使スル罪

本罪ニ對スル刑ハ重懲役ナリ

三、行使ノ目的ヲ以テ無記名公債證書以外ノ公證文書ヲ僞造又ハ變造シテ之ヲ行使スル罪本罪ニ對スル刑ハ輕懲役ナリ

第二、主體カ官吏ニシテ其文書カ其管掌スル文書ナル場合　此種類ノ場合ニ於テハ更ニ其文書カ狹義ノ官公文書ナリヤ又ハ無記名ノ公債證書ナリヤ又ハ其他ノ公證文書ナルヤヲ區別シテ各通常ノ場合ニ於テ科スヘキ刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科スヘキモノトス

官文書毀棄罪及ヒ其科刑

第三款　官文書毀棄罪及ヒ其科刑

官文書毀棄罪ヲ官文書僞造罪中ニ規定スルコトノ不當ナルコトハ敢テ辯ヲ俟タス刑法ハ私文書毀棄ハ物品毀棄罪トシテ第四百二十四條ニ規定セルニ拘ハラス單ニ官文書毀棄ノミヲ官文書僞造罪中ニ規定セルハ權衡上ヨリ言フモ妥當ニアラス思フニ私文書毀棄ハ之ヲ財產ニ對スル罪ノ中ニ屬セシムルコトヲ得ルモ官文書毀棄ハ然ラスシテ刑法ハ官文書毀棄ヲ規定スル好地位ヲ發見スルニ困ミテ遂ニ之ヲ官文書僞造罪中ニ排列シタルモノニ過キサルヘシ

毀棄トハ文書ノ一部又ハ全部ヲ損壞スル行爲ヲ謂フ即チ其形體ヲ變更スルコトニ關スルナリ所謂汚損又ハ剝キ取ル行爲ノ如キハ余輩ノ信スル所ニ依レハ毀棄ニアラス

一、詔書ヲ毀棄スル罪ニハ無期徒刑ヲ科シ

二、狹義ノ官文書ヲ毀棄シタルトキハ原則トシテハ輕懲役ヲ科シ官吏カ其管掌スル文書ヲ毀棄シタル場合ニ於テハ重懲役ヲ科ス

第四款　餘論

改正案カ官文書僞造罪ニ付キ爲シタル重大ナル修正ハ行使ノ目的ニ出テタル僞造又ハ變造並ニ其僞造又ハ變造文書ノ行使ヲ各一個ノ罪トナシタル點ニアリ此修正ノ可否ハ學者間既ニ定論アル所ナルヲ以テ玆ニ之ヲ述ヘス改正案ハ又官文書ノ範圍ヲ廣クシ公務所又ハ公務員ノ作製スヘキモノトナシ(1)文書ノ外ニ更ニ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ繪圖ニ付キ規定シ(2)前述セル如ク公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シテ使用シタルトキニ於テハ其情狀

重キ官文書僞造罪トナシ(3)新ニ公務員ニ對シテ虛僞ノ申立ヲ爲シ官文書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル行爲ヲ特別ノ一罪トセリ

第五節　私印、私書ヲ僞造スル罪及ヒ其科刑

第一款　總論

私印、私書ヲ僞造スル罪及ヒ其科刑　總論

私印僞造ニ付テハ官印僞造罪ノ總論ヲ參照シ私書僞造罪ニ付テハ官文書僞造罪ヲ參照スヘシ

本節ニ規定シタル罪ハ多クハ輕罪ナリ然レトモ第二百十一條ニ於テ特別ノ明文アルヲ以テ罰スヘキ未遂ハ成立ス又本節ニ規定シタル輕罪ヲ犯シタル者又ハ本節ニ規定シタル重罪ヲ犯シ減輕ニ依リ輕罪ヲ科セラルヘキ者ニハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘシ

刑法ハ上述ノ如ク官印ヲ僞造又ハ盜用シテ官文書ノ僞造罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ一罪トスルニ拘ハラス私印、私書ニ對シテハ斯ノ如キ規定ナキヲ以テ私印、私書ニ關シテハ必ス第百條ノ數罪俱發例ヲ適用セサルヘカラス實際ニ於テハ何等ノ差異ナキモ論理ヲ貫徹セサル批難ヲ免カルヽコトヲ得ス

第二款　私印影ヲ使用スル罪及ヒ其科刑

第一　私印僞造使用罪

本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ私印顆ヲ僞造シ之ヲ押捺シテ其印影ヲ使用シタル行爲コシテ本罪ノ刑ハ主刑ハ六月乃至五年ノ重禁錮附加刑ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金トス

第二　私印盜用罪

本罪ハ他人ノ眞正ノ印顆ヲ押捺シテ其印影ヲ使用シタル行爲ニシテ其刑ハ私印僞造罪ノ刑ニ一等ヲ減輕シタル刑トス

第三款　私文書僞造行使罪及ヒ其科刑

私文書僞造行使罪及ヒ其科刑

私文書僞造行使罪ハ行使ノ目的ヲ以テ私文書ヲ僞造シテ之ヲ行使スル行爲ナリ然レトモ刑法ハ私文書ヲ區別シテ各特別罪ノ目的物トナスヲ以テ特ニ刑法ノ認ムル私文書ノ區別ヲ說明セン

第一、權利義務ニ關スル私文書　權利義務ニ關スル私文書ニ付キテモ刑法ハ二樣ノ區別ヲ爲シ證書自體カ價格ヲ有スルモノヲ僞造又ハ變造行使スルトキハ

信用ヲ害スル程度モ他ノ私文書ニ比シテ甚大ナルヲ以テ此種ノ文書ニ關シテハ重罪ト規定シタリ

一、法律上裏書ヲ以テ讓渡シ得ヘキ文書　廣ク裏書トハ讓渡裏書、委任裏書及ヒ質入裏書ノ區別アリ刑法ハ單ニ讓渡裏書ニ付キテ規定スルモ讓渡裏書ヲ爲シ得ヘキ文書ハ概ネ委任裏書又ハ質入裏書ヲ爲シ得ヘキモノナルコトヲ注意スヘシ讓渡裏書トハ所謂完全裏書ニシテ完全ナル手形ニ付キ爲シタル附屬ノ手形行爲ニシテ手形上ノ新債權者及ヒ新債務者ヲ現出セシムルモノヲ謂フ然ラハ此種ノ手形行爲ニ依リテ讓渡スコトヲ得ルモノハ果シテ如何刑法ハ明治十五年ノ發布ニ係ルヲ以テ其所謂裏書ニ依リテ讓渡シ得ヘキ文書トハ主トシテ文書ノ事實上ノ效用ニ依リ判斷セサルヘカラサリシト雖モ現時商法ノ制定アリタル以上ハ必スヤ商法ノ規定ニ依リテ論決ヲ下サヽルヘカラス商法第二百八十二條ニハ「第四百五十七條ノ規定ハ金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖債權ニ之ヲ準用ス」ト規定シ而シテ第四百五十七條ニハ裏書ハ云々スルニ依リテ之ヲ爲スト定ム同第三百三十四條ニハ貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送ニ關スル事項ハ荷送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ルト規定シ同第三百六十四條ニハ預證券及ヒ質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ因リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラスト規定シ同第四百五十五條ニハ爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ因リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラスト規定シ同第五百二十九條及ヒ第五百三十七條ニ於テハ上述ノ第四百五十五條ノ規定ヲ約束手形又ハ小切手ニ準用シ同第六百二十九條ニ於テモ亦上述ノ第四百五十五條ヲ船荷證券ニ準用シタリ然ラハ現時ニ於テ所謂法律上裏書ニ依リ讓渡シ得ヘキ文書トハ

(1) 指圖文句ヲ有スル文書

(2) 指圖文句ヲ有セサル文書中貨物引換證、倉荷證券即チ預證券及ヒ質入證券、爲替手形、約束手形、小切手及ヒ船荷證券

ヲ謂フニ外ナラス刑法ハ裏書ヲ以テ賣買シ得ヘキ證券又ハ金錢ヲ以テ交換

スヘキ約束手形ヲ規定スト雖モ理論上ヨリ言ヘハ約束手形ハ總テ裏書ヲ以テ賣買スルコトヲ得ル證券ナリト云フコトヲ得ヘク賣買トハ近時ノ用例ニ於ケル讓渡ト同一ナルヘク賣買スヘキ證書ト云フモ證券中必ス裏書ヲ以テ讓渡セサルヘカラサルモノナキヲ以テ讓渡シ得ヘキ證券ト云フコト其語句上妥當ナルヘク又裏書ヲ以テ讓渡ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ廣ク法律上ノ一般ノ性質ニ付キテ謂フモノニシテ振出人又ハ作製者カ裏書ヲ禁スル旨ヲ定メタル爲替手形、約束手形、小切手及ヒ船荷證券ヲ除外スル意ニアラサルヘク而シテ總テ財產上ノ權利義務ニ關スル文書ハ事實上概ネ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得ルモ刑法第二百九條ノ規定ハ第二百十條ノ規定ヨリ見ルモ法律上讓渡シ得ルモノニ限定スル趣旨ナルコトハ明瞭ニシテ夫ノ事實上裏書ヲ以テ讓渡スル文書ニシテ指圖文句ヲ有セサルモノ即チ指圖證券タラサルモノ例ヘハ近時坊間ニ於テ散見スル商品切手ノ如キハ刑法ノ所謂裏書ヲ以テ讓渡シ得ヘキ文書ニアラサルヘシ是レ余輩カ法律上裏書ニ依リ讓渡シ得ヘキ文書ト云フ所以ナリ

二、裏書　裏書ハ商法第四百五十七條ニ依レハ文書自體ニ又ハ其謄本若クハ補箋ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス補箋ニ裏書ヲ爲シタルトキハ果シテ之ヲ文書ト論定スルコトヲ得ルヤ否ヤハ學說ノ岐ルヽ所ナルモ刑法上ニ於テハ少ナクトモ之ヲ文書ニ準スヘキナリ而シテ裏書ハ讓渡裏書、委任裏書、質入裏書ヲ包含スルモノト解スヘシ刑法ハ既ニ裏書ヲ文書ニ準ス然ラハ何故ニ保證、參加引受モ亦之ヲ文書ニ準セサルカ到底論理不貫徹ノ譏ヲ免カルヘカラス

三、其他ノ權利義務ニ關スル文書　所謂權利義務トハ廣ク財產上ノ權利義務及ヒ身分上ノ權利義務ヲ謂フモノト解ス刑法ハ賣買、交換、贈與、貸借ノミヲ例示スルモ之ヲ以テ直チニ所謂權利義務トハ財產上ノ權利義務ナリト速斷スヘカラス

第二、權利義務ニ關セサル私文書　權利義務ニ關セサル私文書トハ例ヘハ印鑑證明、在籍證明等ノ證明願、印鑑屆、登記願、送狀、書簡等ヲ謂フ而シテ權利義務ニ關セサル私文書ノ僞造又ハ變造行使罪ニ付キテハ主刑トシテ

一月乃至一年ノ重禁錮、附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金ヲ科シ法律上裏書ニ依リ讓渡シ得ヘキ文書又ハ證書ノ僞造又ハ變造行使罪ニハ輕懲役ヲ科シ其他ノ權利義務ニ關スル文書ノ僞造又ハ變造行使罪ニハ主刑トシテ四月乃至四年ノ重禁錮、附加刑トシテ四圓乃至四十圓ノ罰金ヲ科ス

第四款　餘論

刑法改正案ハ刑法ノ如ク眞正ノ私印ノ不正使用又ハ僞造ノ印章ノ使用ヲ處罰スルニ拘ハラス更ニ行使ノ目的ニ出テタル印章ノ僞造ヲ處罰シ私ノ印章ニ對シ付與シタル保護ハ凡テ之ヲ私ノ署名ニモ付與シタリ

刑法改正案ハ私文書ニ關シテハ最モ良好ナル改正ヲ爲セリ即チ先ツ私文書中ノ有價證券例ヘハ手形ハ官文書中ノ有價證券例ヘハ公債證書ト共ニ之ヲ有價證券僞造罪中ニ特別罪トシテ規定シ其他ノ文書ニ付キテハ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ僞造シ又ハ他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル文書ヲ變造シタル行爲又ハ此等ノ文書ヲ使用シタル行爲ヲ處罰スルト共ニ繪圖ニ對シテモ亦文書ト同一ノ保護ヲ與ヘタリ

第六節　免狀、鑑札及ヒ疾病證書ヲ僞造スル罪及ヒ其科刑

第一款　總論

本節ノ罪ハ免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ僞造スル罪ト題スルニ拘ハラス尙ホ詐欺ノ行爲ニ依リ免狀鑑札ノ下附ヲ受クル行爲及ヒ官吏カ詐欺ノ所爲ナルコトヲ知ルニ拘ハラス免狀鑑札ヲ下附シタル行爲ヲ規定シタリ而シテ免狀鑑札ハ概ネ官公文書ニシテ疾病證書ハ私文書ナルヲ以テ此等ノ物ヲ僞造スル罪ニ付キテハ文書僞造ニ付キテ論シタルモノヲ參酌スヘシ

免狀鑑札トハ所謂官公文書中ノ公證文書ニ屬スヘキモノニシテ免狀トハ概ネ一定ノ資格ヲ公證スル文書ヲ謂ヒ鑑札トハ一定ノ行爲ノ特許ヲ公證シタル文書ヲ謂フカ如シ疾病證書トハ現今ノ所謂診斷書又ハ檢案書ニシテ身體又ハ健康ノ狀況ヲ鑑定シタル文書ナリ

第二款　免狀、鑑札又ハ疾病證書ノ僞造行使罪

第一、免狀又ハ鑑札ノ僞造又ハ變造行使罪(刑法二一七)

本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ免狀鑑札ヲ僞造又ハ變造シテ行使シタル行爲ナリ本罪ノ目的物ハ前述セル如ク官公文書中ニ屬スルモノナルヲ以テ其僞造行使罪ハ彼ノ官印ヲ僞造又ハ盜用スルノ行爲ト俱發スルコトヲ通常トス此場合ニ於テモ刑法第百條ヲ適用シテ比較的ニ重キ刑ヲ科スヘキモノナレトモ刑法ハ第二百十三條但書ニ於テ此場合ニハ常ニ官印僞造ノ各本條ニ照シテ處斷スヘキ旨ヲ定ムルヲ以テ第百條ヲ適用スルノ煩ヲ省クコトヲ得ルナリ刑法ハ此種ノ場合ニ於テハ概ネ二者ヲ比照シテ重キニ從テ處斷スト規定スルニ拘ハラス本條ノ但書ニ於テハ常ニ官印僞造ヲ以テ論スヘキモノト規定セルハ免狀鑑札ノ僞造行使ノ刑ハ常ニ官印僞造ニ關スル罪ノ刑ヨリ輕キヲ以テナリ

第二、疾病證書ノ僞造又ハ變造行使罪(刑法二一五、二一六)

疾病證書トハ前述セル如ク所謂診斷書又ハ檢案書ナリ故ニ醫師ノ氏名ヲ以テ作製シタルモノナルヘキコトハ勿論ナリ本罪ノ主體ハ公務ニ服スル義務ヲ有スル者特ニ兵役ニ服スル義務ヲ有スル者ナルヘクシテ本罪ハ又一定ノ目的ヲ有スル行爲ニシテ二ノ體樣ヲ有ス

一、自己ニ關スル疾病證書ノ僞造又ハ變造行使罪

(イ) 公務ヲ免カルヽ目的特ニ兵役ヲ免カルヽ目的　公務ヲ免カルヽ目的トハ兵役ヲ免カルヽ目的、證人又ハ參考人トシテ裁判所ニ出頭シ又ハ證人若シハ參考人トシテ事實ノ陳述ヲ爲サヽル目的等總テ法律上公務ニ從事スヘキ義務アル場合ニ於テ其義務ニ服セサルヘキ目的ヲ謂フ

(ロ) 行使ノ目的ヲ以テ自己ニ關スル疾病證書ヲ僞造又ハ變造スル行爲

(ハ) 僞造又ハ變造ノ疾病證書ノ行使

而シテ兵役ヲ免カルヽ目的ニ出テタル場合ハ特ニ之ヲ第二百十六條ニ規定シ別罪トナセリ

二、他人ニ關スル疾病證書ノ僞造又ハ變造行使罪

(イ) 公務ヲ免カレシムル目的

(ロ) 行使ノ目的ヲ以テ他人ニ關スル疾病證書ヲ僞造又ハ變造スル行爲

（ハ）偽造又ハ變造ノ疾病證書ノ行使

第三、疾病證書ノ偽造罪（刑法二一六）

疾病證書ノ偽造罪ハ所謂疾病證書ノ無形ノ偽造ノ場合ノミニ關ス即チ醫師カ虚偽ノ疾病證書ヲ作製スル行爲ナリ故ニ本罪ノ主體タルニハ必ス醫師タル身分ヲ有スルコトヲ必要トス而シテ本罪ハ無形ノ偽造ノ場合ナルヲ以テ固ヨリ變造ヲ包含セサルコトハ勿論ナリトス

一、公務ヲ免カレントスル者特ニ兵役ヲ免カレントスル者ノ囑託ヲ受ケタル事實

二、行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ疾病證書ヲ偽造シタル行爲

第三款　免狀又ハ鑑札ノ下附ニ關スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

免狀又ハ鑑札ノ下附ニ關スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

本罪ニハ二個ノ體樣アリ

第一、詐欺的行爲ニ因リ免狀又ハ鑑札ノ下附ヲ受ケタル罪　詐欺的行爲トハ例ヘハ屬籍、身分、氏名ノ詐稱其他ヲ謂フモノニシテ詐欺的行爲ニ依ルト云フハ詐欺的ノ行爲カ下附ヲ受クル重要ナル原因ナリシコト即チ詐欺的ノ行爲ヲ下附ヲ受クル手段ニ施用シタルコトヲ謂フ

第二、詐欺的行爲ニ依リ下附ヲ受ケントスル者ニ對シ免狀又ハ鑑札ヲ下附シタル罪　本罪ノ主體ハ當然官吏ナリトス特ニ申請ニ應シテ免狀又ハ鑑札ヲ下附スル職務ヲ有スル官吏ナリ

偽證ノ罪及ヒ其科刑總論

第七節　偽證ノ罪及ヒ其科刑

第一款　總論

本節ノ罪ハ其主體ニ證人タル身分、鑑定人タル身分又ハ通事タル身分ヲ必要トスルモノニシテ證人ニ付キテハ偽證罪、鑑定人又ハ通事ニ付キテハ虚偽ノ鑑定又ハ通事ヲ爲ス罪ヲ規定セルヲ以テ嚴格ニ論スレハ本節ノ題目ハ不當ナリト云ハサルヘカラス

本節ニ於テハ上述セル如ク別種ノ二罪即チ偽證罪及ヒ虚偽ノ鑑定又ハ通事ヲ爲ス罪ヲ規定セルモ刑法第二百二十五條及ヒ第二百二十六條ニ依レハ此別種ノ二罪ニ共通スル規定アルヲ以テ今左ニ其共通ノ規定ニ付キ説明セントス

第一、僞證若クハ虚僞ノ鑑定又ハ通事ノ教唆

刑法第百五條ニ依レハ「人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス」ト規定セリ故ニ證人、鑑定人又ハ通事タルヘキ者ヲ教唆シテ重罪又ハ輕罪タルヘキ僞證若クハ虚僞ノ鑑定又ハ通事ヲ爲サシメタル者ハ之ヲ僞證罪若クハ虚僞ノ鑑定又ハ通事ヲ爲シタル罪ノ正犯ヲ以テ論スヘキコトハ疑ナキ所ナリ

而シテ刑法第二百二十五條ニ依レハ賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定、通事ヲ爲サシメタル者モ亦僞證ノ例ニ同シト規定ス故ニ學者ノ第二百二十五條ニ對スル見解ハ自ラ二樣ニ分岐セリ

第一見解　本條ハ僞證若クハ虚僞ノ鑑定又ハ通事ヲ爲ス罪ニ付キテ特別ナル教唆ヲ規定シタルモノナリ教唆ノ一般規定ニ依ルトキハ單ニ人ヲ教唆シ云々ト規定シアルニ拘ハラス本條ノ教唆ハ其方法ヲ賄賂其他ノ方法ニ限定セリ即チ教唆ノ方法ノ何タルヤハ區別セサルモ必スヤ何等カノ方法ヲ用ヰサルヘカラサルナリ若シ教唆ノ一般規定ト本條ノ規定トニ前述セル如キ差異アリトスレハ刑法ノ眞意ハ本節ノ罪ニ付テハ教唆ノ一般規定ヲ適用スルコトヲ妥當ナラスト思料シ特別ニ本條ニ於テ教唆ノ特別規定ヲ設ケタルナリ

惟フニ大審院ノ判例ハ此見解ヲ採リシ如ク或ハ刑法第二百二十五條ニ所謂其他ノ方法ト云ヘルハ脅迫、詐欺、威權、約束等不正ニ渉ル手段ヲ指シタルモノナリト云ヒ或ハ不法ノ方法ヲ用ヰス單ニ過去ニ屬スル恩惠上ノ關係ヲ說キテ僞證ヲ囑託シタル所爲ハ法律上罪ト爲ラスト云ヒ或ハ賄賂其他ノ方法ニ依ラス單ニ人ニ囑託シテ僞證ヲ爲サシムルモ刑法第二百二十五條ノ犯罪ヲ構成セスト云ヘリ

第二見解　本條ハ單ニ教唆ノ一般規定ノ適用アルコトヲ明カニシタル規定ニ過キス佛文草案註釋ニ依レハ本條ハ教唆ノ一般規定ノ適用ニ過キサルヲ以テ裁判所ノ適用スルニ一任シテ不可ナキモ僞證罪ニ對スル刑ト共ニ僞證セシメタル罪ノ刑ヲ規定スルコトハ從來ノ習慣ナル旨ヲ明記セリ刑法ハ佛文草案ノ規定ヲ襲用シタルニ過キサルノミナラス教唆ノ一般規定ニハ單ニ人ヲ教唆シト云フモ何等カノ方法ニ依ラサル教唆ハ想像スルコト能ハサルヲリ要スルニ本條ノ規定ト教唆ノ一般規定トハ其實質ニ於テハ何等ノ差異ナ

キモノナリ

余輩ハ第二ノ見解ヲ是トス然レトモ僞證又ハ虛僞ノ鑑定、通事ハ第二百十八條第三號及ヒ第二百二十四條ノ場合ノ如ク違警罪タル場合アリ違警罪ノ敎唆ハ一般規定ニ依リテ之ヲ處罰スルコトヲ得サルモ本條ノ規定ニ依レハ之ヲ處罰セサルヘカラス故ニ本條ノ規定ハ全然不必要ノ規定ナリト云フコト能ハサルモ其重ナル適用ハ敎唆ノ一般規定ノ適用アルコトヲ示シタルニ外ナラス

第二、僞證若クハ虛僞ノ鑑定又ハ通事ノ自首

本節ノ罪ニ對シテモ自首ノ一般規定ノ適用アルコトハ勿論ナルモ刑法ハ更ニ刑ノ免除ノ效力ヲ有スル自首ヲ規定ス

刑ノ免除ノ效力ヲ有スル本罪ノ自首ノ要件ハ一般自首ノ要件以外ニ尙ホ其自首ノ時期カ事件ノ裁判ノ宣告前ナルコトヲ要ストセリ事件ノ裁判宣告トハ或ハ各審級ニ於ケル裁判ノ宣告ナルカ或ハ確定裁判ノ宣告ナルカニ付キ學者間ニ異說ノ存スル所ナリ通說ニ依レハ之ヲ確定裁判ノ宣告ト解スルモ余輩ハ之ヲ採ラス蓋シ裁判宣告トハ少ナクトモ宣告ノ時期ヲ謂フモノナルコトハ明カ

ナル所ニシテ事件ノ裁判宣告トハ僞證又ハ虛僞ノ鑑定又ハ通事ヲ爲シタル各審級ニ於ケル裁判宣告ノ時期ヲ謂フモノナリ今試ニ通說ニ從フトセハ

一、大審院ニ於ケル僞證若クハ虛證ノ鑑定又ハ通事ノ外ハ自首期間ノ終期ハ宣告ノ時期ニアラスシテ判決確定ノ時期即チ宣告ノ日時後一定ノ日時ナルヘクシテ成文上宣告ナル語ニ適セサル不當アリ

二、大事件ノ第一審廷ニ於テ爲シタル僞證若クハ虛僞ノ鑑定、通事ノ如キハ數年ノ後其大事件ノ確定スル時期マテハ其判決ヲ下スコトヲ得サル不當アリ」

要スルニ通說ハ自首免除制ノ立法論ニハ適合セル如キモ成文ヲ正確ニ解釋セントスル者ノ採用シ難キ見解ナリト云ハサルヘカラス

第二款　僞證罪及ヒ其科刑

第一項　總論

本罪ノ主體ハ必ス證人ナル身分ヲ有スル者ナラサルヘカラス證人ハ其實質ヨリ謂ヘハ宣誓ヲ經テ裁判所ニ對シ一定ノ事實ヲ陳述スル者ニシテ其形式ヨリ謂ヘハ訴訟ノ當事者ニアラスシテ完全且公平ニ事實ヲ陳述シ得ヘキ者ナリ

第一、實質　證人トハ裁判所ニ對シ宣誓ヲ經テ一定ノ事實ヲ陳述スル者ナリ一定ノ事實トハ犯罪事實又ハ犯罪ニ牽聯スル事實ノ義ニシテ宣誓トハ刑事訴訟法及ヒ民事訴訟法ニ依レハ良心ニ從ヒ眞實ヲ陳ヘ何事モ默祕セス又ハ附加セサル旨ノ誓言ナリ陸海軍治罪法ニ依レハ誠實ニ事實ノ陳述ヲ爲スヘキ旨ノ誓言ナリ裁判所ニ對スル陳述トハ裁判所ノ訊問ニ應シ裁判所ニ對シテ爲ス應答ヲ謂フ必スシモ裁判所ト名クル建造物ノ中ニ於テスルコトヲ要セス而シテ裁判所トハ前述ノ如ク現今ノ國法上通常裁判所、軍法會議、行政裁判所ヲ謂フモノニシテ通常裁判所トハ大審院、控訴院、地方裁判所、區裁判所ハ勿論豫審判事又ハ受命判事ヲモ包含ス豫審判事又ハ受命判事カ裁判所ナリヤ否ヤハ多少ノ異論ヲ爲ス餘地アリ蓋シ豫審判事ハ通常之ヲ裁判所トハ稱セサルモ其性質ヨリ云ヘハ一種ノ裁判所ナルコトハ外國法ニ審理裁判所又ハ豫審裁判所ノ法律語アルニ依リテモ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ佛文草案ノ註釋ニ依ルモ僞證罪ニ付キテハ明文ヲ以テ豫審判事ヲ豫想セルカ故ニ少ナクトモ僞證罪ニ關シテハ豫審判事ハ之ヲ裁判所ト看做サヽルヘカラス然ラハ受命判事ニ付キテモ亦刑事訴訟法第二百四十一條末項等ニ依リ同一ノ斷案ヲ下サヽルヲ得ス

第二、形式　證人トハ訴訟當事者ニアラスシテ完全且正當ニ事實ヲ陳述シ得ヘキ者ナリ蓋シ訴訟當事者モ亦裁判所ニ對シテ一定ノ事實ヲ陳述スルコトヲ得ト雖モ當事者ハ如何ナル場合ト雖モ證人ニアラス而シテ訴訟當事者以外ノ者ニ對シテ事實ノ陳述ヲ爲サシムルニ付キテモ或ハ智能ノ發達不十分ノ爲メ完全ニ事實ノ陳述ヲ爲スコトヲ得サル者又ハ其境遇上眞實ニ反スル陳述ヲ爲ス虞アル者ニ對シテハ訴訟法ハ之ヲ證人トシテ訊問スルコトヲ許サス故ニ證人ハ完全且公平ニ事實ヲ陳述シ得ル者ナラサルヘカラス然ラハ訴訟法上完全且公平ニ事實ノ陳述ヲ爲シ得サル者トハ如何ナル者ナリヤ刑事訴訟法ニ依レハ其第百二十三條、第百二十四條ニ記載シタル者又ハ第百二十五條ニ記載シタル事由ヲ有スル者ハ刑事事件ニ付キ證人ト爲ルコトヲ得ス民事訴訟法ニ依レハ其第二百九十七條ニ記載シタル者又ハ第二百九十八條ノ事由ヲ有スル者ハ同法第二百九十九條ニ於テ多少ノ例外ヲ認メサルニアラサルモ概ネ民事事件ニ付キ證人ト爲ルコトヲ得ス陸軍治罪法ニ依レハ其第六十條及ヒ第六十五條第

二項ニ記載シタル者ハ陸軍軍法會議事件ニ付キ又海軍治罪法ニ依レハ其第六十五條及ヒ第七十條第二項ニ記載シタル者ハ海軍軍法會議事件ニ付キ證人トスルコトヲ得ス行政裁判法第三十八條ニ依レハ民事訴訟法ニ於テ證人タルコトヲ得サル者ハ行政裁判事件ニ付キテモ亦證人ト爲ルコトヲ得ス

僞證罪トハ眞正ノ事實ヲ陳述セサル行爲ニシテ眞正ノ事實ヲ陳述セサルニ付キテハ其手段ニ二樣アリ一ハ單ニ眞正ノ事實ヲ陳述セサルコトニシテ二ハ虛僞ノ事實ヲ陳述スルコト是ナリ

第一、眞正ノ事實ヲ陳述セサル僞證　眞正ノ事實ヲ陳述セサル僞證トハ所謂事實ヲ默祕スルコトニシテ其知悉スル眞正ノ事實ヲ陳述セサル不作爲ニ關ス理論上ヨリ云ヘハ苟モ僞證ノ意思ヲ以テ默祕シタルトキハ直チニ之ヲ僞證トナスコトヲ得ルモ實際ニ於テハ僞證ノ意思ヲ認定スルコトノ困難ナル結果事實ヲ默祕シタル場合ト雖モ其默祕セル事實カ裁判所ヨリ質問ヲ受ケタル事實ナルカ又ハ其事件ノ重要ナル事實ニアラサレハ僞證ヲ以テ論スルコトヲ得サルヘシ

第二、虛僞ノ事實ヲ陳述スル僞證　此種ノ僞證ハ作爲ニシテ陳述ハ明示ナルコトアリ或ハ默示ナルコトアリ明示ノ陳述トハ進ミテ虛僞ノ事實ヲ陳述スルコトヲ謂ヒ默示ノ陳述トハ陳述セサルモ陳述シタルト同一ノ效果ヲ生スヘキ働作ヲ爲スヲ謂フナリ

僞證罪成立ノ時期ハ宣誓後陳述ヲ爲シタル場合ト陳述ノ後ニ宣誓ヲ爲シタル場合トニ區別シテ論セサルヘカラス我國法ニ於テハ一般ニ陳述ノ前ニ宣誓ヲ爲サシムルノ法制ヲ採レルモ民事訴訟法第三百六條第二項ニ依ルトキハ宣誓ハ特別ノ原因アルトキ特ニ之ヲ爲サシムヘキヤ否ヤニ付キ疑ノ存スルトキハ訊問ノ終ルマテ之ヲ延フルコトヲ得ル旨ヲ規定セルヲ以テ民事訴訟法及ヒ民事訴訟法ヲ適用スル結果行政訴訟ニ付キテモ陳述後ニ宣誓ヲ爲ス場合アリト云ハサルヘカラス

一、宣誓後陳述ヲ爲ス場合　此場合ニ於テハ僞證罪ハ虛僞ノ事實ヲ陳述シ又ハ眞正ノ事實ヲ陳述セサリシ時期ニ於テ直チニ成立ス尤モ其時期ヲ隔タサル時期ニ於テ取消ヲ爲シタルトキハ僞證ノ意思不明ト爲ル結果僞證罪モ亦成立セ

サルト同一ノ效果ヲ生スヘシ

二、陳述後宣誓ヲ爲ス場合　此場合ニ於テハ偽證罪ハ宣誓ヲ爲ス時期ニ於テ始メテ成立ス故ニ宣誓前ニ於テ取消シタルトキハ當然偽證罪ノ成立ヲ妨クルモノトス

偽證罪ノ成立ニハ偽證ヲ爲ス意思アルヲ以テ足リ害意又ハ惡意アルコトヲ要セサルハ勿論ナリ然レトモ偽證ノ意思ハ理論上極メテ明確ナルモ實際ニ於テハ極メテ不明確ナルノミナラス偽證ノ働作ハ或ハ不作爲ナルコトアルヲ以テ一層其意思ノ認定ヲ困難ナラシム之ヲ要スルニ偽證罪ニ於ケル要點ハ法律論ニ在ラスシテ事實論ニ在リト云ハサルヘカラス

第二項　刑事裁判ニ關スル偽證罪及ヒ其科刑

第一目　罪

刑事裁判ハ通常刑事裁判所及ヒ軍法會議ニ於テ爲スモノナレハ刑事裁判ニ關スル偽證トハ刑事裁判所及ヒ軍法會議ニ於テ生スルモノト知ルヘシ此種ノ偽證ハ

一定ノ目的ニ出テタル場合ニアラサレハ之ヲ罪トセサルナリ而シテ一定ノ目的トハ被告人ヲ曲庇スル目的及ヒ被告人ヲ陷害スル目的ヲ謂フ蓋シ刑事裁判ニ關スル偽證ハ概ネ被告人ヲ陷害スル目的ニ出テサレハ即チ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出ツヘク被告人ヲ陷害又ハ曲庇スル目的ニ出テスシテ偽證スル場合ハ事實上殆ト皆無ナルヘシト雖モ理論上ヨリスレハ被告人タラサル眞正ノ犯人ヲ曲庇スル目的ニ出ツル場合等ヲ豫想スルコト難キニアラス刑法カ民事、商事其他ニ付テハ其目的ヲ限定セスシテ單ニ刑事裁判ノミニ付キ其目的ヲ限定セルハ多少ノ批難ヲ免カレサルヘシ

第一、被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル偽證罪

此種ノ偽證罪ハ刑法第二百十八條ニ規定ス本條ノ罪ハ被告人ヲ曲庇スル目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル行爲ナリ刑法ハ「裁判所ニ呼出サレタル者」ト規定セルモ裁判所ニ呼出サレサルヘカラサルコトハ證人ノ當然ノ性質ニシテ裁判所ニ對スルニアラサレハ證人ナルモノヲ想像スルコトヲ得ス刑法ハ「事實ヲ掩蔽シ」ト規定セルモ事實ヲ掩蔽スルコトハ偽證自體ノ要素ナリ余輩ハ裁判所ニ呼出サ

レ又ハ事實ヲ掩蔽シナル語辭ハ全然不必要ナルモノナリト信ス

一、被告人ヲ曲庇スル目的　曲庇トハ所謂「カバフ」ト云フ意味ニシテ被告人ニ利益ヲ與フルコトヲ謂ヒ所謂被告人トハ公訴ノ提起後ノ被嫌疑者ヲ謂ヒ其嫌疑セラルヽ罪ヨリ觀察スレハ之ヲ重罪トシテ訴追セラルヽ被告人、輕罪トシテ訴追セラルヽ被告人又ハ違警罪トシテ訴追セラルヽ被告人ニ區別スルコトヲ得刑法ハ此種ノ僞證罪ニ付キテハ重罪トシテ訴追セラレタル被告人ヲ曲庇スル目的ト輕罪トシテ訴追セラレタル被告人ヲ曲庇スル目的ト違警罪トシテ訴追セラレタル被告人ヲ曲庇スル目的トニ區別シテ其目的ノ異ナルニ從ヒ之ヲ別種ノ罪ト規定セリ刑法ハ單ニ重罪、輕罪又ハ違警罪ヲ曲庇スル爲メト規定シ其言詞不十分ニシテ如何ナル意味ヲ有スルモノナルカヲ解釋スルニ苦ムモ佛文草案ニ依レハ違警罪、輕罪又ハ重罪ノ訴追ニ關シト明カニ定メアルヲ以テ刑法ノ解釋トシテモ亦上ニ述ヘタル如ク解釋セサルヘカラス

二、僞證ノ行爲

本罪ハ左ノ條件ヲ具備スルニ因リテ成立ス

一、被告人ヲ陷害スル目的　陷害トハ被告人ニ不利益ヲ與フルコトヲ謂フ意味ニシテ刑法ハ陷害ノ目的ニ付キテモ重罪トシテ訴追セラルヽ、被告人ニ關スルモノト輕罪トシテ訴追セラルヽ、被告人ニ關スルモノトヲ區別シテ別種ノ罪ト規定セリ刑法ハ訴追セラルヽ被告人ニ關スルモノトヲ區別シテ別種ノ罪ト規定セリ刑法ハ重罪ニ陷ラシムル爲メ、輕罪ニ陷ラシムル爲メ又ハ違警罪ニ陷ラシムル爲メト規定スルヲ以テ若シ其語句ニ拘泥スレハ僞證者カ僞證ニ依リ陷レントスル罪カ重罪ナリヤ輕罪ナリヤ又ハ違警罪ナリヤヲ意味スルカ如クナルモ(1)佛文草案ニ依レハ本條ニ該當スル條項ニ於テ明カニ重罪事件ニ付キ被告人ニ不利益ナル陳述ヲ爲シタル者云々ト記載シ刑法ハ此草案ノ意味ヲ繼受シタルモノト認メサルヘカラサルノミナラス(2)曲庇ノ目的ノ塲合ト一致ヲ缺クヘカラス且(3)僞證者カ陷レントシタル罪ノ輕重ニ依リテ刑ヲ輕重スルコトハ理論上妥當ニアラスシテ殊ニ實際上ノ適用極メテ困難ナルヘシ刑法ノ

語句ニ拘泥セスシテ、訴追セラルヽ罪質ニ依リテ重罪、輕罪又ハ違警罪ヲ區別スヘシトナス學說ハ從來學者ノ唱道スル所ニシテ殆ト現今ニ於ケル一般ノ通說ナリ而シテ刑法ハ重罪トシテ訴追セラルヽ事件ナルト輕罪トシテ訴追セラルヽ事件ナルト又ハ違警罪トシテ訴追セラルヽ事件ナルトヲ論セス苟モ被告人ヲシテ死刑ノ宣告ヲ受ケシムル目的ナル塲合ニ於テハ其否ラサル目的ノ塲合ニ對シ其刑ニ輕重ノ區別ヲ爲シタリ

二、僞證ノ行爲

第二目　刑

第一段　被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル僞證罪ノ刑

被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル僞證ニ對スル刑ハ其被告人カ重罪ノ犯人トシテ訴追セラレタル者ト、輕罪ノ犯人トシテ訴追セラレタル者ト又ハ違警罪ノ犯人トシテ訴追セラレタル者トヲ區別シテ說明セサルヘカラス

第一、重罪事件ノ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル僞證　本罪ノ刑ハ主刑ハ二

月乃至二年ノ重禁錮ニシテ附加刑ハ四圓乃至四十圓ノ罰金トス然レトモ其僞證ニ因リ被告人カ正當ニ受クヘキ刑ヲ免カルヽニ至リタルトキハ上ニ述ヘタル所ニ一等ヲ加重シタル刑トス

第二、輕罪事件ノ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル僞證　本罪ノ刑ハ主刑ハ一月乃至一年ノ重禁錮ニシテ附加刑ハ二圓乃至二十圓ノ罰金トス然レトモ其僞證ニ因リ被告人カ正當ニ受クヘキ刑ヲ免カルヽニ至リタルトキハ上述ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス

刑法ハ違警罪事件ノ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル僞證ヲ本節ニ規定スルモ本罪ハ違警罪ニシテ重罪又ハ輕罪ニアラサルヲ以テ茲ニ之ヲ規定スルハ論理上穩當ノ處置ト云フコト能ハス而シテ刑法モ其刑ニ付テハ第四百二十五條第十四號ニ規定セルヲ以テ茲ニハ之ヲ說明セス

第二段　被告人ヲ陷害スル目的ニ出テタル僞證罪ノ刑

刑法ハ被告人ヲ陷害スル目的ニ出テタル僞證罪ニ對シテ一定ノ刑ヲ規定セルト

其ニ或場合ニ於テハ所謂反坐ノ刑ヲ科スヘキ旨ヲ規定セリ所謂反坐トハ歐洲ノ古代ノ「タリオン」法即チ反坐法ニ胚胎スルモノニシテ歐洲ニ於ケル刑法ノ沿革ニ溯ルトキハ刑法ノ主義トシテ反坐法ト云フ法制ヲ認メタルコトヲ知ルコトヲ得始メ國家團體ノ基礎ノ未タ薄弱ナル時代ニ於テハ團體ノ一人カ他人ノ爲メニ身體上ノ傷害ヲ被ルトキハ即チ其下手人ヲ捕ヘテ之ニ對シ任意ノ傷害ヲ加ヘタリシカ其後國家團體ノ基礎漸ク鞏固トナルニ至リ所謂目ハ目、齒ハ齒ヲ以テ償フコトヲ基礎タル觀念トスル反坐ナル法制ヲ採用シテ下手人ニ對スル制裁ハ尙ホ之ヲ被害者ニ一任シタリシモ國家ハ其復讐ニ一定ノ制限ヲ付シテ必ス其受ケタル傷害ト同一ノ傷害ヲ加フヘキコトヲ命シタリ是レ學者ノ所謂制限復讐主義ノ時期ト稱スル刑法ノ沿革ノ一階段ナリ此反坐ノ法制ハ弊害百出シテ國家的ノ制度トナスコトヲ得サルヲ以テ直チニ之ヲ廢止シタレトモ現時ノ佛國刑法典及ヒ我刑法ニ於テ僞證罪ニ付キ或場合ニ於テ反坐ノ刑ヲ科スルハ畢竟スルニ此歐羅巴ノ古代ノ反坐法ノ觀念ヲ繼受シタルニ過キス我刑法上ニ於テ反坐トハ一人カ執行セラレタル刑ト同一種且同一程度ノ刑ヲ科スルコトヲ謂フモノナリ即チ所謂彼ノ反坐法ト比較スルトキハ(1)被害者カ反坐ヲ爲サヽルコトニ於テ異ナリ(2)其受ケタル傷害ヲ標準トスルニアラスシテ執行シタル刑ヲ標準トシテ之ト同一ノ刑ヲ科スル點ニ於テ異ナリ(3)或場合ニ於テハ多少ノ輕キ種類又ハ輕キ程度ノ刑ヲ反坐スルコトアル點ニ於テ異ナレリ

本罪ニ對スル通常刑ハ其陷害セントスル被告人カ重罪事件ノ被告人タルト輕罪事件ノ被告人タルト又ハ違警罪事件ノ被告人タルトニ依リ其刑ノ輕重ヲ區別セリ

一　重罪事件ノ被告人ヲ陷害セントスル目的ニ出テタル僞證　本罪ノ刑ハ主刑ハ二年乃至五年ノ重禁錮、附加刑ハ十圓乃至五十圓ノ罰金トス

二　輕罪事件ノ被告人ヲ陷害セントスル目的ニ出テタル僞證　本罪ノ刑ハ主刑ハ六月乃至二年ノ重禁錮、附加刑ハ四圓乃至四十圓ノ罰金トス

三　違警罪事件ノ被告人ヲ陷害セントスル目的ニ出テタル僞證　本罪ノ刑ハ主刑ハ一月乃至三月ノ重禁錮、附加刑ハ二圓乃至十圓ノ罰金トス

本罪ニ對スル反坐刑ハ被告人ヲ陷害スル目的ニ出テタル、僞證カ重罪事件ノ被告

人ニ關スルト輕罪事件ノ被告人ニ關スルト又ハ違警罪事件ノ被告人ニ關スルトヲ區別セスシテ其適用ヲ有スレトモ仍ホ反坐ノ當然ノ結果トシテ

第一　被告人刑ニ處セラレサル場合即チ豫審ニ於テ免訴ノ言渡、公判ニ於テ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合

第二　被告人ノ刑ニ處セラレサル以前ニ本罪カ發覺シタル場合

第三　被告人ノ刑ニ處セラレタル以後ニ本罪カ發覺シタルモ其刑ニ處セラレタルハ本罪ノ結果ニアラサル場合

ニ於テハ其適用ナキコトハ勿論ニシテ其適用ヲ有スルハ被告人カ刑ニ處セラレタル以後ニ本罪カ發覺シ且其刑ニ處セラレタルハ本罪ノ結果ナリシ場合ノミナリ刑ニ處セラルヽトハ刑ヲ言渡ス判決カ確定シタルコトヲ謂ヒ發覺トハ搜査權ヲ有スル官署ニ發覺シタルコトヲ謂フ其刑ニ處セラレタルハ本罪ノ結果ナリシコトヽ云フハ刑ヲ言渡ス判決ノ確定及ヒ本罪トノ間ニ因果ノ關係アルコト即チ被告人ヲ陷害スル目的ニ出テタル僞證ニ原因シテ其被告人カ刑ヲ言渡ス確定判決ヲ受クルニ至リタルコト換言スレハ被告人ヲ陷害スル目的ニ出テタル僞證ヲ

リシナラハ其被告人ハ刑ヲ言渡ス確定判決ヲ受クルニ至ラサリシコトヲ謂フナリ

一　死刑ニ處セラレタル場合　此場合ニ於テモ僞證罪カ死刑ノ執行後ニ發覺シタル場合ト執行前ニ發覺シタル場合トノ區別アリ

(1)　僞證罪カ死刑ノ執行後發覺シタル場合

(イ)　被告人ヲ死刑ニ陷害スル目的ヲ以テ僞證シタル場合　此場合ニ於ケル反坐刑ハ第二百二十二條第二項前段ニ規定スル所ニシテ即チ死刑ニ反坐スヘキモノニシテ第二百二十二條第一項前段ノ規定スル所ニ屬ス

(ロ)　其以外ノ目的ヲ以テ僞證シタル場合　此場合ニ於テハ死刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑即チ無期徒刑ニ反坐スヘキモノニシテ第二百二十二條第一項前段ノ規定スル所ニ屬ス

(2)　僞證カ死刑ノ執行前ニ發覺シタル場合

(イ)　被告人ヲ死刑ニ陷害スル目的ヲ以テ僞證シタル場合　此場合ニ於ケル刑ハ第二百二十二條第二項後段ノ規定スル所ニシテ死刑ヨリ一等ヲ減輕

シタル刑即チ無期徒刑ニ反坐スヘキモノナリ

(ロ) 其他ノ目的ヲ以テ僞證シタル場合　此場合ノ刑ハ第二百二十二條第一項後段ノ規定スル所ニシテ死刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑即チ有期徒刑ニ反坐スヘキモノナリ

二　死刑以外ノ刑ニ處セラレタル場合

(1) 僞證罪カ刑ノ執行後ニ發覺シタル場合　此場合ニ於ケル反坐刑ハ被告人カ執行ヲ受ケタル刑ナリ然レトモ此反坐刑ハ僞證罪ニ對スル通常刑ト執行シタル刑トノ比較上執行シタル刑カ通常刑ヨリ輕キトキハ通常刑ヲ科スヘキモノナリ

(2) 僞證罪カ刑ノ執行中ニ發覺シタル場合　刑ノ執行中トハ刑ノ本質上ヨリ考フルトキハ專ラ自由刑ノミニ關スヘキモノナリ而シテ自由刑ノ刑期限內ニ僞證罪發覺シタル場合ニハ現ニ執行シタル刑期間其刑ニ反坐ス但其刑期カ通常刑ノ刑期ヨリ短キトキハ通常刑ヲ科スヘキモノナリ

民事事件又ハ行政裁判事件ニ關スル

第三項　民事事件又ハ行政裁判事件ニ關スル僞證罪及ヒ其科刑

刑法第二百二十三條ニハ民事、商事ト規定セルモ現今ノ國法ニ依レハ特別ニ商事裁判ト云フヘキモノナク商事ニ關スル爭モ亦民事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ以テ特別ニ商事ナルコトヲ明定スルノ必要ナシ所謂民事事件トハ民事訴訟法ニ依リテ審判スヘキ事件ト云フ意味ニシテ純粹ナル民事訴訟事件ハ勿論商事訴訟事件、人事訴訟事件又ハ非訟事件ヲモ包含ス

本罪ハ民事事件又ハ行政裁判事件ニ關スル證人カ僞證ヲ爲ス行爲ニシテ本罪ノ刑ハ主刑ハ一月乃至一年ノ重禁錮、附加刑ハ五圓乃至五十圓ノ罰金ナリトス

虛僞ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲ス罪及ヒ其科刑

第三款　虛僞ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲ス罪及ヒ其科刑

本罪ノ主體ハ鑑定人又ハ通事タル身分ヲ有スルコトヲ要ス

第一　鑑定人　鑑定人トハ裁判所ニ對シ宣誓ヲ經テ意見ヲ陳述スル者ニシテ完全且公平ニ陳述ヲ爲シ得ヘキ者ナルコトヲ必要トス鑑定人ノ宣誓ハ公平且誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキ誓言ヨリ成リ其完全且公平ニ陳述ヲ爲シ得サルニ依リテ

鑑定人トナシ難キ者ノ種類ハ證人ニ付キ述ヘタル所ト同一ナリ而シテ鑑定人ハ意見ヲ陳述スル者ナルヲ以テ縱令虛僞ノ事實ヲ陳述スルモ其事實ヲ陳述スル點ニ於テハ鑑定人ト云フコトヲ得ス而シテ鑑定人ノ事實ノ陳述カ虛僞ナル場合ニ於テ之ヲ罰セントスルニハ別ニ證人トシテ宣誓ヲ爲サシメタル場合ナラサルヘカラス然レトモ實際ニ於テハ虛僞ノ事實ノ陳述ト虛僞ノ意見ノ陳述トハ區別シ難キモノナルヲ以テ斯ノ如キ場合ト雖モ尙ホ虛僞ノ鑑定トシテ罰セラルヽヲ免カレサル如シ

第二　通事　裁判所構成法第百十五條第二項ニ依レハ當事者、證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヰルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウト規定シ刑事訴訟法第百條、第百二十九條、第百三十六條第二項、民事訴訟法第百二十五條、第百二十六條、行政裁判所法第四十三條、陸軍治罪法第五十九條、第六十三條、海軍治罪法第六十四條、第六十八條ハ通事ヲ使用シ正實ニ通譯ヲ爲スコトヲ誓ハシムヘキ旨ヲ規定ス然ラハ通事トハ裁判所ニ對シ宣誓ヲ經テ通譯ヲ爲ス者ニシテ刑事訴訟法第百一條第二項ニ於テハ完全且公平ニ通譯ヲ爲シ得ヘキ者ナルコトヲ必要トス而シテ刑事訴訟法上完全且公平ニ通譯ヲ爲シ得ヘキ者トハ證人ニ付テ述ヘタルト同一ナリ

本罪ハ虛僞ノ陳述即チ虛僞ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲ス行爲ナリ刑法ハ詐僞ノ陳述トハ云ヒ其語辭ノ上ヨリ云フトキハ或ハ書面ニ依リタル虛僞ノ鑑定ヲ包含セサルカ如キ嫌アルモ書面ニ依リ虛僞ノ鑑定ヲ爲シタル行爲ハ口頭ニ依ル虛僞ノ鑑定ヲ爲シタル行爲ト其罪責ヲ區別スヘキ特別ノ理由ナシト信ス

本罪ノ刑ハ僞證罪ニ對スル刑ト同シ即チ本罪ニ付テハ刑事裁判ニ關スルモノト民事裁判及ヒ行政裁判ニ關スルモノトニ區別シ刑事裁判ニ關スル場合ニアリテモ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル場合ト陷害スル目的ニ出テタル場合トヲ區別シテ僞證罪ニ付キ規定シタル刑ヲ科スヘキモノトス

第四款　餘論

刑法改正案ハ刑法ノ如ク第二十章僞證ノ罪中ニ僞證罪及ヒ虛僞ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタル罪ヲ規定スト雖モ此二種ノ罪ニ共通シテ左ノ二點ニ付キテ重要ナル修正ヲ加ヘタリ

本論　重罪、輕罪及ヒ其科刑
信用ヲ害スル罪及ヒ其科刑
公益ニ關スル重罪、輕罪及ヒ其科刑
僞證ノ罪及ヒ其科刑

一法令ニ依リ宣誓シテ證人、鑑定人又ハ通事ト爲リタル者ヲ本罪ノ主體ト規定シタリ　法令ニ依リ宣誓シテ證人、鑑定人又ハ通事ト爲リタル者ト云フハ一方ニ於テハ僞證ノ罪ノ成立ニハ宣誓ナル法式ヲ履行シタルコトヲ要スル旨ヲ明カニセルノミナラス他方ニ於テハ刑法ノ解釋トシテハ疑アルモノ例ヘハ懲戒裁判所又ハ懲戒委員會ニ於ケル證人、鑑定人、通事等モ亦僞證罪ノ主體タルヘキ者トナス旨ヲ明カニシタルモノナリ

二罪ノ細別ヲ廢止シタリ　刑法ハ刑事、民事其他ノ裁判ニ付キテ特別ノ僞證罪ヲ認メ刑事裁判ニ付テハ陷害ノ目的ニ出テタル僞證ト曲庇ノ目的ニ出テタル僞證トヲ區別シテ各特別ノ僞證罪トナシタレトモ僞證罪ヲ細別シテ各範圍ノ狹キ刑ヲ科スルハ何等ノ利益ナクシテ數多ノ弊害ヲ生スルニ過キス故ニ改正案ハ之ヲ一罪トナシ範圍ノ廣キ刑罰ヲ科スルニ止メタリ

刑法ハ僞證ノ罪ニ付キ自首免除ノ特例ヲ認ムルモ刑法改正案ハ此法制ヲ廢止シテ單ニ狹義ノ僞證罪ニ付キ自白減輕又ハ免除ノ法制ヲ創始シタリ改正案第百九十八條ニ依レハ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ト規定ス蓋シ自白ニ依ル減輕又ハ免除ノ法制ハ外國ノ立法例ニモ未タ見サル新法制ナリ自白トハ所謂自首ニ對スルモノニシテ罪ノ發覺前ニ其罪ヲ通知スル行爲ヲ自首ト云ヒ罪ノ現ハレタル後其罪ヲ通知スル行爲ヲ自白ト云フ故ニ新法制ヲ自首免除ノ法制ト比較スルトキハ左ノ如キ區別アルヘシ

一新法制ハ罪ノ發覺後ニモ尙ホ其適用アリ自首免除ノ法制ハ罪ノ發覺前ニノミ適用アリトス

二新法制ハ裁判確定前又ハ懲戒處分前ト明定シ自首免除ノ法制ハ裁判宣告前ト規定ス

三新法制ニ依レハ或ハ本刑ヲ科シ或ハ減輕シタル刑ヲ科シ或ハ刑ヲ免除スルコトヲ得レトモ自首免除ノ法制ニ依レハ常ニ刑ヲ免除セサルヘカラス

要スルニ二者共ニ得失アルヘシト雖モ僞證罪ニ付テノ自首又ハ自白ニ對シテ特別ノ效力ヲ付與スルハ主トシテ裁判ヲ誤ラサラシメントスル趣旨ナルコトヲ知ラハ自白ノ制ヲ採用シテ其適用ヲ廣クスルトスルモ少ナクトモ之ヲ非難スル餘地ナシ況ヤ改正案ノ如ク刑ノ部面ニ於テ其效力ヲ削減スルモノニ於テオヤ

第八節　度量衡ヲ僞造スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

第一款　總論

度トハ物ノ長短ニ關シ量トハ物ノ分量ニ關シ衡トハ物ノ輕重ニ關スル而シテ度量衡器ハ度量衡ノ標準タルヲ以テ明治二十四年三月法律第三號度量衡法ハ其基本ヲ定メ其原器、副原器ノ製作又ハ度量衡器ノ製作、修復、販賣ニ關スル規定其他ヲ設ケ明治三十年四月勅令第百十六號ニハ度量衡器ノ制限其製作、修覆及ヒ販賣免許並ニ檢査ニ關スル事項ヲ規定シテ特ニ其正確ナランコトヲ期セリ而シテ度量衡器ニ關スル罪ハ刑法典及ヒ前述セシ度量衡法ニ之ヲ規定シ相裨補シテ以テ秩序ヲ維持セントスルナリ度量衡法ニ於ケル刑法規ハ茲ニ之ヲ說カス今專ラ刑法典ニ於ケル刑法規ニ付キ講述スヘシ

第二款　度量衡器ノ販賣罪及ヒ其科刑

販賣トハ賣買ヲ營業トスルコトヲ謂フモノニシテ既ニ營業トナス以上ハ現ニ賣買ヲ爲サヽル場合ト雖モ亦之ヲ販賣ト云フコトヲ得ヘシ刑法ハ度量衡器ノ販賣ハ度量衡器ヲ僞造シ又ハ變造シテ販賣シタル場合及ヒ僞造又ハ變造ノ度量衡器ヲ販賣シタル場合ニ於テノミ之ヲ罪トセリ

第一　度量衡器ヲ僞造又ハ變造シテ販賣シタル罪　本罪ハ左ノ條件ヲ具備スルニ因リテ成立ス

一　行使ノ目的ヲ以テ度量衡器ヲ僞造又ハ變造スル行爲　度量衡法第十五條第一項ニハ免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ製作シ又ハ修覆シテ販賣シタル者云々ト規定ス然ラハ度量衡法ノ製作又ハ修覆販賣ノ罪ト本罪トノ關係ハ果シテ如何度量衡法第八條ニ依レハ度量衡器ヲ製作シ修覆シ若クハ販賣セントスル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ出願シテ免許ヲ受クヘキ旨ヲ規定ス然ラハ度量衡器ノ僞造又ハ變造ニ付テハ

イ　度量衡器ノ免許ヲ受ケタル者ノ爲シタル如ク製作又ハ修覆シタル僞造又ハ變造

ロ　度量衡器ヲ自身免許ヲ受ケタル者ノ如ク製作又ハ修覆シタル僞造又ハ變造

ノ二ニ區別スルコトヲ得思フニ第一ノ僞造又ハ變造ハ刑法ノ豫想スルモノ

ニシテ第二ノ僞造又ハ變造ハ度量衡法ノ豫想シタルモノナルヘシ

二　僞造又ハ變造ノ度量衡器ヲ販賣スル行爲

本罪ニ付テハ常ニ官ノ記號印章即チ檢印ノ僞造又ハ盜用ヲ伴フヘシ是レ度量衡法ノ施行規則第五條ニ依レハ度量衡器ヲ檢査シタル場合ニ於テハ其合格シタル者ニハ檢定ノ證印ヲ付シ云々ト命シタレハナリ此場合ニ於テハ官ノ記號印章ノ僞造罪ト比シ比較的重キ罪ニ依リ處斷スヘキ旨ヲ定メタリ

第二　僞造又ハ變造ノ度量衡器ヲ販賣シタル罪　刑法第二百二十八條ハ情ヲ知リナル語ヲ附加スレトモ其不必要ナルコトハ既ニ前述セル所ナリ

第三款　度量衡器ノ僞造又ハ變造罪及ヒ其科刑

刑法中度量衡器ノ僞造又ハ變造ノミヲ罰スルハ行使ノ目的ヲ有スル他人ノ囑託即チ教唆ヲ受ケテ爲シタル場合ノミナリトス何故ニ自己ノ發意ニ因リ僞造又ハ變造シタル行爲ヲ罪トナサヽルヤヲ解釋スルコトヲ得スト雖モ或ハ此場合ニ於テハ常ニ販賣ヲ爲スヘシト斷シタル結果ニハアラサルカ

本罪ハ左ノ事實及ヒ行爲ニ因リテ成立ス

一　他人ノ教唆ヲ受ケタル事實

二　度量衡器ヲ僞造又ハ變造シタル行爲

第四款　變造シタル度量衡器ヲ所持スル罪及ヒ其科刑

定規トハ度量衡器ノ全體ヲ謂フニアラスシテ度量衡器ノ上ニ表示スル長短多寡又ハ輕重ノ度ヲ謂ヒ定規ノ增減ハ度量衡器ノ變造ニ外ナラサルナリ而シテ本罪ハ定規ヲ變更シタル度量衡器ヲ所持スル行爲ニ關ス

第五款　變造ノ度量衡器ヲ使用シテ利ヲ得ル罪及ヒ其科刑

本罪ハ變造ノ度量衡器ヲ使用シテ利ヲ得ル罪ナリ利トハ必スシモ之ヲ財物ノミニ限定スルコトヲ得サルヲ以テ從テ本罪ハ常ニ詐欺取財ナリト云フコト能ハスト雖モ刑法ハ明文ヲ以テ特ニ常ニ詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノトセリ而シテ其利ヲ得タル度數ノ如何ニ拘ハラス常ニ一個ノ本罪ノミ成立スルコトハ注意ヲ要スル點ナリトス

身分ヲ詐稱スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

第九節　身分ヲ詐稱スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

第一、身分詐稱罪

所謂身分トハ原籍、族稱、氏名、年齢、業務ヲ謂フ而シテ詐稱トハ虚偽ノ事實ノ申立ニシテ其申立ハ或ハ書面ニ依ルコトアルヘク或ハ口頭ヲ以テスルコトアリ本罪ハ官公署又ハ官公吏ニ對シ虚偽ノ身分ヲ申立ツル行爲ナリ而シテ其主體カ刑事被告人ナルト否ラサルトヲ區別セサルコトハ勿論ナリ論者或ハ刑事被告人ニハ辯護權アルヲ以テ其身分ヲ詐稱シタル場合ト雖モ罪ト爲ラスト云フ者ナキニアラサリシト雖モ是レ固ヨリ何等ノ根據ナキノ說ナリ唯實際ニ於テハ身分詐稱罪ハ罰金刑ナルヲ以テ刑事被告人ニ對シ身分詐稱罪ヲ起訴スルモ何等ノ實益ナキヲ以テ或ハ之ヲ不問ニ付スル傾向アルノミ

第二、官職位記ノ詐稱罪

本罪ハ公然虚偽ノ官職位記ヲ僭稱スル行爲ナリ官トハ官吏タル身分、資格ノ種樣ヲ謂ヒ職トハ其管掌スル職務ナリ位記トハ從八位乃至正一位ノ貴號ヲ謂フナリ而シテ本罪ニ付テハ官公署又ハ官公吏ニ對シテ詐稱スルコトヲ要セスト雖モ公ノ信用ヲ害スル罪ノ一種ニ屬スルヲ以テ見レハ少ナクトモ公然詐稱スルコトヲ要スヘシ佛文草案ノ如キハ本罪ニ付キ明カニ公然ナル制限ヲ付シタリ

第三、官服、官ノ記章、內國又ハ外國ノ勳章ノ僭用罪

本罪ハ身分資格ヲ有セスシテ官服、官ノ記章又ハ內國又ハ外國ノ勳章ヲ着用又ハ佩用シタル行爲ナリ

官服、官ノ記章トハ例ヘハ皇族ノ大禮服、文官ノ禮服、警察官、軍人、司法官ノ制服其裝飾、紋樣又ハ褒章等ヲ謂ヒ內國ノ物ノミニ關ス着用トハ官ノ記章ニ付テ謂ヒ佩用トハ勳章ニ付テ謂フナリ

公選ノ投票ヲ僞造スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

第十節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪及ヒ其科刑（刑省略）

本節ニ於テハ公務ニ關スル投票ノ僞造罪、公務ニ關スル投票ノ數ヲ變更スル罪、賄賂ヲ授受シテ公務ニ關スル投票ヲ爲シ又ハ爲サシメタル罪ヲ規定スト雖モ其規定ハ粗雜ニシテ殆ト實際ノ必要ニ應シ難シ故ニ自治制ノ實施以來數多ノ單行法

律ニ依リ選擧ニ關スル詳細ナル規定ヲ設ケ實際上選擧ニ關スル罪ハ多數ノ場合ニ於テ單行法ニ觸ルヽコト多キヲ以テ刑法ノ本節ノ規定ノ適用ハ殆ト皆無ナリト云フコトヲ得ヘシ余ハ本節ノ罪ヲ說明スル必要ヲ感セス

選擧ニ關スル罰則ハ明治三十三年三月法律第七十三號衆議院議員選擧法第十章罰則アリ又明治二十三年五月法律第三十九號市町村會議員選擧罰則アリ而シテ衆議院議員選擧法ハ明治三十二年三月法律第六十四號府縣制第四十條ニ依リテ之ヲ府縣會議員ノ選擧ニ準用シ市町村會議員選擧罰則ハ明治三十二年三月法律第六十五號郡制第二十八條ニ依リ之ヲ郡會議員ノ選擧ニ準用スルナリ

刑法第二編第五章乃至第九章ハ講義ノ都合上茲ニ省略シ直チニ第三編ニ入ルコトヽセリ但後日ノ餘暇ヲ以テ補充スルコトアルヘシ

第二編　身體財產ニ對スル重罪、輕罪及ヒ其科刑

第一章　總論

刑法第三編ハ身體財產ニ對スル罪ト題シ第二編公益ニ對スル罪ト相對セシム其意蓋シ私益ニ關スル罪ハ主トシテ身體財產ニ對スル罪ナリト斷定シタル結果ナルヘキモ法典ノ體裁上決シテ穩當ノ措置ト云フ能ハス況ヤ公益ニ對スル罪ナル題目ニ付キ述ヘタルカ如ク罪ヲ公益ニ關スルモノト私益ニ關スルモノトニ區別スルコト既ニ不當ナルニ於テオヤ

刑法ハ身體財產ニ對スル重罪、輕罪ト題スレトモ正確ニ觀察スルトキハ左ノ如キ區別ヲ爲サヽルヘカラスト信ス

第一　廣義ノ身體ニ關スル罪

(甲)　直接ニ廣義ノ身體ニ對スル罪

(一)　生命ニ對スル罪

(イ)謀殺　(ロ)故殺　(ハ)過失殺　(ニ)自殺ノ敎唆及ヒ幫助

(二)　身體ニ對スル罪

(イ)毆打創傷　(ロ)過失傷害

(三)　自由ニ對スル罪

(イ)逮捕　(ロ)監禁

(四)　名譽ニ對スル罪

(イ)誣告(?)　(ロ)誹毀

(乙)　間接ニ廣義ノ身體ニ對スル罪

(一)脅迫　(二)墮胎　(三)遺棄　(四)略取誘拐　(五)猥褻　(六)姦淫　(七)重婚　(八)奉養ヲ缺ク行爲

第二　財産ニ關スル罪

(一)竊盜　(二)强盜　(三)隱匿　(四)家資分散ノ際ニ於ケル非行　(五)騙取　(六)費消　(七)賍物ノ取受、寄藏、故買、牙保　(八)建造物器物又ハ植物ノ毀壞又ハ毀損

第三　靜謐ヲ害スル罪特ニ公共ノ危害罪

(一)火災ニ關スル罪　(二)水難ニ關スル罪　(三)船舶ヲ覆沒セシムル罪

然リト雖モ刑法ノ法制ヲ遵守スルコト實際上便宜ナルヲ以テ以下刑法ノ排列ニ

準據シテ說明セントス

第二章　身體ニ對スル罪及ヒ其科刑

第一節　謀殺、故殺、毆打創傷罪及ヒ其科刑

第一款　總論

謀殺、故殺及ヒ創傷ノ罪ハ一ハ生命ヲ絕ツ行爲ニシテ一ハ身體ヲ傷害スル行爲ナリト云フ差異アリト雖モ(1)直接ニ他人ノ身體ニ對スル行爲ニシテ且(2)犯意ニ出テタル行爲ナル點ニ於テハ二者全ク同一ナリトス

刑法ハ謀殺、故殺ノ罪ト創傷ノ罪トハ別個ニ之ヲ規定スルニ拘ハラス此二者ニ共通ナル點ニ付キ共通ノ規定ヲ設ケ身體ニ對スル罪中ノ第三節ニ之ヲ規定シ殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪ト題スル所謂殺傷ニ關スル不論罪ノ場合即チ夫ノ危急防衛及ヒ殺傷ニ關スル宥恕ト雖モ危急防衛ノ過剩ノ如キ一般宥恕ハ之ヲ單ニ殺傷ノミニ關スル規定トナスコトヲ得サルハ既ニ汎論ニ於テ述ヘタル所ナルヲ以テ本節ノ罪ニ共通スル所ノ規定ハ畢竟所謂殺傷ニ關スル特別宥恕ノ場合ノミナリトス

第一　特別宥恕ノ適用ノ範圍

殺傷ニ關スル宥恕トハ總則ニ規定シタル一般宥恕以外ニ尙ホ犯意ニ出テタル殺傷罪ニ付キテ特別ニ付與スル宥恕ヲ謂フ今特別宥恕ノ特典ニ浴スヘキ殺傷罪ノ範圍ヲ定ムレハ凡ソ左ノ如シ

一　殺傷罪ト雖モ例ヘハ自殺ノ敎唆又ハ幇助ノ如キハ事實上特別宥恕ノ適用ナリ

二　事實上特別宥恕ノ適用ヲ有スル殺傷罪ト雖モ例ヘハ過失殺傷ノ如ク犯意ニ出テタルモノニハ法律上其適用ナキナリ

三　犯意ニ出テタル殺傷罪ナルモ其客體カ主體ノ祖父母又ハ父母ナルトキハ刑法第三百六十五條ニ依リ法律上其適用ナキナリ

四　犯意ニ出テタル殺傷罪ト雖モ其客體カ天皇、三后、皇太子又ハ皇族ナルトキハ法律上其適用ナキナリ此主義ハ刑法上之ヲ明示シタル條項ナシト雖モ汎論ニ於テ危急防衛ニ付テ說明セル如ク特別宥恕トハ唯第三編ノ私益ニ對スル罪ニ付テノ規定ニシテ皇室ニ對スル罪ハ我刑法上ニ於テハ之ヲ私益ニ對スル罪ト視サルモノト云ハサルヘカラス而シテ皇室ニ對スル罪ニ付テハ別ニ特別宥恕ヲ與フヘキ旨ノ明文ヲ設ケス是レ余輩カ此斷案ヲ得タル所以ナリ故ニ例ヘハ皇族其他ノ者ヨリ身體ニ對スル暴行ヲ受ケ直チニ暴行者タル皇族其他ヲ殺傷シタル者ハ其客體カ皇族ナリトノ理由ニ依リテ夫ノ特別宥恕ノ寬典ヲ受クルコトヲ得サルヘシ

第二　特別宥恕ヲ與フヘキ行爲

特別宥恕ヲ與フヘキ行爲ハ所謂挑發ヲ受ケタルニ因ル殺傷、互傷、姦所殺傷及ヒ晝間家宅ニ侵入セントスル者ヲ防止スル目的ニ出テタル殺傷ニシテ刑法第三百九條乃至第三百十二條ニ之ヲ規定セリ

一　挑發ヲ受ケタルニ因ル殺傷　挑發ヲ受ケタルニ因ル殺傷ハ特別宥恕ヲ受クヘキ行爲ニシテ人ヲ殺傷シタル場合ト雖モ其殺傷ノ原因カ被殺傷者ノ暴行ニ因リ挑發セラレタルコトニアリシトスレハ其犯情ヤ大ニ憫ムヘキモノアリ刑法ハ挑發ヲ受ケタルニ因ル殺傷ノ犯情ハ常ニ憫諒スヘキモノアリトナシ之ヲ判事ノ酌量ニ一任セスシテ豫メ特別宥恕ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタ

ルナリ

挑發宥恕ハ刑法第三百九條ニ之ヲ規定セリ曰ク自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但シ不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラスト刑法ハ單ニ不正ノ所爲ト規定スルヲ以テ其不正所爲ノ何タルヤニ付テハ異說アルニ拘ハラス余輩ハ唯罪タル所爲ヲ謂フモノト解釋セントス刑法ハ又直チニト規定スルモ其眞意ハ暴行ノ際ト云フ意味ナルヤ疑ナシ刑法ハ怒ヲ發シト規定セルモ其怒ヲ發スルコトハ唯其主タル場合ナルヘシト雖モ法律上決シテ之ヲ憤怒ノミニ限定スヘカラサルコト勿論ナルヲ以テ余輩ハ寧ロ之ヲ不必要ナル文字ナリト解釋セントス然ラハ挑發宥恕ノ要件ハ之ヲ左ノ二トナスコトヲ得ヘシ但其受ケタル暴行ト其爲シタル殺傷トノ比較上危急防衛ノ成立スルコト敢テ尠ナシトセスシテ此場合ノ罪責ナキコトハ勿論ナリ刑法ハ危急防衛カ成立セサル場合ニ於テモ尙ホ特別宥恕ヲ與ヘントスル意ナルコトニ注意スヘシ」

1 犯行者自身其不正行爲ニ因リテ他人ノ暴行ヲ招キタルニアラサル場合ニ於テ其他人カ犯行者ノ身體ニ對シテ暴行ヲ加ヘタル事實 他人カ犯行者ノ身體ニ對シ暴行ヲ加ヘタル事實トハ他人カ犯行者自體ニ對シ殺害、傷害、監禁、制縛其他直接ニ身體ニ對スル暴行ヲ加ヘタルコトヲ謂フモノニシテ此事實ニ付テモ他人ノ暴行ヲ爲スニ至リタルハ犯行者カ其他人ニ對シ不正行爲即チ罪タル行爲ヲ爲シタルニ因ルモノト否ラサルモノトヲ區別スルコトヲ得ヘクシテ刑法ハ前者ハ如何ナル場合ト雖モ法律上ノ挑發ト認ムヘカラサルコトヲ明定シタリ

2 暴行ノ際暴行ヲ爲ス他人ヲ殺傷スル行爲 暴行ノ際トハ暴行中又ハ暴行ノ終リタル時期ヲ謂フモノニシテ畢竟事實問題ニ屬スト雖モ苟モ暴行ノ際ト云ヒ難キ場合ニ於テハ挑發宥恕ヲ受クルコト能ハス殺傷トハ特別宥恕ノ適用ノ範圍ニ付キ說明シタル如ク單ニ犯意ニ出テタル殺害、傷害等ヲ謂フモノナルコト勿論ナリトス但挑發ヲ受ケタルニ因ル殺害ナルヲ以テ事實上概ネ謀殺ヲ包含セサルヘシ

二 互傷

互傷トハ刑法第三百十條ノ規定スル行爲ヲ謂ヒ左ノ要件ヲ具備ス

ルニ因リテ成立ス而シテ此行爲ハ之ヲ創傷ノ方面ヨリ規定セルモ創傷ノ結果死ニ至リタルトキニ於テモ尙ホ其適用ヲ有スルモノトス然レトモ刑法ハ本條ニ於テハ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ト規定セルヲ以テ此種類ノ行爲ニ對シテ宥恕ヲ爲スト否トハ裁判所ノ權利ニシテ其義務ニアラス

1 他人ニ創傷セシメラレタル者カ其際其他人ヲ創傷シタル行爲　刑法ハ毆打シテ互ニ創傷シ云々ト規定セルモ其意味ハ唯相互ニ創傷スルコトニアリテ必スシモ毆打ヲ手段トスルコトヲ要セス

2 最初ノ下手者カ其他人タルヤ又ハ行爲者タルカ不明ナル事實

三 姦所殺傷　刑法第三百十一條ニハ本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ……云々但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラスト規定ス夫妻ト云フハ現今ニ於テハ民法上有效ナル婚姻ヲ爲シタル夫婦ヲ謂ヒ民法制定前ニ於ケル如ク事實上ノ夫婦ヲ謂フニアラス姦通トハ妻カ本夫以外ノ男子ト姦淫スル行爲ヲ謂フモノニシテ姦所トハ姦淫行爲ノ行ハレタル場所ヲ謂ヒ縱容トハ所謂容認看過スル行爲ヲ謂フ而シテ刑法ハ其妻ノ姦通ヲ覺知シト云フモ其意味ハ本夫カ其妻ノ姦通ノ現場ヲ發見スルニ因リテ殺傷ノ意思ヲ生シト云フ意味ナリト解釋ス故ニ此行爲ハ左ノ要件ヲ具備スルニ因リテ成立ス

1 夫カ其妻ノ姦通ヲ容認シタル事實ナキコト　姦通ノ容認ニハ一般ノ容認例ヘハ其妻ヲシテ賣淫婦又ハ娼婦タラシムル如キモノト特別ノ容認例ヘハ特定者ノ妾タラシムルカ如キモノトノ區別アリ特別ノ容認ニアリテハ其特定者以外ノ者ニ付テハ姦通ノ容認ナキモノト云ハサルヘカラス

2 夫カ其妻ノ姦通ノ現場ヲ發見スルニ因リテ殺傷ノ意思ヲ生シ姦所ニ於テ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル行爲　姦所ニ於テト云フ語句ハ嚴格ナル意味ニ使用セラレタルモノニアラサルヲ以テ姦通ノ現場附近ハ皆姦所ナリト解釋スルコトヲ得ヘク姦夫又ハ姦婦ト云フモ姦夫及ヒ姦婦ヲ殺傷シタル場合ニ於テモ其適用アルコト勿論ナリ然レトモ姦通ノ現場ヲ發見スルニ因リ殺意ヲ生シタルコトヲ必要トスルヲ以テ夫カ其妻ノ姦通ヲ爲スコトヲ知リテ之ヲ殺傷スル意思ヲ以テ姦通ノ現場ニ至リ之ヲ殺傷シタル如

キ行爲ハ宥恕ヲ受クヘキ行爲ニハアラス

四　晝間家宅ニ侵入セントスル者ヲ防止スル目的ニ出テタル殺傷　刑法汎論ニ於テ説明シタル如ク夜間家宅ニ侵入セントスル者ヲ防止スル目的ヲ以テ人ヲ殺傷シタル行爲ハ危急防衛ノ一ノ體樣トシテ之ヲ罪トナサス然レトモ既ニ夜間ノ家宅侵入防止ノ目的ニ出テタル殺傷ヲ罪トナサストセハ其晝間ノ家宅侵入防止ノ目的ニ出テタル殺傷ニ付テモ多少ノ酌量ヲ爲スヲ妥當トス是レ刑法カ此種類ノ行爲ヲ宥恕スヘキ行爲ト規定シタル所以ナリ

1　晝間承諾ヲ得スシテ人ノ住居シタル邸宅ニ入リ又ハ門戸墻壁ヲ踰越損壞シテ入ラントスル者アル事實

2　防止スル目的ヲ以テ其入リタル者又ハ入ラントスル者ヲ殺傷シタル行爲

第三　特別宥恕ノ效力

刑法第三百十三條ハ特別宥恕ノ效力ヲ規定シ宥恕ヲ爲シタル場合ニ於テハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減輕スト規定ス故ニ第三百十條ノ減輕ハ全然裁判的ノ減輕ナリト雖モ其他ノ減輕ハ二等ヲ減輕スルモノハ法律的ノ減輕ニシテ三等ヲ減輕スルモノハ裁判的減輕ナリトス

第二款　犯意的殺害罪及ヒ其科刑

第一項　總論

本款ノ罪ハ謀殺、故殺ノ罪ト題シ(一)謀殺(二)準謀殺(三)故殺(四)準故殺ヲ規定シタリ準謀殺、準故殺ハ今之ヲ論セス謀殺、故殺ハ共ニ殺害行爲即チ人命ニ對スル行爲ニシテ共ニ犯意ヲ必要トスルコトハ勿論ナルモ唯單純ナル犯意ヲ必要トスルト豫謀的ノ犯意ヲ必要トスルトニ依リ區別アルモノトス豫謀的ノ犯意ノ何タルヤハ汎論ニ於テ述ヘタルヲ以テ今茲ニ之ヲ説カスト雖モ要スルニ行爲ノ細目及ヒ其結果ヲ詳知スル意思ノ狀態ヲ謂フモノニシテ所謂熟慮ノ末ニ生シタル犯意ナリトス

豫謀的ノ犯意ト單純ノ犯意トハ斯ノ如ク單ニ其程度ヲ異ニスルモノニシテ何等其性質ヲ異ニスルモノニアラス故ニ理論上正確ナル區別ノ標準ヲ發見シ難キノミナラス又實際ニ於テモ其區別ハ極メテ難解ナリトス況ヤ豫謀的ノ犯意ニ出テ

タル殺害ハ其情狀必スシモ常ニ通常ノ犯意ニ出テタル殺害ニ比シテ重シト云フヘカラサルニ於テオヤ是レ歐洲ノ立法例中ニアリテモ尙ホ其多數ハ豫謀的犯意ニ出テタル殺害ヲ特別ノ一罪トシテ通常ノ犯意ニ出テタル殺害罪ト區別セルニ拘ハラス學者ハ概ネ其區別ノ廢止論ヲ唱道スル所以ナリ刑法改正案ノ如キモ前議會ニ提出シタルモノニハ此區別ヲ存シタルモ今議會ニ提出シタルモノニハ全然其區別ヲ廢止セリ貴族院ニ於テモ多少ノ異議ナキニアラサリシモ遂ニ此廢止ヲ是認シタリ

殺害罪トハ囑託ヲ受ケスシテ他人ノ生命ヲ絕ツ行爲ヲ謂フ

第一　殺害罪ハ人ノ生命ヲ絕ツ行爲ナリ　人ノ生命ナラサルヘカラサルカ爲メ人トハ何ナルヤノ問題ヲ決セサルヘカラス蓋シ胎兒カ生キテ出生シテ人ト爲リ人カ死去シテ死體ト爲ルナリ然ラハ人ノ何タルヤハ死去及ヒ出生ノ何タルヤヲ說明スレハ自カラ明瞭ナルヘシ而シテ死去ニ付テハ別ニ說明ヲ要セス出生ト云フハ胎兒カ母體ヲ分離スルコトヲ謂フモノニシテ生キテ出生スルトハ胎兒カ生命ヲ有シ母體ヲ分離スルコトヲ謂フ故ニ苟モ胎兒カ生命ヲ有シ母體ヲ分離シタル以上ハ自然的ノ出生タルト又ハ人爲的ノ出生タルトヲ區別セス通常人ノ形ヲ有スルト否ラサルトヲ區別セス生存能力ヲ有スルト否トヲ區別セス之ヲ人ト認ムヘキモノトス而シテ生命ヲ有スルヤ否ヤハリストノ說ケルカ如ク呼吸ノ有無ニ依リ判斷スルヲ便利トスル如シ而シテ既ニ人ナル以上ハ其死去セサル限リハ縱令死ニ垂ントスル病者ナリトスルモ刑法上之ヲ人ト見サルヘカラス生命ノ何タルヤハ哲學上未タ確的ノ見解ナキヲ以テ刑法ノ部面ニ於テモ唯生命ハ生命ナリト云フニ止メサルコトヲ得ス然レトモ生命ハ肉體ニ隨伴スルモノナルヲ以テ生命ヲ絕タンニハ必スヤ肉體ニ重大ナル傷害ヲ與ヘサルヘカラス然ラハ殺害罪ト傷害罪トハ其客觀的ノ部面ニ於テハ何等ノ區別ナク唯其主觀的ノ部面ニ於テノミ區別アルモノナリ

第二　殺害罪ハ他人ノ生命ニ關スルモノナリ　故ニ自己ノ生命ヲ絕ツ行爲ハ刑法上之ヲ自殺ト云ヒ殺害トハ云ハス自殺ハ沿革上殊ニ我國ノ沿革上ニ於テハ道德論ヨリ之ヲ觀察スルモ敢テ不當ノ行爲ト云フ能ハサリシモ近時ノ倫理論トシテハ道德上到底正當ノ行爲ナリトハ云フコト能ハサルナリ然ラハ法律上

自殺ハ果シテ之ヲ處罰スヘキヤ否ヤト云フニ通說ハ現時ニ於テモ自殺ハ唯倫理上不當ノ行爲トナスニ止マリ法律上之ヲ處罰スルコト能ハサルモノトナスカ如シ

第三　殺害罪ハ囑託ヲ受ケスシテ他人ノ生命ヲ絕ツ行爲ニ關ス　刑法ハ前ニ述ヘタル如ク自殺ヲ以テ罪ト規定セサルモ或點マテハ他人ノ自殺ニ干與スル行爲ヲ特別ノ罪ト規定セリ然レトモ若シ殺害罪ヲ單純ニ他人ノ生命ヲ絕ツ行爲ナリト解釋スルトキハ自殺幇助罪ノ如キモ亦殺害罪トナサヽルヲ得サルヘシ是レ余輩カ特ニ囑託ヲ受ケスシテト云フ形容詞ヲ加ヘタル所以ナリ

刑法ハ第二百九十八條ニ於テ謀殺、故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ尙ホ謀故殺ヲ以テ論スト規定セリ論者或ハ誤リテナル詞ヲ過チテナル意義ニ解釋シ謀故殺ヲ行フ際ニ於ケル過失殺ヲ規定セル條項ナリト云フ(例ヘハ明治三十五年三月二十五日毆打致死ノ件ニ於ケル大審院判例)ト雖モ其當ヲ得サルコトハ勿論ニシテ余輩ハ通說ニ從ヒ之ヲ誤殺ノ場合ト解釋ス故ニ既ニ汎論ニ於テ說明シタルカ如ク此條ノ如キ規定ハ單ニ不必要ノ規定ナルノミナラス却テ不當ノ規定ナリト云ハサルヲ得ス

故殺ノ罪及ヒ其科刑

故殺罪及ヒ其科刑

第二項　故殺ノ罪及ヒ其科刑

第一目　故殺罪及ヒ其科刑

所謂故殺罪トハ準故殺罪ニ相對シテ純タル故殺罪ノミヲ謂フ故殺トハ刑法ノ正條ニ依レハ故意ヲ以テ人ヲ殺ス行爲ナレトモ其故意ト云フハ即チ感激ニ因リテ生シタル犯意ニ外ナラスシテ寧ロ豫謀即チ熟慮ニ因リテ生シタル犯意ヲ除外シタル犯意ヲ謂フモノナリ故ニ熟慮ニ因リテ生シタル犯意ニ出テタル殺害罪ヲ別ニ規定スルトセハ其普通ノ殺害罪ナル故殺罪ニ付テハ故意ヲ以テト云フ語句ヲ必要トセスシテ單ニ人ヲ殺シタル者ハ云々ト規定スルヲ以テ足レリトス況ヤ刑法第二百九十五條及ヒ第二百九十六條ニ於テハ單ニ人ヲ故殺シタル者ハ云々ト規定シ明カニ故意ヲ以テト云ハサルニ於テオヤ

故殺罪トハ單ニ囑託ヲ受ケスシテ他人ノ生命ヲ絕ツ行爲ニ關スルモノニシテ刑法上左ノ區別ヲ認メタリ

第一　通常ノ故殺罪　通常ノ故殺罪ニ對シテハ刑法第二百九十四條ハ無期徒刑

ヲ科シテ其犯行ノ手段ノ何タルヤヲ問ハス又其犯行ノ目的ノ何タルヤヲモ問ハス苟モ故殺行爲ニシテ後ニ述フル特別故殺罪又ハ豫謀ナキ毒殺罪ヲ構成セサル限リハ此種ノ故殺罪トシテ論スヘキモノトス

第二　特別ノ故殺罪　特別ノ故殺罪トハ情狀ノ重キ故殺罪ノ意味ニシテ刑法第二百九十五條及ヒ第二百九十六條ノ故殺罪ノ如キモノヲ謂ヒ常ニ死刑ヲ科セラルヘキモノトス而シテ刑法カ故殺罪ノ情狀ヲ常ニ重シトナス原由ハ或ハ其犯行手段ニ關スルコトアリ或ハ其犯行ノ目的ニ關スルコトアリ即チ

一　殘虐ナル手段ニ依ル故殺罪　此罪ニ付テハ殺害ノ手段ノ殘虐ナルコトヲ必要トス故ニ既ニ生命ヲ絶チタル以後ニ於テ手足ヲ切斷シタルカ如キハ固ヨリ本罪ニハ該當セス而シテ支解トハ身體ヲ分解スルヲ謂ヒ折割トハ四肢ヲ切斷スルヲ謂ヒ共ニ殘虐行爲ノ法律上ノ例示タルニ過キス

二　重罪又ハ輕罪ヲ犯スニ便宜ニスル目的ニ出テタル故殺罪　目的トハ遠因ヲ謂フ故ニ本罪ハ遠因ヲ法定シタル罪種ニ屬ス便宜ニスト云フハ容易ナラシムルコト又ハ障礙ヲ除クコトヲ謂ヒ重罪又ハ輕罪ト云フハ行爲者ノ意思ニ依リ定マルヘキモノニアラスシテ客觀的ニ定マルヘキモノナルカ如ク特ニ其罪態ノミニ關シテ告訴等ノ訴追條件等ニハ關係セサル如シ本罪ニ付テハ學者或ハ其重罪又ハ輕罪ノ一部ニ着手シタルコトヲ要ストナスモノアリ獨逸刑法第二百九十四條ノ如キハ可罰行爲ヲ計畫スル際其實行ニ對スル障礙ヲ除ク爲メ又ハ現場ニ於ケル逮捕ヲ逃ルヽ爲メニ犯意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ……云々ト規定セルヲ以テ獨逸刑法論トシテハ少ナクトモ重罪又ハ輕罪ノ準備行爲アルコトヲ必要トスヘケレトモ我刑法ノ解釋トシテハ單ニ將來重罪又ハ輕罪ヲ犯スニ便宜ニスル目的ニ出テタルコトヲ以テ足レリトスヘシ

三　重罪又ハ輕罪ニ付キ訴追ヲ免カルヽ目的ニ出テタル故殺罪　本罪モ亦遠因ヲ法定シタル罪種ニ屬シ重罪又ハ輕罪モ亦前ニ述ヘタル如ク客觀的ニ定ムヘキモノトス刑法ハ其罪ヲ免カルヽ爲メト規定スレトモ罪ヲ免カルヽトハ云フハ全然無意味ナリ或ハ罪ノ直接ノ結果タル訴追ヲ免カルヽコトヲ謂フモノナルヘシ三十二年度分刑法改正案ニ依ルトキハ本罪ヲ修正シテ其刑ヲ

免カルヽ爲メトナセリ然レトモ刑ヲ免カルヽト云フ語句ノ解釋トシテハ到底採用スルコトヲ得サルナリ

第二目　準故殺罪及ヒ其科刑

準故殺罪ハ刑法第二百九十七條ノ前段ニ之ヲ規定シタルモノ即チ詐稱誘導シテ他人ヲ危害ニ陷レ之ヲ殺シタル行爲ニ關ス詐稱誘導トハ要スルニ欺罔スルコトヲ謂フ危害トハ本條ニ付テハ生命ニ危險ナル地位ヲ謂フ刑法ハ人ヲ殺ス意ニ出テト規定スレトモ是レ死ニ致シト客觀的ニ規定シタル結果ニ過キサルヲ以テ既ニ上ニ述ヘタル如ク人ヲ殺シタル行爲ト云フナレハ殺意ヲ要スヘキコトモ自明ノ理ナリ本罪ニハ殺意アルモ純タル故殺ノ如ク直接ニ其身體ニ暴行ヲ加ヘ生命ヲ絶チタルニハアラスシテ他人ノ意思ニ因リテ自ラ危害ノ地位ニ立チ遂ニ其生命ヲ絶ツニ至リタルモノナルヲ以テ之ヲ故殺ニ準シタルナリ然レトモ不作爲ニ依リテ故殺罪ヲ犯スコトヲ得ルトハ近時ノ學說ノ一般ニ認ムル所ナリトセハ本罪ノ如キハ勿論特別ノ明文ヲ必要トセスシテ純タル故殺罪タルヘク特ニ之ヲ故殺ニ準スヘキモノニアラス要スルニ本條ハ現時ニ於テハ既ニ不必要ノ條項ニ屬セルモノト謂ハサルヘカラス

本罪ハ準故殺ナリ故ニ苟モ事實上適用アル限リハ或場合ニ於テハ通常ノ故殺罪ニ又或場合ニ於テハ特別ノ故殺罪ニ準セラルヘキコトハ勿論ナリトス

第三項　謀殺ノ罪及ヒ其科刑

第一目　謀殺罪及ヒ其科刑

謀殺罪トハ熟慮ニ因リ生シタル犯意ヲ以テ囑託ヲ受ケスシテ他人ノ生命ヲ絶ツ行爲ニ關シ常ニ死刑ヲ科セラルヘキモノトス所謂嬰兒殺ト雖モ熟慮ニ因リテ生シタル犯意ニ出テタルトキハ之ヲ謀殺罪トナスヘキコトハ勿論ナルモ其犯情カ大ニ憐ムヘキモノアル結果トシテ現今ノ判決例ハ常ニ故殺罪ヲ以テ之ヲ論シ二等ノ酌量減輕ヲ適用シテ結局重懲役九年ヲ科ス斯ノ如ク法律ヲ曲解セサルヘカラサルコトハ唯不當ニ謀故殺罪ノ區別ヲ認メタル結果ニ外ナラスシテ又以テ殺害罪ヲ謀殺及ヒ故殺ニ區別スル法制ノ眞價ヲ知リ難カラス外國ノ立法例ハ謀故殺ノ區別ヲ認メタルモノト雖モ尙ホ嬰兒殺ヲ

以テ情狀輕キ殺人罪トナシ之ヲ通常謀殺罪トハナサス

第二目　準謀殺罪及ヒ其科刑

準謀殺罪ニ對スル刑ハ固ヨリ死刑ニシテ二種アリ

第一　毒殺罪　毒殺罪トハ毒物施用ヲ手段トシテ他人ノ生命ヲ絶ツ行爲ニ關ス蓋シ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺ス場合ニ於テモ或ハ感激ニ因リテ生シタル犯意ニ出テタルコト全然無シト云フ能ハサレトモ此種類ノ故殺ノ情狀ハ常ニ重キモノトナシ苟モ毒物施用ヲ手段トスル殺害罪ナルトキハ其犯意ノ熟慮ニ因リテ生シタルト感激ニ因リテ生シタルトヲ區別セス常ニ準謀殺罪トシテ處斷スヘキモノトナセリ而シテ毒殺罪ハ其故殺ニアラサル場合ニ於テハ常ニ純謀殺罪ヲ以テ論スヘキコト勿論ニシテ特ニ之ヲ謀殺ニ準スル必要ナキナリ故ニ余輩ハ刑法ノ如ク毒物ノ施用ヲ手段トスル故殺罪ヲ重ク處罰スル法制ヲ採用スルトスルモ唯毒物ヲ施用シテ人ヲ故殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ云々ト規定スルヲ以テ足レリトシ又規定セサルヘカラスト信ス

第二　熟慮ニ因リ生シタル犯意ヲ以テ詐稱誘導シテ他人ヲ危害ニ陷レ之ヲ殺シ

タル罪　本罪モ嚴格ニ謂ヘハ當然純粹ノ謀殺罪ニ屬スルモノニシテ特別ノ明文ヲ以テ之ヲ謀殺ニ準スル必要ナキナリ

第四項　餘論

刑法改正案ハ第二編第二十六章ヲ殺人罪ト題シ刑法ノ所謂謀殺罪、故殺罪及ヒ自殺ニ關スル罪ヲ包含セシメタリ而シテ其重ナル修正ト見ルヘキハ左ノ諸點ナリトス

1　殺人ニ關スル特別宥恕制ノ廢止

2　謀殺罪及ヒ故殺罪ノ區別ノ廢止

3　殺人ノ準備行爲ヲ罪トナシタルコト　殺人ノ準備ト云フモ事實上ハ唯所謂謀殺ノ準備ノミニ適用ヲ有スルモノナリ蓋シ準備行爲ヲ罪トセサルコトハ刑法ヲ貫通スル原則ナレトモ既ニ汎論ニ於テ說明シタルカ如ク苟モ公ノ秩序ヲ維持スル上ニ於テ其必要アリトスレハ其準備行爲ト雖モ亦之ヲ罪トセサルヘカラサルコトハ勿論ナリ夫ノ謀殺ノ如キハ其結果重大ナルヲ以テ成ルヘク未然ニ之ヲ處罰シテ其防止ヲ企圖セサルヘカラス故ニ改正案ハ謀殺ニ付テハ單

ニ其未遂ヲ罪トスルヲ以テ足レリトセス尚ホ進テ其準備行爲ヲモ罪ト規定セリ然レトモ準備行爲ハ一般ニ云フトキハ其情狀輕キヲ以テ之ヲ輕キ罪トナス必要ヲ感シ其本刑ヲ一年以下ノ懲役トシ而シテ其本刑モ亦其情狀ノ如何ニ依リテハ之ヲ免除シ監視ノミニ付スルコトヲ得ルモノト規定セリ改正案ハ尚ホ强盜罪及ヒ放火罪ニ付テモ之ト同一ノ法制ヲ認ムル必要ヲ感シタル如シ

第三款　犯意的傷害罪及ヒ其科刑

第一項　總論

毆打創傷トハ獨逸刑法ニ所謂身體傷害ニ該當スルモノナリ蓋シ正確ニ論スレハ毆打トハ手又ハ手ニ握持セル物ヲ以テ急劇ニ他人ニ接觸セシムル作用ノミヲ謂ヒ創傷トハ身體ノ表面ニ於ケル開口創傷ノミヲ謂フモノナレトモ刑法ノ眞意ニ徵スルニ毆打創傷ト云フ語句ハ斯ノ如ク狹義ニ解釋スヘキモノニアラス

一　毆打トハ刑法上ノ語句トシテハ總テ傷害ヲ生シ得ヘキ行動ヲ謂フト解釋セサルヘカラス故ニ(1)手若クハ手ニ握持セル物ヲ以テ他人ノ身體ニ接觸セシムル行爲即チ所謂打ツ、斬ルノ如ク急劇ニ接觸セシムル行爲ノ如キハ勿論電氣ヲ

感セシムルカ如キ又ハ毒物ニ觸レシムルカ如キ緩漫ニ接觸セシムル行爲モ亦毆打ナリトス(2)蹶ル行爲(3)突キ倒ス行爲(4)他物ニ突キ當ラシムル行爲モ亦毆打ナリ(5)頭髮ノ切斷又ハ毀損ハ毆打ナリヤ否ヤニ付キテハ異說アルヘキモ既ニ身體ノ一部ニ附着スルモノトシテ婦女子ニ付キテハ特別ニ重要ナルモノナルニ拘ハラス刑法上別ニ之ヲ罪トスル明文ヲ缺如スル以上ハ理論上多少妥當ナラストスルモ寧ロ之ヲ毆打ト見ルヲ可トスヘシ但判決例ハ之ヲ毆打ト認メス

二　創傷トハ刑法上ノ語句トシテハ身體又ハ健康ニ關スル異狀ナリト解セサルヘカラス故ニ(1)開口創傷(2)皮下燃衝(3)羅病等ヲ謂フ

斯ノ如ク毆打創傷ナル語句ニ對シテ普通ノ意義以外ノ意義ヲ付スルニアラスンハ刑法上充分ニ其意ヲ解スルコトヲ得ストセハ余輩ハ寧ロ之ヲ傷害罪ト題シテ其方法手段ノ何タルヲ問ハス總テ他人ノ身體ニ傷害ヲ生セシメタル行爲ニ關スルモノナル趣意ヲ明カニスルコトヲ可ナリト信ス

傷害罪トハ犯意ヲ以テ他人ノ身體ヲ傷害スル行爲ニ關ス即チ身體ヲ傷害スル行

爲ニ關スルヲ以テ本罪ノ成立ニ必要ナル犯意ハ他人ノ身體ヲ傷害スルト云フ觀念ナリ刑法ノ立法當時ニ於テハ或ハ毆打創傷罪ヲ以テ純粹ノ結果罪トナシ其主觀的ノ部面ニ於テハ何等ノ條件ヲ必要トセサル如ク解釋シタル者ナキニアラサリシモ其誤謬ナルコトハ言ヲ俟タスシテ傷害罪ト雖モ其成立ニ何等カノ犯意ヲ要スヘキコトハ疑ナキ所トス然ラハ傷害罪ニ必要ナル犯意ハ何ナリヤト云フニ傷害罪ハ純粹ノ結果罪ニアラサルモ尙ホ結果ニ依リテ刑ノ輕重ヲ區別スル所謂結果罪ナリ故ニ其犯意ニ於テ細密ニ其結果ヲ豫知スルヲ要セサルコト明カナリ而シテ學者ノ其犯意ヲ解スル者自ラ二種ノ斷案ヲ下セリ

第一　毆打創傷罪ニ於ケル犯意ハ單ニ毆打ヲ爲ス犯意ナリト解スル者アリ此見解ニ依ルトキハ本罪ノ犯意ハ創傷ヲ加フル犯意アルコトヲ必要トセスシテ單ニ毆打ノ犯意アルコトヲ必要トスルナリ

第二　毆打創傷ニ於ケル犯意ハ毆打ヲ爲シ創傷ヲ爲サシムル犯意ナリトスル者アリ　此種ノ論者ノ言フ所ニ依レハ若シ毆打ヲ爲ス犯意ヲ以テ足レリトスルトキハ犯人ノ豫期セサル結果タル創傷ニ關シテモ其責任ヲ負ハサルヘカラサル奇觀ヲ呈スヘシトナスナリ

傷害罪ハ一種ノ結果罪ナリ然ラハ或程度マテハ豫期セサル結果ニ對シ責任ヲ歸スルコトモ亦其本質上已ムヲ得サルコトニ屬スルヲ以テ余輩ハ此點ニ付テハ必スシモ第一見解ヲ批難セサルナリ然レトモ第一見解ニ依レハ毆打ノ犯意ト云ヘリ蓋シ毆打ハ方法ニシテ疾病トカ又ハ創傷トカ云フハ其結果ナリ故ニ毆打ノ犯意ハ概ネ傷害ノ犯意タルヘシ而シテ若シ毆打ノ犯意ト傷害ノ犯意ト實際上大差ナキモノトセハ余輩ハ毆打ノ犯意ト云ヒテ其方法手段ヲ行フ犯意ヲ掲ケンヨリハ寧ロ傷害ノ犯意ト云ヒテ其結果ヲ生セシムル犯意ヲ掲クルコトヲ可ナリト信ス而シテ身體ト云フハ肉體其モノト其健康トヲ併稱スルモノナルヲ以テ身體ノ傷害ト云フハ廣ク肉體ニ對スル傷害即チ創傷、毆衝及ヒ健康ニ對スル傷害即チ諸機關ノ作用ノ異常等ヲ謂フコト勿論ナリトス

刑法ハ傷害罪ニ共通シテ第三百五條及ヒ第三百六條ノ規定ヲ設ケタリ學者ノ此等ノ條文ヲ解スル者

(一)　或ハ此等ノ條項ハ總則ノ規定上共犯ト云ヒ能ハサル數人カ同一ノ日時ニ同

一ノ場所ニ於テ同一人ヲ傷害シタル場合ニ關スル規定ナリト云ヒ

(二) 或ハ此等ノ條項ハ總則ノ共犯ノ規定ニ對シテ例外ヲ認メタルモノナリ刑法カ二人以上共ニト云ヒ又教唆者ハ減等ノ限リニアラスト云フヲ見テモ其然ル所以ヲ知ルコトヲ得ト云ヒ

(三) 或ハ此等ノ條項ハ凡テ同一ノ日時ニ同一ノ場所ニ於テ同一人ヲ傷害シタル場合ニ關スル規定ニシテ其總則ノ規定上共犯ト云フコト能ハサルモノト否ラサルモノトヲ區別セサルモノナリト云フ

余輩ハ第三ノ見解ヲ可ナリト信スルモノナリ故ニ同一ノ日時ニ同一ノ場所ニ於ケル同一人ノ傷害者ノ處分ニ關シテハ其共犯タルト否ラサルトヲ問ハス凡テ第三百五條及ヒ第三百六條ヲ適用シテ之ヲ處斷セサルヘカラサルナリ

第一　傷害罪ノ下手者　傷害罪ノ下手者ニ對シテハ各其加ヘタル傷害ニ從ヒテ其罪責ヲ論スルナリ其共犯ナル場合ニ於テ總則ノ規定ニ依ルトキハ下手者ハ共同實行者トシテ各正犯トシテ其罪責ヲ負擔セサルヘカラサルモ傷害罪ニ付テハ其適用ヲ有セサルナリ然レトモ傷害罪ニ付テハ各下手者カ其各自カ爲シタル罪責ヲ負擔スヘキモノトナシタル結果或ハ明カニ各自ノ爲シタル罪責ヲ判斷シ難キ場合アルコトヲ豫想セサルヘカラス刑法ハ此場合ヲ豫想シテ共毆シテ傷ヲ爲ス輕重ヲ知リ難キトキハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減スト規定セリ即チ此場合ニ於テハ其傷害中最モ重キ傷害罪ニ科スヘキ刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑ヲ以テ各下手者ニ科スヘキモノトセリ

第二　傷害罪ノ教唆者　教唆者ハ各下手者ノ加ヘタル傷害ニ付テ各下手者ト同一ナル罪責ヲ負擔スヘキモノナリ各下手者ノ加ヘタル傷害ヲ明確ニ判定スルコト能ハサルトキハ各下手者ニハ最モ重キ傷害罪ニ科シタル刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑ヲ科スレトモ教唆者ニハ此特例ヲ及ホサヽルヲ以テ其最重ノ傷害罪ノ正犯トシテ處斷セラルヘキモノナリ

第三　傷害罪ノ幇助者　總則ノ規定上從犯ト云ヒ得ヘキ幇助者モ否ラサル幇助者モ共ニ下手者ノ刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑ヲ科セラルヽヘシ

上ニ述ヘタルモノハ毆打創傷ニ付テノ共毆者ノ處分ナリ而シテ刑法ハ疾病創傷ニ至ラサル毆打罪ハ毆打創傷罪中ニ規定セスシテ刑法第四百二十五條第九號ニ

規定セルヲ以テ上述ノ特例ハ之ニ適用スヘカラサルモノトス

刑法ハ第三百四條ニ於テ所謂誤傷ノ場合ヲ規定スレトモ其不必要又不妥當ナルコトハ誤殺ノ場合ニ於テ述ヘタル所ニ同シ

第二項　傷害罪及ヒ其科刑

傷害罪トハ前ニ述ヘタル如ク他人ノ身體ヲ傷害スル行爲ニシテ通常傷害罪ト特別傷害罪トノ區別アリ

第一　通常ノ傷害罪

一　傷害カ死去ヲ惹起シタルトキ　其刑ハ重懲役ナリ

二　傷害カ篤疾ヲ惹起シタルトキ　篤疾トハ刑法上兩目ノ視能ノ喪失、兩耳ノ聽能ノ喪失、兩手又ハ兩足ノ挫折、斷舌、生殖作用ノ不能、智覺精神ノ喪失ヲ謂フモノニシテ其刑ハ輕懲役ナリ

三　傷害カ癈疾ヲ惹起シタルトキ　癈疾トハ刑法上一目ノ視能ノ喪失、一耳ノ聽能ノ喪失、一手又ハ一足ノ挫折等凡テ身體ヲ不具ニスルコトヲ謂フモノニシテ其刑ハ二年乃至五年ノ重禁錮ナリ癈疾トハ一耳一目一手足ニ付テ云フモノナルヲ以テ一目一耳一手又ハ一足ノミヲ有スル者ヲ癈疾ニ致シタル者ノ處分如何ニ付テハ多少ノ疑アレトモ刑法ノ明文上單ニ一目一耳云々ト規定セル以上ハ其二目二耳其他ヲ有スルト否トヲ論セス其數ニ依リテ決定セサルヘカラス

四　傷害カ二十日間以上疾病ニ羅リ又ハ業務ヲ營ミ難キ結果ヲ惹起シタルトキ　業務ヲ營ミ難キ狀況ハ人ノ業務ノ種類ニ因リテ長短ノ差異ヲ生スヘシ而シテ本罪ノ刑ハ一年乃至三年ノ重禁錮ナリ

五　傷害カ二十日間以下ノ疾病ニ羅リ又ハ業務ヲ營ミ難キ結果ヲ惹起シタルトキ　本罪ノ刑ハ一月乃至一年ノ重禁錮ナリ

六　傷害カ疾病ニ羅リ又ハ業務ヲ營ミ難キ結果ヲ惹起セスト雖モ傷害ヲ爲シタルトキ　刑法ハ創傷ト規定スレトモ前述セル如ク創傷又ハ疾病ヲ包含スルモノナルコト勿論ナリ本罪ノ刑ハ十一日乃至一月ノ輕禁錮ナリ

上ニ述ヘタル一乃至六ノ罪ハ皆激發ニ因リ生シタル犯意ニ出テタル傷害罪ニ關スルヲ以テ健康ヲ害スヘキ物ヲ使用シテ人ヲ疾苦セシメタル行爲ハ或場合

ニ於テハ通常ノ傷害罪タルヘキモノナルモ刑法第三百七條ニ依ルトキハ常ニ豫謀ニ出テタル傷害ヲ以テ論スルカ故ニ此種類ノ通常ノ傷害罪ハ所謂通常ノ傷害罪ニハアラサルナリ

第二　特別ノ傷害罪

一　豫謀ニ出テタル傷害罪　豫謀ニ出テタル傷害ニ二種アリ

（イ）豫謀的傷害罪　豫謀ニ出テタル傷害ニ對シテハ其傷害カ通常ノ傷害罪ニ付キ説明シタル一乃至六ノ孰レノ結果ヲ惹起シタルヤニ從テ各通常ノ傷害罪ニ付キ規定シタル刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科スヘキモノトス

（ロ）準豫謀的傷害罪　本罪ノ刑ハ豫謀的傷害罪ノ刑ニ同シク健康ヲ害スヘキ物品即チ毒物ヲ使用シテ人ヲ疾苦セシメタル行爲ニ關ス而シテ此場合ニ於テハ事實上激發ニ因リ生シタル犯意ニ出テタル場合ト雖モ之ヲ通常ノ傷害罪トナスコト能ハサルハ勿論ナリ

二　重罪又ハ輕罪ヲ犯スニ便宜ニスル目的ニ出テタル傷害罪　本罪ノ刑ハ豫謀的傷害罪ニ對スル刑ニ同シ

三　重罪又ハ輕罪ニ付キ訴追ヲ免カルヽ目的ニ出テタル傷害罪　本罪ノ刑モ亦豫謀的傷害罪ニ對スル刑ニ同シ

第三項　準傷害罪及ヒ其科刑

準傷害罪ハ刑法第三百八條ノ規定スル所ニシテ詐稱誘導シテ他人ヲ危害ニ陷レ之ヲ傷害シタル行爲ニ關ス其傷害ノ結果カ死去、篤疾、廢疾、二十日間以上ノ罹病又ハ休業ヲ要スルモノナルト二十日間以下ノ罹病又ハ休業ヲ要セサルモノナルトヲ區別シ各通常又ハ特別ノ傷害罪ニ準シテ處斷スヘキモノトス

第四項　餘論

刑法改正案ハ廢疾ニ致シタル傷害罪及ヒ篤疾ニ致シタル傷害罪又ハ豫謀ニ出テタル傷害罪及ヒ豫謀ニ出テサル傷害罪ノ區別ヲ廢止シ婦女ノ頭髮ノ切斷又ハ毀損ヲ以テ傷害罪ト規定シタリ

改正案ハ又第二百四十四條ニ於テ二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能

ハサルトキハ共同者ニアラスト雖モ其犯ノ例ニ依ルト規定シタリ是レ刑法第三百五條後段ノ規定ニ該當スルモノナレトモ左ノ諸點ニ付キ修正ヲ加ヘタルナリ

一　本條ハ共同者ニアラスシテ同時ニ同一人ヲ傷害シタル者ニ其適用ヲ有スルコトヲ明定シタリ

二　處分例ハ共犯シタルト否トヲ區別セス一ニ共犯例ニ依ルナリ故ニ刑法ノ法制ノ如ク重傷ノ刑ニ一等ヲ輕減シタル刑ヲ科スヘキモノニアラス

三　傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサル場合ニモ本條ヲ適用セリ刑法ハ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサル場合ヲ豫想スルノミナルヲ以テ一個ノ創傷ノミヲ生シタル場合ニ於テハ其適用アリヤ否ヤノ疑アリ改正案ハ此疑ヲ明確ニシタリ

刑法改正案ハ傷害ヲ爲スニ至ラサル暴行ヲ輕罪トシテ之ヲ申告罪トナシタリ蓋シ事急ニ應シタル修正ト謂ツヘシ

第二節　過失殺傷罪及ヒ其科刑

過失ノ何タルヤニ付テハ既ニ汎論ニ於テ述ヘタル所ナルヲ以テ今茲ニ之ヲ說カ

ス刑法ハ過失殺害及ヒ疾病休業ニ致シタル過失傷害ヲ罪ト規定シタレトモ疾病休業ニ至ラサル過失傷害ニ付テハ何等ノ條項ヲモ設ケサルヲ以テ罪ト爲ラスト云ハサルヘカラス

第一　過失殺害罪　或行爲ヲ爲シ過失ニ因リテ其結果他人ヲ死去ニ致シタルトキハ二十圓乃至二百圓ノ罰金ヲ科ス

第二　過失傷害罪　或行爲ヲ爲シ其結果他人ヲ廢篤疾ニ致シタル者ニハ十圓乃至百圓ノ罰金ヲ科シ其他他人ヲ疾病休業ニ致ス程度ニ於テ傷害シタル者ニハ二圓乃至五十圓ノ罰金ヲ科ス

刑法改正案ハ過失ハ疎虞懈怠又ハ規則慣習ノ不遵守ニ因ルコトヲ必要トセス蓋シ疎虞又ハ懈怠ハ過失自體ナルヲ以テ過失ト云フ語句以外ニ更ニ之ヲ明記スル必要ナキナリ又規則慣習ヲ遵守セサルコト自體ヲ以テ過失トナスコトハ不當ノ甚タシキモノニシテ規則慣習ヲ遵守セスシテ過失アリタリトセハ疎虞又ハ懈怠ノ孰レカナラサルヘカラスシテ特別ニ疎虞又ハ懈怠以外ニ之ヲ明記スルノ必要ナキナリ而シテ改正案ハ過失殺傷罪ハ全部之ヲ申告罪トナシ尙ホ近時ノ學說ニ

從ヒ業務上特別義務ヲ有スル者ノ過失殺傷ヲ情狀重キ過失殺傷罪ト規定シタリ」

第三節　自殺ニ關スル罪及ヒ其科刑

自殺トハ自己カ其生命ヲ絶ツ行爲ヲ謂フ我國ニ於テハ自殺ハ從來寧ロ之ヲ奬勵シ來リタルヲ以テ從テ其教唆又ハ幇助モ道德上及ヒ法律上ニ於テ之ヲ罪トシタルコトナシ歐洲諸國ノ沿革ニ依ルトキハ羅馬法ニ於テハ既ニ兵士ノ自殺ヲ罪トシ其自殺未遂ヲ罰シタリ獨逸ニ於テハ從來或ハ自殺者ニ對シテ凌辱的ノ埋葬ヲ爲シ一般ニ自殺未遂ヲ罪トシ或ハ自殺者ハ賤民ヲ以テ埋葬セシメ自殺未遂者ハ改善ノ爲メ之ヲ拘禁シタルニ拘ハラスモンテスキユー及ヒボルテア等ノ哲學ノ影響ニ因リ現今ニ於テハ自殺、自殺ノ教唆又ハ幇助ヲ總テ罪トセス英米ニ於テハ現時ニ於テモ自殺ヲ罪トセルカ如シ我刑法ハ主トシテ佛國ノ法制ヲ繼承シタルモノニシテ自殺ニ關シテハ

一　自殺ハ之ヲ罪トナサヽルノミナラス自傷モ亦之ヲ罪トセス然レトモ兵役ヲ免カルヽ目的ニ出テタル自傷ノミハ之ヲ罪トシタルコトハ既ニ前述セル如シ」

二　自殺ノ教唆、幇助ハ之ヲ罪トスノ法制ヲ採用シ殺害罪以外ニ特ニ自殺ニ關スル罪ヲ規定セリ

第一　自殺ノ教唆罪　自殺ハ罪ニアラス故ニ自殺ニ付テハ總則ノ所謂教唆犯アルヘキニアラス刑法第三百二十條及ヒ第三百二十一條ノ罪ハ所謂教唆罪即チ教唆行爲カ一定ノ事實ヲ現出セシメタル事實自體ヲ罪トナシタルモノニ屬ス」

一　通常ノ自殺教唆罪　本罪ハ一定ノ事實及ヒ行爲ニ因リテ成立ス而シテ其刑ハ主刑トシテ六月乃至三年ノ輕禁錮、附加刑トシテ十圓乃至五十圓ノ罰金トス

(イ)　他人ニ對シテ自殺ヲ教唆スル行爲

(ロ)　他人カ教唆ニ因リテ自殺シタル事實　他人カ自殺シタルコトヲ要スルヲ以テ他人カ自殺ヲ中止シ又ハ自殺カ未遂ナルトキハ本罪ハ成立セサルノミナラス本罪ハ輕罪ナルヲ以テ罰スヘキ未遂モ亦成立セス

二　特別ノ自殺教唆罪　本罪ハ情狀ノ重キ自殺教唆罪ニシテ其情狀ヲ重シトスルハ自己ノ利ヲ圖ル目的ニ出ツルヲ以テナリ自己ノ利ヲ圖ルトハ必スシモ金錢上ノ利益ノミヲ謂フニアラスシテ廣ク自己ニ便宜ヲ圖ルコトヲ謂フ

ニ外ナラス

(イ) 自己ヲ利スル目的ヲ以テ他人ニ對シ自殺ヲ教唆スル行爲

(ロ) 他人カ教唆ニ因リテ自殺シタル事實

本罪ノ刑ハ重懲役ナリ即チ本罪ハ重罪ニ屬ス故ニ本罪ノ未遂ハ之ヲ罪トセサルヘカラス然ラハ本罪ノ未遂ハ如何ナル程度ニアルコトヲ要スルカト云フニ多少ノ疑ナキニアラサルモ余ハ他人カ自殺ニ着手シタル程度ヨリ生命ヲ絶ツニ至ラサルマテノ程度ニアルコトヲ必要トスト信ス換言スレハ教唆自體ノ未遂ハ本罪ノ罰スヘキ未遂ニアラスト信ス(?)

第二 自殺幇助罪 自殺幇助罪ハ自殺者ニ對シ實行行爲又ハ準備行爲ヲ以テ之ヲ幇助スル行爲ニ關スルナリ

一 實行行爲ニ依ル幇助罪 自殺ノ實行行爲トハ即チ自殺者ノ生命ヲ絶ツ行爲ナルヲ以テ此種類ノ幇助罪ハ純然タル傷害罪ニ屬セリ而シテ其本質上殺害罪ニ屬スル行爲ヲ自殺幇助罪ト認メ得ヘキ必須ノ條件ハ自殺者ノ囑託ヲ受ケタルコトニアリトス然ラハ既ニ自殺者ヲ幇助シ手ヲ下シタル者ハト規

定スル以上ハ其囑託ヲ受ケタルニ因ルヘキコトハ當然分明ナルヘキ事項ニ屬スヘキカ如シ而シテ本罪ノ刑ハ主刑トシテハ六月乃至三年ノ重禁錮、附加刑トシテハ十圓乃至五十圓ノ罰金トス

本罪ハ輕罪ナリ故ニ本罪ニ付テハ罰スヘキ未遂ノ成立セサルコト勿論ナリ然レトモ自殺者ノ囑託ニ因リ實行行爲ヲ以テ自殺ヲ幇助シタル者カ單ニ生命ヲ絶ツニ至ラサル傷害ヲ加ヘタルニ止マリタル場合ニ於テハ之ヲ傷害罪トシテ處罰スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ多少ノ疑ナキニアラス蓋シ汎論ニ於テ既ニ說明シタル如ク身體又ハ生命ノ如キハ承諾ニ依リ拋棄シ能ハサル法物タルニ拘ハラス傷害罪ニ付テハ被害者ノ承諾アリタル場合ニ於テハ罪ハ成立セサルモノナルコトヲ明カニ定メタル條項ナシ故ニ傷害罪ハ被傷害者ノ承諾又ハ囑託ヲ受ケテ傷害シタル場合ニ於テモ亦成立スルモノナリ今本問ノ場合ニ於テ囑託ヲ受ケテ死去ニ致ス行爲ノミハ特別ノ明文ヲ以テ之ヲ特別罪ト規定スレトモ囑託ヲ受ケテ傷害ニ致シタル行爲ニ付テハ何等ノ規定ナキナリ然ラハ本問ノ行爲ハ當然傷害罪トシテ處斷セサルヘカラサ

ルカ如シ然レトモ斯ノ如ク論スルトキハ囑託ヲ受ケテ死去ニ致シタル行爲ハ比較的ニ輕キ刑ヲ科スヘキ罪ト爲リ囑託ヲ受ケテ傷害ニ致シタル行爲ハ比較的ニ重キ刑ヲ科スヘキ罪ト爲ルヘクシテ或ハ刑法ノ眞意ニ反セサルヤノ感アリ故ニ或ハ曰フ他人ヲ殺害スル意思ハ常ニ之ヲ傷害スル意思ヲ包含セサルヲ以テ本問ノ行爲ハ時ニ犯意ヲ欠缺スル傷害行爲ト爲ルヘキヲ以テ殺害ノ犯意アルノミナラス尙ホ傷害ノ犯意ヲモ有シテ之ヲ爲シタル場合ニ於テノミ之ヲ傷害罪トナスヘシト然レトモ殺害ハ傷害ヲ唯一ノ手段トスルモノニシテ傷害ヲ爲スニアラスンハ殺害ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ余輩ハ殺害ノ犯意ハ常ニ傷害ノ犯意ヲ包含ストノ前提ニ於テ尙ホ論者ノ說ヲ排斥セント欲ス

二　準備行爲ニ依ル幇助罪　自殺ノ準備行爲トハ例ヘハ兇器ヲ貸與スルコト塲所ヲ給與スルコト其他ヲ謂フ而シテ本罪ノ刑ハ實行行爲ニ依ル者ノ刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑トス

刑法改正案ハ自殺ノ敎唆又ハ幇助ヲ殺人罪ノ一種トシ之ヲ第二十六章殺人ノ罪中ニ規定セリ第二百三十八條ニハ人ヲ敎唆シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ云々ト規定ス然ラハ改正案ハ準備行爲ニ依ル自殺幇助ハ之ヲ罪トナサヽルト共ニ承諾ヲ得テ他人ヲ殺シタル行爲ハ之ヲ本條ノ罪トセルカ如シ承諾ハ囑託ニアラサルヲ以テ改正案ノ如キ明文ヲ設ケサル現行刑法ノ解釋トシテハ承諾ヲ得テ他人ヲ殺ス行爲ハ當然謀殺若クハ故殺ナリト云ハサルヘカラサル如シ

第四節　擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪及ヒ其科刑

第一款　總論

人ノ自由モ亦一個ノ法物ナリ所謂自由ニハ政治上ノ自由、宗敎上ノ自由及ヒ人身ノ自由ノ區別ヲ爲スコトヲ得レトモ（伊太利刑法）刑法上所謂自由ニ對スル罪ノ關スル所ハ專ラ人身ノ自由ニアリ人身ノ自由ニ付テモ尙ホ意思ニ關スル自由及ヒ動作ニ關スル自由ノ區別ヲ爲スコトヲ得レトモ刑法上所謂自由ニ對スル罪ノ關スル所ハ專ラ動作ニ關スル自由ナリ而シテ刑法上動作ノ自由ニ對スル罪トシテ論スヘキモノニ三種アリ一ハ脅迫ノ罪二ハ略取誘拐ノ罪三ハ即チ逮捕監禁ノ罪是ナ

リ

逮捕監禁ノ罪ハ場所ヲ移ス動作ノ自由ヲ剝奪スル行爲ニ關スルモノニシテ沿革上場所ヲ移ス動作ノ自由ヲ剝奪スル行爲ノ重ナルモノハ監禁又ハ逮捕ナリト速斷シテ遂ニ憲法ニ於テモ其第二十三條ニ「日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ」ト規定シ刑法ニ於テモ其重ナル行爲即チ監禁又ハ逮捕ノ行爲ノミヲ罪ト規定シタルナリ獨逸刑法第二百三十九條第一項ニハ何人タリトモ犯意ニ因リ違法ニ人ヲ拘禁シ又ハ其他ノ方法ニ依リ人身ノ自由ノ行使ヲ褫奪シタル者ハ云々ト規定ス余輩ハ獨逸法ノ如ク逮捕監禁其他ノ方法ニ依リ行動ノ自由ヲ剝奪シタル者ニ付テモ規定スルニアラスンハ刑法ノ目的ヲ達シ難シト信ス

刑法ハ逮捕監禁ノ罪ヲ三個所ニ分テ別ニ之ヲ規定セリ即チ逮捕監禁ノ罪ノ主體カ其職權アル者ナル場合ニ付テハ第二百七十八條乃至第二百八十一條ニ、其客體カ犯人ノ祖父母父母ナル場合ニ付テハ第三百六十三條ニ、通常ノ場合ニ付テハ即チ本節ニ之ヲ規定シタリ是レ種々ノ觀察點ヨリ罪ヲ彙類スル當然ノ結果タルニ過キサレトモ同一ノ罪ヲ數個所ニ排列スルハ法典論トシテハ決シテ喜フヘキコトニアラスト信ス

第一、逮捕

逮捕トハ刑事訴訟法上現行犯罪ニ付キ其犯人ヲ逮捕スル處分又ハ體刑ノ執行ヲ逃カルヽ者ニ對シテ檢事ノ發シタル逮捕狀ニ依リ爲ス處分ヲ謂フモノナレトモ刑法上ニ於テハ何等其意味ヲ定ムヘキ根據ナシ惟フニ逮捕トハ固ヨリ刑事訴訟法上ノ意味ニ解スルコト能ハサルモノニシテ寧ロ刑事訴訟法上ノ逮捕ノ實質タル捕縛即チ制縛ヲ謂ヒ必スシモ繩ノ如キ物ヲ以テ束縛スルヲ要セサルヘシト雖モ直接ニ身體ニ對シテ何等カノ抑制ヲ加ヘ其行動ヲ制限スルコトヲ要スヘシ而シテ第三百六十三條ニ於テ逮捕ヲ豫想セサルコトハ注意ヲ要スヘキ點ナリトス

第二、監禁

監禁トハ一定ノ場所外ニ出テサラシムルコトヲ謂フ即チ逮捕ト異ナリ直接ニ身體ニ對シテ何等ノ抑制ヲモ加ヘスシテ其行爲ヲ制限スルコトヲ謂フ

而シテ

一、或場合ニ於テハ無形的ノ監禁ヲ豫想スルコトヲ得ヘシ　監禁カ器械力ニ依リテ閉鎖セラルヽ場合ニ關スルトキハ之ヲ有形的ノ監禁ト云ヒ器械力ニ依ラスシテ被監禁者ノ精神上器械力ニ依リ閉鎖セラレタルト同樣ノ場合ニ關スルトキハ之ヲ無形的ノ監禁ト云フ有形的ノ監禁カ監禁ナルコト勿論ナレトモ無形的ノ監禁ヲ以テ果シテ刑法上ノ監禁ナリト論スルコトヲ得ヘキヤ否ヤニ付テハ疑アリ無形的監禁ハ主トシテ暴行又ハ脅迫ヲ用ヰルモノニシテ一定ノ場所ヲ去ラントスルニ拘ハラス暴力ヲ以テ之ヲ妨ケ又ハ一定ノ場所ヲ去ラハ害惡ヲ加ヘントノ通知シテ之ヲ妨害スルコトヲ謂フモノニシテ余輩ハ刑法上之ヲ監禁ト云ヒ得ヘキモノナリト信ス而シテ其有形的ナルト無形的ナルトヲ論セス他ニ出入口ノ存在スルト否トハ監禁タルニ何等ノ影響アルナシ獨逸刑法ノ解釋トシテハ學者ノ所謂道德的監禁ヲ認ム即チ浴場ニ於ケル婦女ノ衣服ヲ奪ヒタル結果婦女ヲシテ浴場ニ停マラサルコトヲ得サルニ至ラシムル如キモ亦監禁ナリト云フト雖モ我刑法上ノ解釋トシテハ

道德的監禁ヲ認メ難シト信ス

二、行動ノ自由ヲ有スル者ノミニ付キ豫想スルコトヲ得ヘシ　監禁ハ行動ノ自由ヲ剝奪スルモノナリ故ニ當然行動ノ自由ヲ有スル者ノミニ付テ豫想スルコトヲ得例ヘハ睡眠中ノ者ハ其醒覺後ニアラスンハ之ヲ監禁スルコトヲ得サルナリ而シテ苟クモ行動ノ自由ヲ有スル者ナルトキハ其自由ハ自己カ獨立シテ之ヲ有スルト又他人ニ依テ之ヲ有スルトヲ區別セス故ニ躄者ノ如キハ自身行動ノ自由ヲ有セストヲ雖モ之ヲ監禁スルコトヲ得ルナリ

本罪ハ逮捕又ハ監禁ヲ爲スニ依リテ成立ス或ハ監禁罪ヲ所謂繼續犯ナリト云フモノアリ蓋シ監禁ノ罪ハ多クハ繼續シタル犯行ニ因リテ現出スルモノナレトモ監禁ノ行爲アリタリトセハ監禁ノ狀況カ一定ノ日時ノ間持續セラレストスルモ尙ホ監禁罪トシテ之ヲ論スルコトヲ得換言スレハ余輩ハ監禁ノ罪ハ主トシテ繼續犯ナレトモ必スシモ即成犯ニアラスト云フコト能ハスト信ス

本罪ハ强姦罪又ハ强盜罪等總テ暴行又ハ脅迫ヲ罪態トスル罪ト共ニ俱發スルコトアルヘシ然レトモ本罪カ他ノ罪ノ罪態タルトキハ刑法上固ヨリ本罪ノ成立ヲ